

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第483集

ぬま ぶくろ
沼袋遺跡発掘調査報告書

一般県道田野畑岩泉線緊急地方道路整備事業関連遺跡発掘調査

2006

岩手県宮古地方振興局岩泉土木事務所
(財)岩手県文化振興事業団
埋 藏 文 化 財 セン タ ー

沼袋遺跡発掘調査報告書

一般県道田野畠岩泉線緊急地方道路整備事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包含地があり、10,000ヵ所に及ぶ遺跡が確認されております。先人の残した文化遺産を保護し保存していくことは私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、快適な生活を送るための地域開発と社会資本の充実もまた県民の切実な願いであります。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって消滅する遺跡について、歴史資料・史料としての遺跡情報の記録保存を目的とした調査・研究を行ってまいりました。

本報告書は、一般県道田野畠岩泉線緊急地方道路整備事業に伴って平成16年度に行われた沿岸遺跡の発掘調査の結果をまとめたものであります。調査によって縄文時代後期を主体とする造構・遺物や弥生時代の土器が出土しました。また、中世以降の調査では掘立柱建物跡と陶器・古銭などの遺物が発見され、本県沿岸北部においては貴重な資料を多数得ることができました。この報告書が広く活用されることで、東北地方における地方史研究の発展や、埋蔵文化財に対する県民の理解を深めるための一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査および報告書作成にご理解とご協力を賜りました岩手県宮古地方振興局岩泉土木事務所、田野畠村教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成18年2月

財團法人 岩手県文化振興事業団
理事長 合 田 武

例　　言

- 1 本報告書は、岩手県下閉伊郡田野畠村尾肝要118-3他に所在する沼袋遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の発掘調査は「一般県道田野畠岩泉線緊急地方道路整備事業」に関わる事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と岩手県宮古地方振興局岩泉土木事務所との協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 本遺跡の調査成果の概略は、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第469集『平成16年度発掘調査報告書』に公表しているが、本書の内容を優先するものとする。
- 4 本遺跡の岩手県遺跡台帳番号と遺跡略号は、以下のとおりである。

　　遺跡台帳番号……K G 21-0127

　　遺跡略号……N B -04

- 5 野外の調査期間・調査面積・調査担当者は、以下のとおりである。

　　調査期間　　平成16年5月19日～10月5日

　　調査面積　　4,910m²

　　担当者　　米田 寛・立花 裕

- 6 室内整理期間及び整理担当者は、以下のとおりである。

　　整理期間　　平成16年11月1日～平成17年3月31日

　　担当者　　米田 寛・立花 裕

- 7 野外調査での遺構写真撮影は調査員、遺物写真撮影は当センター写真撮影を専門とする期限付き職員と米田が担当した。

- 8 本報告書の執筆はIを岩手県宮古地方振興局岩泉土木事務所、II～VIを米田が担当し、編集・校正は米田が行った。

- 9 出土遺物の鑑定・分析及び業務委託は次の機関に委託した。

　　石質鑑定……花崗岩研究会　　黒曜石産地同定分析…㈱第四紀地質研究所

　　火山灰同定…㈱古環境研究所　　遺構内土壤分析…パリノ・サーヴェイ株式会社

- 10 発掘調査・整理作業・報告書作成にあたって以下の方々に御教示・御協力をいただいた。(敬称略)
　　安達尊伸(田野畠村教育委員会)、井上雅孝(滝沢村教育委員会)、神原雄一郎(盛岡市教育委員会)、小林正史(北陸短期大学)、中村公宣(函館市博物館)

- 11 本報告書に掲載した地図等には、図中にスケールを付した。使用した地図・地形図は以下の通りである。

　　国土交通省国土地理院1:25,000地形図「沼袋」(N J-54-13-1-3)

- 12 本遺跡から出土した遺物及び調査に関わる資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。

目 次

I 調査に至る経過	1	V まとめ	
II 遺跡の立地と環境		1 遺構	89
1 地形と気候	1	2 遺物	90
2 周辺の遺跡	4	3 近世墓碑の年代論的位置	91
III 調査の方法		VI 考察	
1 発掘調査	8	1 繩文時代後期における土器の 野焼き方法	92
2 室内整理	12		
3 掲載図版・表解説	15	VII 分析・鑑定	
4 基本上層	18	1 分析目的	99
IV 遺構・遺物		2 沼袋遺跡土壤理化分析	99
1 概要	19	3 火山灰屈折率測定分析	102
2 遺構	19	4 沼袋遺跡出土の近世人骨	103
3 遺物	45	5 沼袋遺跡黒曜石産地分析	107
		報告書抄録	149

表 目 次

第1表 周辺の遺跡	6	第5表 土製品・粘土塊観察表	86
第2表 遺構計測表(柱穴)	46	第6表 石器観察表	86
第3表 遺構計測表(土坑)	48	第7表 陶器観察表	88
第4表 土器観察表(縄文～弥生)	76	第8表 金属器観察表	88

図版目次

第1図 岩手県全図と遺跡の位置	2	第32図 1号埋設土器、1号捨て場出土土器(1)	50
第2図 田野畠村内の遺跡	3	第33図 1号捨て場出土土器(2)	51
第3図 沼袋遺跡と周辺の遺跡	5	第34図 1号捨て場出土土器(3)	52
第4図 調査区グリッド設定図	9	第35図 1号捨て場出土土器(4)	53
第5図 B区遺構配置図(1)	10	第36図 1号捨て場出土土器(5)	54
第6図 B区遺構配置図(2)	11	第37図 1号捨て場出土土器(6)	55
第7図 B区遺構配置図(3)	12	第38図 1号捨て場出土土器(7)	56
第8図 C区遺構配置図、 ロングセクション(1)	13	第39図 1号捨て場出土土器(8)、 2号捨て場出土土器(1)	57
第9図 C区ロングセクション(2)	14	第40図 2号捨て場出土土器(2)	58
第10図 石鐵平面類型	16	第41図 2号捨て場出土土器(3)	59
第11図 石鍛造存類型	17	第42図 2号捨て場出土土器(4)	60
第12図 基本土層図	18	第43図 2号捨て場出土土器(5)、 B区遺構外出土土器	61
第13図 1号掘立柱建物跡	20	第44図 C区遺構外出土上器	62
第14図 2号掘立柱建物跡	21	第45図 土製品(1)	63
第15図 3号掘立柱建物跡(1)	22	第46図 土製品(2)	64
第16図 3号掘立柱建物跡(2)	23	第47図 土製品(3)	65
第17図 4号掘立柱建物跡	24	第48図 石器(1)	66
第18図 5号掘立柱建物跡	25	第49図 石器(2)	67
第19図 6号掘立柱建物跡	27	第50図 石器(3)	68
第20図 7号掘立柱建物跡	29	第51図 石器(4)	69
第21図 8号掘立柱建物跡	30	第52図 石器(5)	70
第22図 9号掘立柱建物跡	31	第53図 石器(6)	71
第23図 1~4・6・7号土坑	33	第54図 陶器、鉄製品	72
第24図 5号土坑	35	第55図 煙管、錢貨	73
第25図 8~10号土坑	37	第56図 近世墓碑(1)	74
第26図 B区柱穴群(1)	38	第57図 近世墓碑(2)	75
第27図 B区柱穴群(2)	39	第58図 黒斑の分布(沼袋遺跡)	95
第28図 1号捨て場	41	第59図 黒斑の分布(石倉貝塚①)	96
第29図 2号捨て場	43	第60図 黒斑の分布(石倉貝塚②)	97
第30図 1号埋設土器、1号焼土遺構、 墓碑集中部	44	第61図 清水遺跡後期層の深鉢	97
第31図 土坑、柱穴内出土土器	49		

写真図版目次

写真図版1 B区調査風景、1号 捨て場遺物出土状況	114	写真図版17 墓碑集中部、試掘、 周辺の近世～近代供養碑	130
写真図版2 2号捨て場	115	写真図版18 土器（1）	131
写真図版3 C区完掘、層序（1）	116	写真図版19 土器（2）	132
写真図版4 C区層序（2）	117	写真図版20 土器（3）	133
写真図版5 1号掘立柱建物跡	118	写真図版21 土器（4）	134
写真図版6 2号掘立柱建物跡	119	写真図版22 土器（5）	135
写真図版7 3・4号掘立柱建物跡 (1)	120	写真図版23 土器（6）	136
写真図版8 3・4号掘立柱建物跡 (2)	121	写真図版24 土器（7）	137
写真図版9 5・6号掘立柱建物跡	122	写真図版25 土器（8）	138
写真図版10 7号掘立柱建物跡	123	写真図版26 土器（9）	139
写真図版11 8号掘立柱建物跡	124	写真図版27 土器（10）	140
写真図版12 9号掘立柱建物跡	125	写真図版28 土器（11）	141
写真図版13 1～4号土坑	126	写真図版29 土器（12）	142
写真図版14 5～8号土坑	127	写真図版30 土製品	143
写真図版15 9・10号土坑、1号理設土器、 1号焼土	128	写真図版31 石器（1）	144
写真図版16 B区柱穴群、1号溝跡	129	写真図版32 石器（2）	145
		写真図版33 石器（3）	146
		写真図版34 陶器、鉄製品、煙管、錢貨	147
		写真図版35 近世墓碑	148

I 調査に至る経過

沼袋遺跡は、一般県道田野畠岩泉線緊急地方道路整備事業沼袋地区の事業区域内に位置しているため、当該事業の施行に伴い発掘調査を実施することとなったものである。

一般県道田野畠岩泉線緊急地方道路整備事業は、下閉伊郡田野畠村沼袋地区内の交通の隘路を解消し、通行車両の円滑な通行と歩行者の安全を確保することを整備目的とし、平成13年度から事業着手している。(平成13年～平成14年：地方特定道路整備事業 平成15年～：緊急地方道路整備事業)

これに係る埋蔵文化財包蔵地の取扱いについては、平成15年10月1日付「岩土第222号」により宮古地方振興局岩泉土木事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長に試掘調査についての依頼があり、岩手県教育委員会は平成15年11月5日試掘調査を実施した。その結果、平成15年11月25日付「教生第1423号」により沼袋遺跡の発掘調査が必要となったことから岩手県教育委員会と岩泉土木事務所が協議を行い、発掘調査を財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに委託することとなったものである。

(岩手県宮古地方振興局岩泉土木事務所)

II 遺跡の立地と環境

1 地形と気候

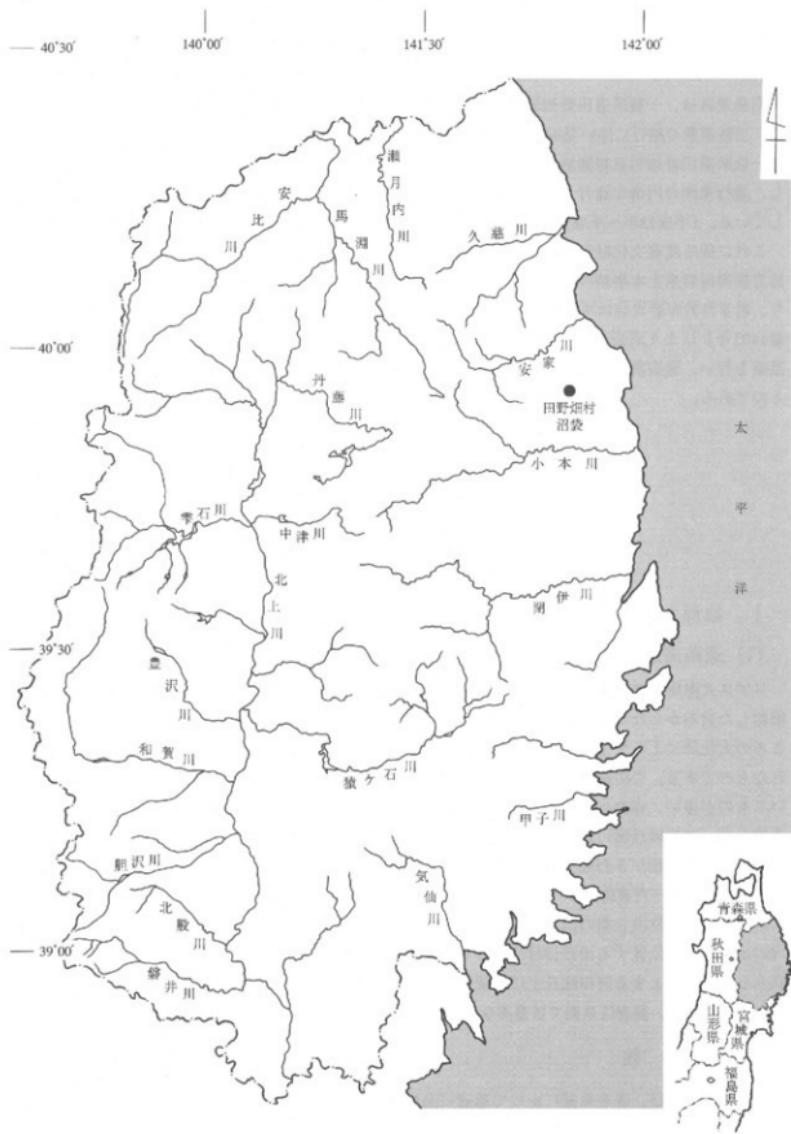
(1) 遺跡周辺の地形

リアス式海岸が発達する三陸海岸中・南部とは対照的に、宮古市よりも北の海岸線は比較的平滑で、固結した岩石からなる高い海食崖が連なっている。宮古以南のリアス式海岸が第三紀末～第四紀初頭ころの大沈降によって生じたのに対し、沿岸北部の段丘は第四紀における海食と隆起によって形成されたものである。この地域の河川は侵食力が弱く、海岸崖に小規模な沢や滝を形成して海に流入しているものが多い。標高100～300mには、最終間氷期よりも古い段階の海進によって形成された広い海成段丘面(高位段丘面)が分布している。最終間氷期に形成された中位段丘面は標高30～50mに分布しているものの幅がきわめて狭く、遺跡が多く分布する高位段丘面とくらべると完新世における人類生活の舞台となった痕跡は少ない。

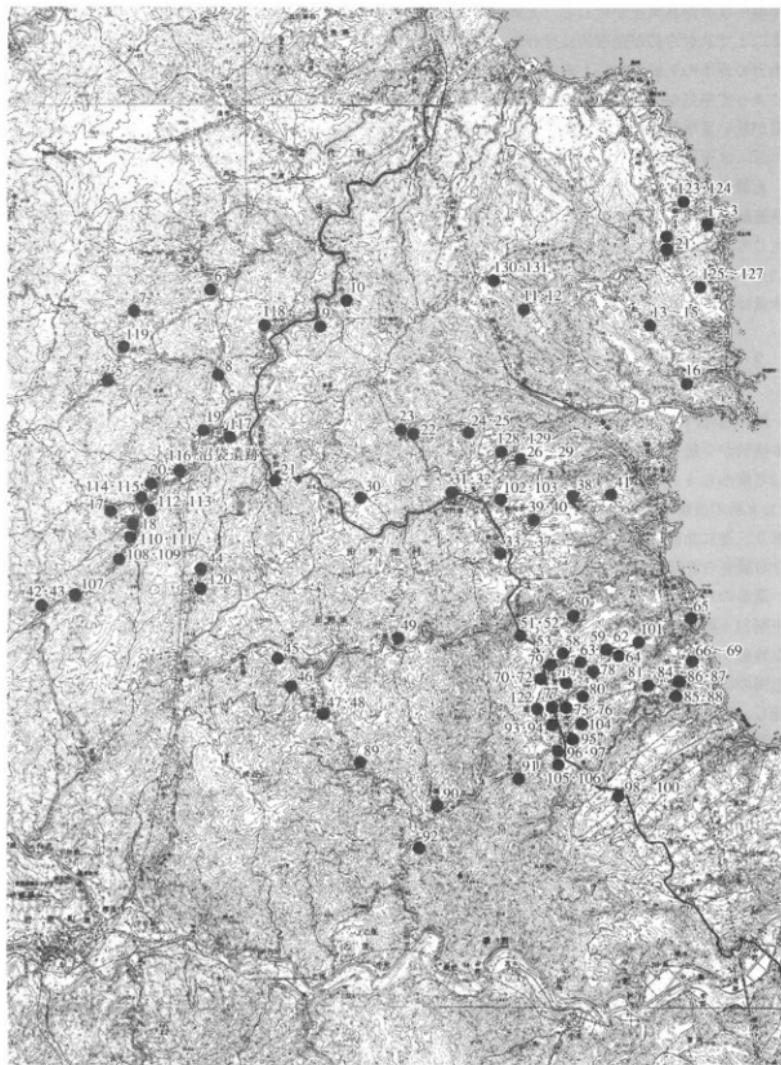
沼袋遺跡は高位段丘面の山地側に位置し、海岸との距離は約10km、標高は約230～240mである。村内のほぼ中央に位置する田野畠村役場からは北西約5kmの距離に所在し、微視的には普代川の蛇行・洪水などを成因とする河岸段丘上に位置する。今回の調査区は普代川との比高5～10mの低位面を中心とした範囲で、調査区東側では豊富な湧水が見られる。

(2) 気 候

シベリア大陸は、春から夏にかけて急速に温度が上昇する。これに対して、オホーツク海では融氷に日射エネルギーが費やされるため温度上昇が抑えられ、両者の気温差によってオホーツク海上には



第1図 岩手県全図と遺跡の位置



第2図 田野畠村内の道跡

オホーツク海高気圧が生じる。上暖下冷の安定した成層状態のなかで下層雲が発達し、日照が遮られることで放射冷却が効率的に行われ、オホーツク海に冷気が停滞する。千島列島や北海道鉄道・根室地方の夏季の天候が冷気と濃霧に特徴づけられるとの同様に、三陸海岸北部にもオホーツク海高気圧によって寒気が「ヤマセ」として時計回り方向で流入する。岩手県沿岸北部ではこのほかにも沿岸水温が低い夏季前半に日中の海風によって気温が急速に低下する「晴れヤマセ」も存在し、発生のメカニズムは異なるものの、この地方をたびたび襲ってきた冷害をもたらす複数の要因が存在している。

北緯40度に近い田野畠・普代付近では冬季は最深積雪深が100cmを越える。この地域の降雪は、冬季季節風ではなく、オホーツク海の高気圧が低気圧をブロックして湿润な東風を送り込むことによって生じており、ヤマセの変種とも考えられる。また、『平成14年度版 岩手県統計年鑑』によれば、平成13年7~10月における小本（岩泉町）の月平均気温は17.7℃、月平均日照時間は119.8時間、月平均降水量は191mmであった。平成10~12年度の平均値はそれぞれ18.9℃、132.8時間、230mmである。

2 周辺の遺跡

田野畠村内ではこれまで約100ヶ所に及ぶ遺跡が確認されていた。しかし、昭和38年の分布調査以来、本格的かつ総合的な調査はほとんどおこなわれてこなかったことから、田野畠村教育委員会では平成12年度から4ヶ年計画で村内の埋蔵文化財一般調査をすすめることとなった。平成12年度終了時点では131ヶ所の遺跡が確認されている。村内全域でみると遺跡の多くは南西部の高位段丘面上で確認されており、逆に北部や西部は希薄である。このような状況は本来的な遺構の分布というより、これまでの分布調査の有無や土地利用の結果による部分が大きいと考えられる。

遺跡のなかでは縄文時代の遺跡が最も多く、時期が特定できるものでは早期9ヶ所、前期19ヶ所、中期23ヶ所、後期38ヶ所、晚期33ヶ所と後・晩期に増加傾向を示し、地域も海岸段丘上からさまざまな地形へ分布が拡大する傾向がみられる。主な遺跡を概観すると、村の南西部の浜岩泉地区に遮光器土偶のほか完形品が出土した浜岩泉II遺跡（田野畠村1985）、岩手県埋蔵文化財センターが1996年に調査し、縄文時代中期の集落であったことが確認された浜岩泉II遺跡などがある。また、その隣接地の島越地区には館石野I遺跡がある。早稲田大学文学部考古学研究室によって1987年から1993年にかけて8次にわたる調査が行われ、縄文時代中期～後期にかけての遺跡であり、列石を伴う大規模な遺構が確認されている。なお、館石野I遺跡は岩手県指定史跡となっており、現在も田野畠村教育委員会が継続調査を行っているが、平成16年度の調査では遺跡の範囲確認調査を実施しており、遺跡の範囲が東側、すなわち海側への延びることが確認された。田野畠地区では平成16年4月～7月まで田野畠村役場の北側に隣接する平波沢遺跡の発掘調査が行われ、縄文後・晩期の堅穴住居跡が多数確認された。また、下層からは縄文前期の土器が発見されている。田野畠村の北西に位置する沼袋地区周辺では本格的な調査は沼袋遺跡から西に約2km離れた子木地の台遺跡（大澤1994）など少なく、沼袋遺跡の発掘調査は村内北西部の様相を知る手がかりとして期待された。



第3図 沼袋遺跡と周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡（1）

遺跡番号	遺跡コード	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物
1	KG03-1346	久春内Ⅰ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（前・中・後・晚期）、弥生土器、石斧、石器、石鏡
2	KG03-1346	久春内Ⅲ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（前中期）、弥生土器、土師器
3	KG03-1346	久春内Ⅴ	集落跡	縄文・弥生	縄文土器（中期以降）、弥生土器
4	KG03-2217	山王沢	散布地	縄文	縄文土器
5	KG10-2322	田代タテ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（前・中・後・晚期）、縄文石器（早期）、三角型磨石
6	KG11-0125	千足Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（後・晚期）
7	KG11-1091	田代大平	散布地	縄文・近世	縄文土器（前・後・晚期）、石斧、櫛切磨製石斧
8	KG11-1099	千足	散布地	縄文	縄文土器（後・晚期）
9	KG11-1317	千足Ⅳ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（中・後・晚期）、弥生上器、石器
10	KG12-0051	池合エノヅ	城跡	中世	土塁、二段築壁、二重土堀
11	KG13-0050	池名Ⅰ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（前・中・後・晚期）、弥生上器
12	KG13-1229	池名Ⅱ	散布地	弥生	弥生上器
13	KG13-1229	机Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器（早・前・中・後・晚期）、石斧、石器、人面付き石製品
14	KG13-1229	机Ⅱ	散布地	弥生	縄文土器、弥生上器（中期以降）
15	KG13-1229	机Ⅲ	散布地	縄文・古代	縄文土器（中・後期）、土師器
16	KG13-2313	明門Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（後・晚期）
17	KG20-1389	子木池の台	集落跡	縄文・古代	縄文土器（後・晚期）、整式作居（古代）、金文具
18	KG20-2329	御秀森シャン	散布地・城跡	縄文・中世	第2代城跡、縄文土器
19	KG21-0124	坂の下	集落跡	縄文・弥生	縄文土器（中・後・晚期）、弥生土器
20	KG21-1022	甲地大森	散布地	縄文	縄文土器（後・晚期）
21	KG31-1229	尾野要	散布地	縄文	縄文土器（後・晚期）
22	KG21-0176	川原	散布地	縄文	縄文土器（後・晚期）
23	KG22-0238	田野畑シャン	城跡跡	中世	風向石
24	KG22-0238	田野畑Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（中・後・晚期）
25	KG22-0238	田野畑Ⅱ	散布地	弥生	弥生土器
26	KG22-0349	練貫Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（早・前・中・後・晚期）、後期耳飾
27	KG22-0349	練貫Ⅱ	散布地	弥生	縄文土器（早・前・中・後・晚期）、後期土器
28	KG22-0349	練貫Ⅲ	散布地	古代	縄文土器
29	KG22-0349	羅實Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器（後期）、弥生土器、須恵器
30	KG22-1056	板橋	散布地	縄文	縄文土器（中・後・晚期）、弥生土器、石斧
31	KG22-1243	平後沢Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（前・中・後・晚期）
32	KG22-1243	平後沢Ⅱ	散布地	弥生	弥生上器
33	KG22-1243	菅窓麻糠跡	廻跡	縄文	縄文土器（後期）、廻覆、鐵十
34	KG22-1243	菅窓Ⅰ	廻跡	縄文	縄文土器（晚期）、石斧、石斧、石鏡
35	KG22-1243	菅窓Ⅱ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（中・後期）、弥生土器
36	KG22-1243	菅窓Ⅲ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（後期）、弥生土器、土師器
37	KG22-1243	菅窓Ⅳ	散布地	縄文・古代	縄文土器（後・晚期）、須恵器
38	KG23-1047	初野Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器（早・前・中・後・晚期）
39	KG23-1092	西野Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（早・前・中・後・晚期）、石斧、石器、石鏡
40	KG23-1092	西野Ⅱ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（中・後期）、弥生土器
41	KG23-1129	和野Ⅱ	集落跡	弥生・古代	弥生上器、土師器
42	KG30-0188	三沢班舟跡	城跡跡	中世	縄文土器（中・後・晚期）、近世礎器、東水道室
43	KG30-0199	二沢	散布地	縄文・近世	縄文土器（中・後・晚期）、近世礎器、土師器
44	KG31-0121	千丈熊ヶ平	散布地	縄文	縄文土器（後・晚期）、石斧
45	KG31-1391	鶴山	散布地	縄文	縄文土器（後・晚期）
46	KG31-2353	寺道	散布地	縄文	縄文土器（中・後・晚期）
47	KG31-2395	谷地区Ⅱ	散布地	縄文？	縄文土器
48	KG31-2399	大谷地	散布地	弥生	弥生土器
49	KG32-1144	七瀬Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（中・後・晚期）、石器
50	KG33-0099	萬越跡	散布地	縄文	縄文土器
51	KG33-1021	萬石原Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
52	KG33-1030	萬石原Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器
53	KG33-1033	萬石原	散布地	縄文	縄文土器
54	KG33-1038	萬越Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
55	KG33-1055	烏越Ⅹ	散布地	縄文	縄文土器
56	KG33-1077	烏越Ⅺ	散布地	縄文	縄文土器
57	KG33-1089	烏越Ⅻ	散布地	縄文	縄文土器
58	KG33-1095	烏越Ⅺ	散布地	縄文	縄文土器
59	KG33-1139	鰐石野Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器（前・中・後・晚期）、列石遺構、鄭穴住居、石斧、石器
60	KG33-1157	鰐石野Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
61	KG33-1177	鰐石野Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器
62	KG33-1187	鰐石野Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器
63	KG33-1191	鰐石野Ⅴ	集落跡	縄文	縄文土器
64	KG33-1260	鰐石野Ⅵ	散布地	縄文	石器
65	KG33-1263	クゾノ峰	散布地	縄文	縄文土器
66	KG33-1273	切り野Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器

第1表 周辺の遺跡（2）

地図番号	遺跡コード	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物
67	KG33-1376	御牛V	散布地	縄文	縄文土器
68	KG33-1392	御牛Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器
69	KG33-1395	切牛Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器
70	KG33-2003	浜岩泉V	散布地	縄文	縄文土器
71	KG33-2018	鳥越Ⅲ	集落地	縄文	縄文土器、石器
72	KG33-2044	浜岩翁吉	散布地	縄文	縄文土器
73	KG33-2047	島越Ⅱ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（中・後・晚）、弥生土器、石器
74	KG33-2049	島越I	散布地	縄文	縄文土器
75	KG33-2069	大坪I	集落地	縄文	縄文土器（前・中期）、堅穴住居、堅穴状焼拂、石器、石器
76	KG33-2078	大坪II	散布地	縄文	縄文土器
77	KG33-2096	浜岩泉Ⅲ	集落跡	縄文	縄文土器
78	KG33-2102	鳥越II	散布地	縄文	縄文土器
79	KG33-2110	鳥越IV	散布地	縄文	縄文土器
80	KG33-2141	大坪Ⅲ	集落跡	縄文	縄文土器
81	KG33-2223	大坪V	散布地	縄文	縄文土器
82	KG33-2226	大坪Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器
83	KG33-2225	大坪Ⅶ	散布地	縄文	縄文土器、石斧
84	KG33-2241	大坪Ⅷ	散布地	縄文	縄文土器
85	KG33-2248	真木沢Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器、石器
86	KG33-2303	切牛Ⅱ	集落跡	縄文・古代	縄文土器（早・前・後・晚期）、住居跡（後期）、石斧、土印器
87	KG33-2320	切牛I	散布地	縄文	縄文土器
88	KG33-2322	真木沢I	散布地	縄文・弥生・古代	縄文土器（早・前・中期）、弥生土器、鐵錐、帶錐
89	KG42-1006	目名鉢	破壊跡	中世	平場、空掘
90	KG42-1291	獣山	暫定跡	古代	土師器
91	KG42-1319	大坪留	散布地	縄文	縄文土器
92	KG42-2179	牛岡村	散布地	縄文	縄文土器
93	KG43-0016	浜岩泉Ⅴ	集落跡	縄文	縄文土器（後・晚期）、浜岩浴土器
94	KG43-0036	浜岩泉I	散布地	縄文	縄文土器（中期）、堅穴住居、住居状焼拂、土坑、アスファルト残
95	KG43-0039	浜岩泉Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器
96	KG43-0057	南大坪I	散布地	縄文	縄文土器
97	KG43-0066	南大坪II	散布地	縄文	縄文土器
98	KG43-1145	真木沢Ⅳ	集落跡	縄文	縄文土器
99	KG43-1147	真木沢V	散布地	縄文・弥生	縄文土器（早・前・後・晚期）、弥生土器、土師器、石斧、石器
100	KG43-1270	真木沢VI	散布地	縄文	縄文土器（中期）、石器
101	KG33-1223	大坪野崎	散布地	縄文	縄文土器、ビエヌエスヰ
102	KG22-1355	細野Iマナイ	集落跡	縄文	縄文土器
103	KG22-1262	和野原塩神社	集落跡	縄文	縄文土器（中・後・晚期）、石器
104	KG33-2191	大芦戸奈利	土坑群	縄文・弥生	縄文土器（晚期）、弥生土器、配石を伴う土坑群、堅穴状焼拂
105	KG43-0085	南大芦戸	集落跡	縄文	縄文土器（早期）、堅穴住居、土坑
106	KG33-1247	南木沢Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器（中・後期）
107	KG30-0257	下三沢	散布地	縄文	縄文土器
108	KG20-2394	綾丹川向徳北	散布地	縄文	縄文土器（前・後・晚期）、石器
109	KG20-2387	綾丹I向	散布地	縄文	縄文土器（前・後期）
110	KG21-2020	綾沢I	散布地	縄文	縄文土器
111	KG20-2316	綾沢	散布地	縄文	縄文土器
112	KG21-1081	子木沢敷南	散布地	縄文	縄文土器
113	KG21-1036	子木沢敷	散布地	近世	磁器、陶器、铁拂
114	KG21-1033	蛭ヶ森	散布地、座業遺跡	縄文・古世	縄文土器、磁器、雨器、铁拂
115	KG21-1042	蛭沢壠甲原	散布地、渠跡	縄文・古代	縄文土器、石斧、土器器、沟器
116	KG21-0099	子水池	散布地	縄文	縄文土器、磨片、剥片石器
117	KG21-0127	迢岱	集落跡	縄文・弥生・近世	縄文土器、石器、土製品、弥生土器。陶器
118	KG14-0297	オヤッキ沢	散布地	縄文	打製石器
119	KG10-1378	田沢イカニア沢	散布地	縄文・近世	縄文土器、打製石器、剥片石器、铁拂
120	KG31-0161	千丈	散布地	縄文	縄文土器
121	KG03-2265	北山	散布地	縄文	縄文土器
122	KG03-2063	浜岩泉カノゾ	散布地	縄文	縄文土器、石器
123	KG03-1321	北山オツツケI	散布地	縄文・弥生	縄文土器（前期）、弥生土器？
124	KG03-1340	北山オツツケII	散布地	縄文	縄文土器（前期）、剥片石器
125	KG03-2387	北山II	散布地	縄文	縄文土器（後～晚期）、石器、剥片石器
126	KG13-0316	北山Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器（中后期以降）
127	KG13-0336	北山Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器、剥片石器、砾石
128	KG22-0325	田野畑新田I	散布地	縄文	縄文土器（後期）？
129	KG22-0344	田野畑新田II	散布地	縄文	縄文土器
130	KG02-2292	池名Ⅲ	集落跡	縄文	縄文土器
131	KG012-0315	池名Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器、剥片石器

III 調査の方法

1 発掘調査

(1) グリッドの設定

発掘区全体を4mグリッドによって区分し(第4図)、グリッドの区分および方位は平面直角国家座標世界測地系による座標を採用した。沼袋遺跡のグリッド設定は調査区に近在した三等点から座標値を割り出し、光波測量機器によって調査員がグリッド計算、および基準点の設置を行った。水準点については平成15年度に宮古地方振興局岩泉土木事務所が㈱吉田測量設計に委託した「一般県道田野畑岩泉線沼袋地区道路修正設計業務」の測量成果によるベンチマークの標高値から算出した。調査中に主な基準とした座標値を以下2カ所提示する。

点名	グリッド	座標X	座標Y	標高(m)
①	V C 1aグリッド	-6000.000	85360.000	233.400
②	III E 1aグリッド	-5920.000	85440.000	230.200

なお、発掘調査区については西から便宜的にA区、B区、C区に3区分した(第4図)。

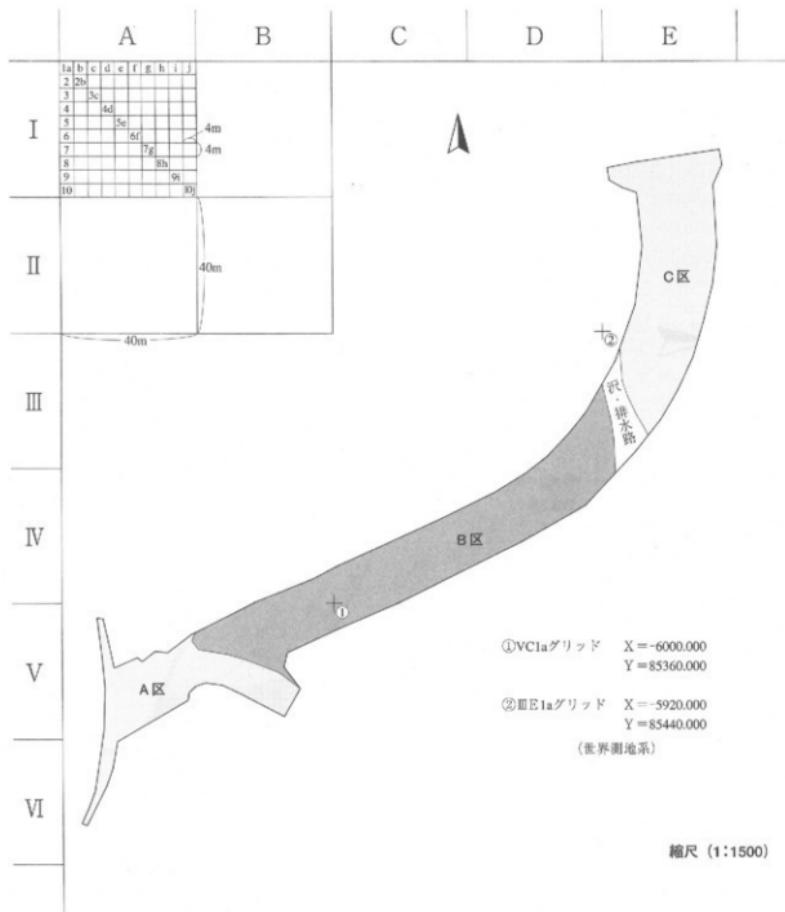
(2) 調査経過

調査は道路整備事業に伴うものであり、今回の調査区は幅約23mで東西に細長い。平成16年5月19日に調査機材を搬入し、下草の除去および切り株周辺の清掃を行った。試掘トレンチは23カ所設定した。各試掘トレンチは地層を確認の上、写真撮影を行った。

調査区西端に位置するA区は舗装道路により850m²破壊されており、普代川付近では洪水や堤防の敷設工事により削平されていた。堆積の良好な道路両脇に試掘トレンチを7カ所、普代川沿いに3カ所設定したが、遺構・遺物は発見できず、地層の確認作業のみで調査を終了した。

表土の除去作業は土捨て場とB区中央に位置する電柱および電線の撤去作業を考慮し、調査区北端のC区からはじめた。C区は普代川に向かって標高が下がる区域で北端は3mに及ぶ盛土によって整地されていた。県生涯学習文化課の試掘調査では遺構・遺物が出土せず、土捨て場予定区としていたが、調査区中央から縄文後期前葉の土器片と石器が出土したことからC区全面の調査に変更した。調査区断面図は南北に2カ所ロングセクションを設定し、洪水堆積層の様相や小支谷の形成を確認することができた。C区では146点の遺物を回収し、なかでも1号埋設土器はほぼ完形の状態で出土した。

B区については電柱撤去の日程にあわせて7月から表土掘削を開始した。B区では西側に紡績工場を建設した際の1.5~2mの盛土が厚く堆積していたが、この建設当時の整地作業に伴って遺物包含層もほとんどが削平されたと考えられる。現況でガラス片やコンクリート片、建築物基礎などが多量に散乱していた。地形変更を受けた西側以外のB区現況は畠地であった。B区は掘立柱建物跡や捨て場2カ所を中心多く遺構・遺物が発見された。柱穴はそのほとんどがB区基本土層第IV層の十和田中揮火山灰(To-cu: 縄文時代前期)層を掘り込み、埋土には火山灰粒・ブロックが流入するものが多數見られた。B区とC区の境界には水量豊富な沢が普代川に向かって北流していたため、ヒューム管敷設によって土捨て場との通行路を確保し、沢の保護領域を設けて掘削を行わなかった。沢の保護領域に隣接する調査区では、縄文時代遺物包含層が存在し、沢の保護区内へ続いている。

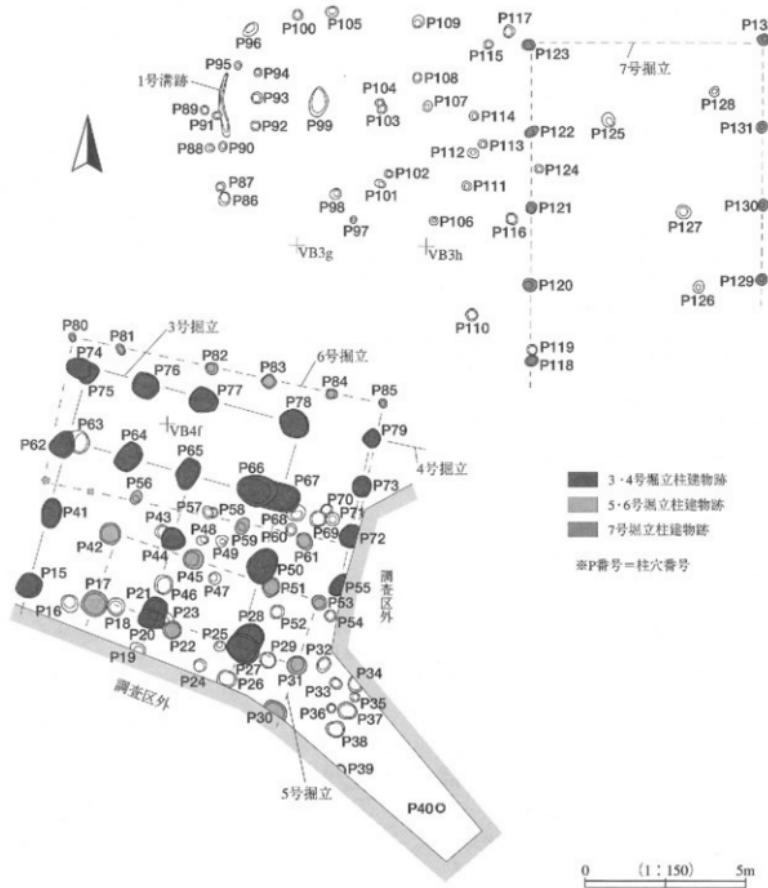


第4図 調査区グリッド設定図



第5図 B区造構配置図（1）

調査は沢に隣接するB区包含層の調査をもって終了し、重機による埋め戻し後、平成16年10月5日に撤収した。



第6図 B区遺構配置図（2）

(3) 遺構調査と遺物の取り上げ

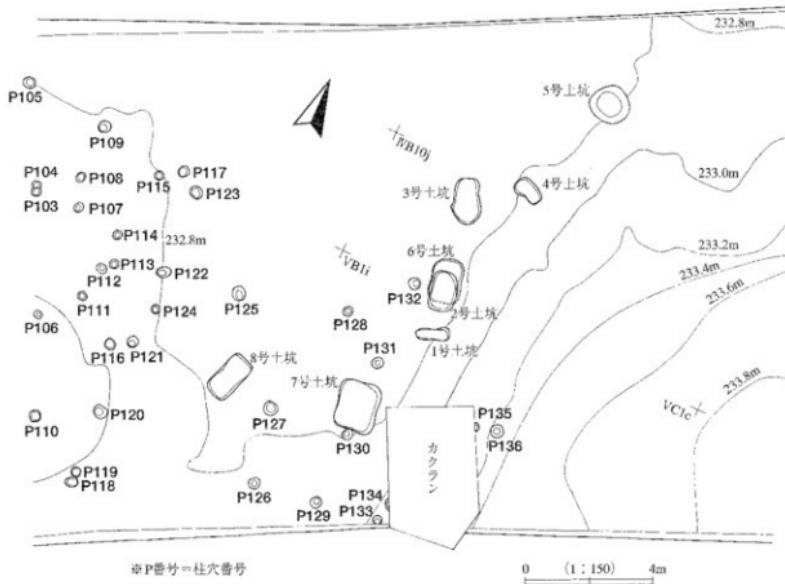
遺構は検出後に平面形と他の遺構との関係を検討してから埋土掘削し、平面・断面・完掘状況の写真撮影・記録を行った。写真撮影には35mm判モノクロネガフィルム・カラー・リバーサルフィルム、6×7cm判モノクロ・カラー・ネガフィルムを使用した。

遺物は遺物包含層については4×4mのグリッドごとに回収したが、調査区等高線作成作業と併行して1号捨て場については光波測量器と㈱シン技術コンサル遺跡管理システムにより各遺物のX・Y・Z座標値を採取した。

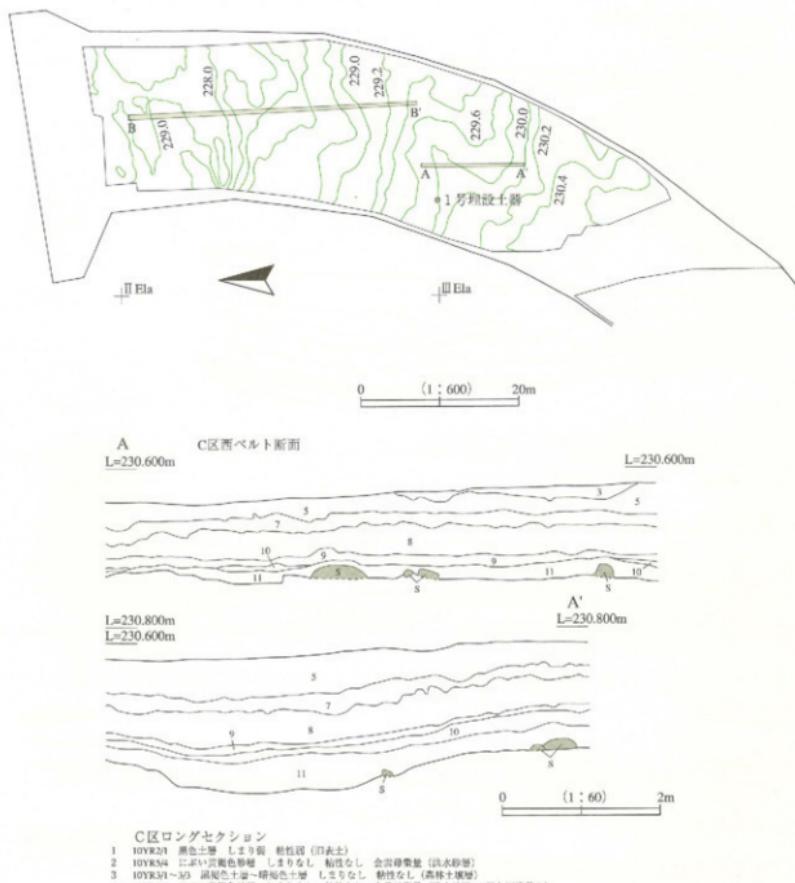
2 室 内 整 理

平成16年11月1日より室内整理作業を開始した。遺物は洗浄・注記・接合・選別・登録後に計測・拓本採取を行った。繩文土器は後期前葉を主体とすることから、遺存部に応じて文様ごとに類別した。石器群については二次加工のあるトゥールに限定して実測図を掲載している。遺物は土器・土製品・石器・礫・陶器・金属器・近世墓碑など種別ごとに掲載番号を付した。

整理作業は図版・写真図版の作成・図面・写真ファイル・遺物など各資料を収納し平成17年3月31日に終了した。回収した遺物は小コンテナ(30×40×10cm)10箱、中コンテナ(30×40×20cm)7箱、大コンテナ(30×40×30cm)4箱に分けられる。なお、遺物は岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。

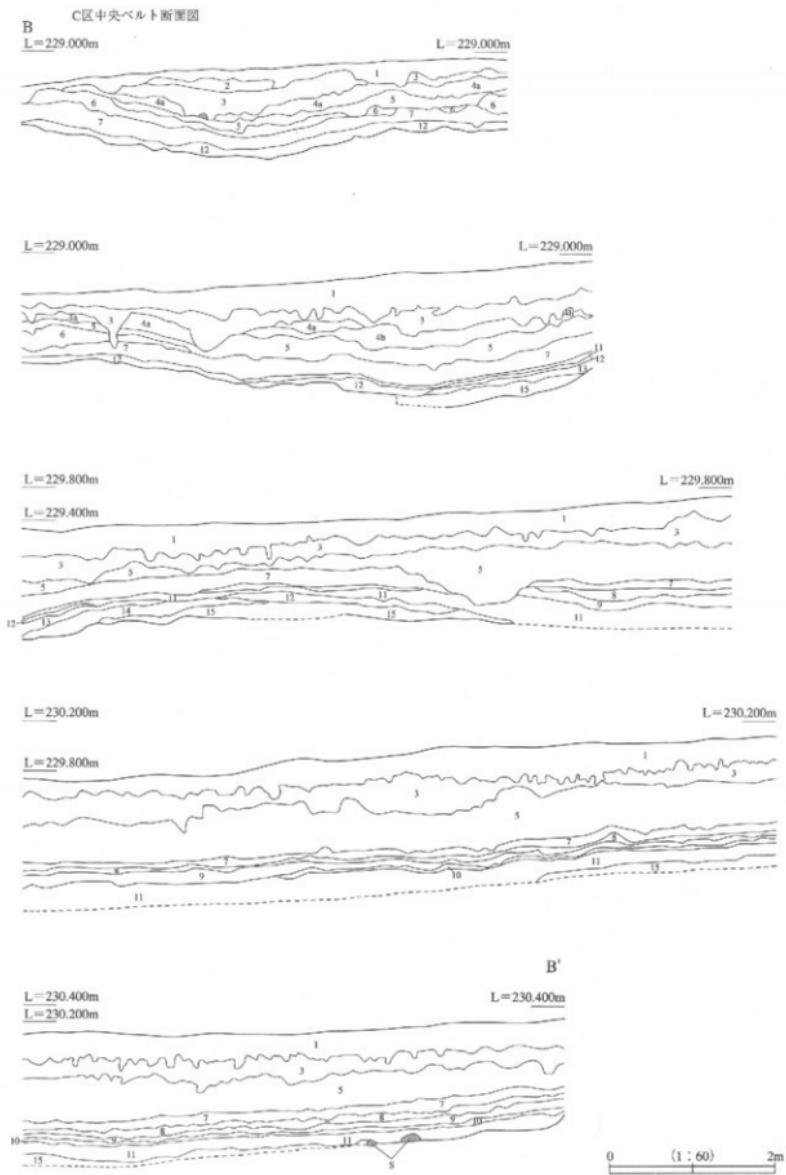


第7図 B区遺構配置図 (3)



- C区ロングセクション
- 1 IOYK2/1 黒色土質 しまり岩 硬性泥（曰表土）
 - 2 IOYK5/4 に赤い黄褐色砂層 しまりなし 硬性なし 会苔群集量（汚水移層）
 - 3 IOYR5/-3/-2 黑色土質一様地盤 しまりなし 硬性なし（高体土塊型）
 - 4 IOYR5/5 に赤い黄褐色砂層 しまりなし 硬性なし 会苔群集量（汚水移層：2層と同堆積か）
 - 5 IOYR5/3 黄褐色土質 しまり岩 硬性なし 会苔群集量30%包含
 - 6 IOYR5/4 に赤い黄褐色砂層 しまりなし 硬性なし 会苔群集量（汚水移層：2・4層と同堆積か）
 - 7 IOYR2/1 黑色粘性土層 しまり岩 硬性中 売化鉱物量（造物包含層：第1泥炭層）
 - 8 IOYK5/1 和田砂層 しまりなし 硬性なし（曰表土層）
 - 9 IOYR2/1 黑色粘性土層 しまり岩 硬性なし 会苔群集量（第2泥炭層）
 - 10 IOYR5/2 深黒褐色土質 しまりなし 硬性なし（汚水移層）
 - 11 IOYR5/3 黄褐色砂層 しまりなし 硬性なし 会苔群集量（汚水移層）
 - 12 IOYR5/3 に赤い黄褐色砂層 しまりなし 硬性なし 会苔群集量 細粒砂多量（汚水移層）
 - 13 IOYR2/1 黑色土質 しまり岩 硬性なし 砂粒含30%包含（上位からの泥炭の沈没により黑色化か）
 - 14 IOYR4/1 和田砂層 しまりなし 硬性なし（D層と同じ構成の砂層、汚水砂層が上層を第3泥炭で被覆されて黑色化）
 - 15 IOYK5/2 深黒褐色土質 しまりなし 硬性なし（汚水移層：下位に河床礫を包含する）

第8図 C区遺構配置図、ロングセクション（1）



第9図 C区ロングセクション（2）

3 掲載図版・表解説

(1) 遺構

縮尺は概ね1/60を主体としているが、サイズに合わせて適時変更している。遺構番号は発掘調査時の遺構番号から報告用の番号に振り替えている。第3・4表の遺構計測表を参照されたい。遺構図上でスペースの関係上、柱穴番号を「P10」・「P35」のように表記しているが、旧番号ではなく、すべて新番号である。登録や本文中の説明ではそれぞれ「第10号柱穴」・「第35号柱穴」と記載している。

(2) 遺物

遺物図版は土器、土製品、石器、陶器、金属器、近世墓碑の類に掲載し、下記のごとく遺物番号を付した。

土 器	No 1~326	土 製 品	No401~423
石 器	No501~571	陶 器	No601~609
金 属 器	No701~725	近世墓碑	No801~806

また、出土した遺構名や層位を適時付している。

掲載順序は、土器については遺構ごと→残存部位ごと→文様ごとに並べた。他の遺物は資料数が土器に比べて少ないことから、器種別に掲載した。

a) 土器の分類

土器は器形から深鉢・鉢・浅鉢・壺に分類されるが、大半が破片資料であるため器形が不明確なものがある。また、文様モチーフが判別困難なことが多いため、施文のバラエティーによって類別した。なお、器高5cm未満をミニチュア土器と捉え、土製品として報告している。

土器の分類は以下の通りである。

I a群 後期前葉の土器	1類：沈線文	2類：隆帶文
	3類：撚糸文	4類：繩文
	5類：沈線+撚糸	6類：沈線+繩文
	7類：撚糸+隆帶文	8類：沈線文+隆帶文+繩文
	9類：撚糸+繩文	10類：沈線文+隆帶文+撚糸文
	11類：無文（無文部含む）	12類：その他・不明

I b群 後期中葉の土器

I c群 後期土器の底部

1類：木葉痕
2類：網代痕

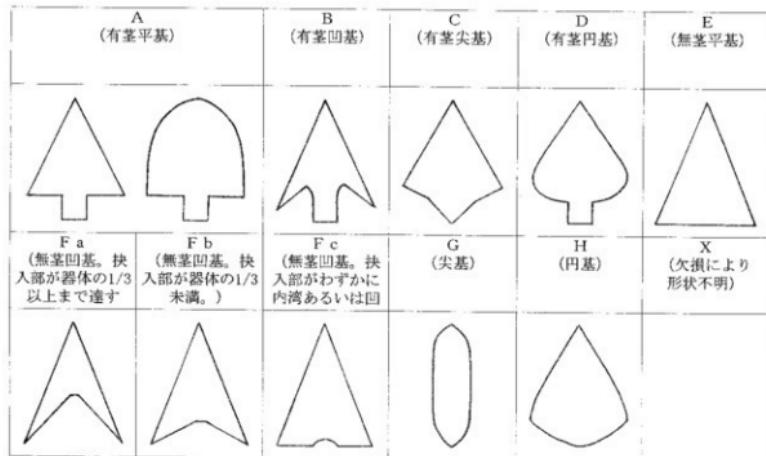
II 群 晩期の土器

III 群 弥生時代の土器

b) 石器の分類

石 鐵 完形長（破損品は推定完形長）が4.5cm未満の尖頭状石器。平面形態により9分類（第10図）、遺存形態により21分類（第11図）した。

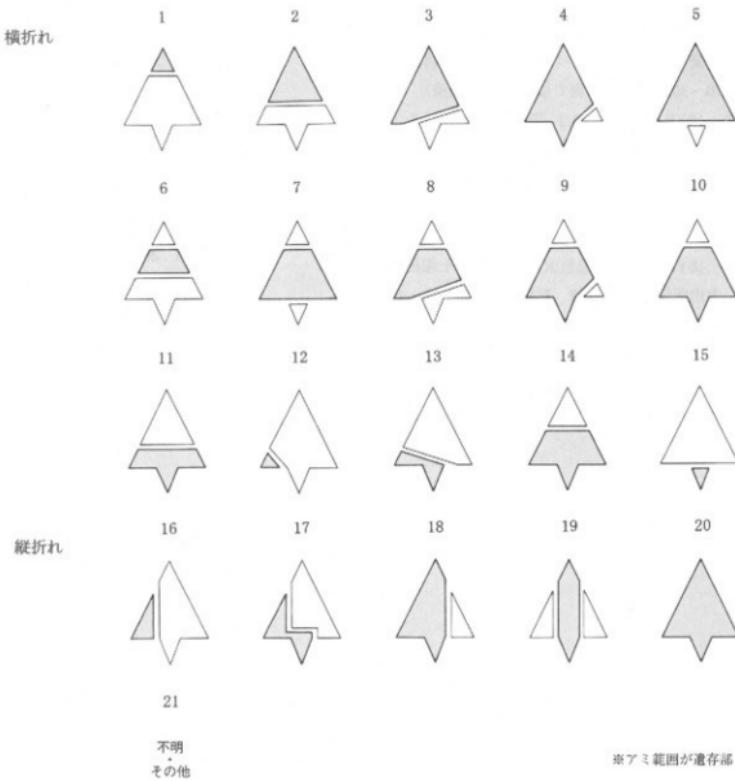
- 石 錐** 器体端部に錐部を有するもの。形態により4分類した。
- 1類：摘み部と長い錐部で構成。
 - 2類：剥片の一端を加工して錐部を作り出したもの。錐部は短い。
 - 3類：棒状で明確な摘み部のないもの。
 - 4類：技術的な観点から錐と判断できるが欠損により形状が不明なもの。
- 石 起** 摘み部を持つスクリイバー。3分類している。
- 1類：摘み部と器体長軸が平行。(横型)
 - 2類：摘み部と器体長軸が直行。(縦型)
 - 3類：摘み部と器体長軸が斜行。(斜行型)
- 搔 器** 素材端部あるいは側縁部に連続的な調整によって刃部を作出したもののうち、直角に近い刃部角を有するもの。大半は素材端部に刃部をもつ。
- 削 器** 素材端部あるいは側縁部に連続的な調整によって刃部を作出したもののうち、鋭角な刃部角を有するもの。
- 楔形石器** 両極剥離痕のある石器のうち剥離面がネガ面で構成されているもの。石器製作に係わる素材供給を行った石核と捉える。ボジ面を含むものはいわゆる両極剥片と捉え、楔形石器の範疇には入れない。
- 磨製石斧** 磨面を有する斧形石器。
- 磨 石 A** 磨面+凹み痕+敲打痕を有する石器。
- 磨 石 B** 磨面+敲打痕を有する石器。
- 磨 石 C** 磨面+凹み痕を有する石器。
- 磨 石 D** 磨面を有する石器。
- 凹 石 A** 凹み痕+敲打痕を有する石器。
- 凹 石 B** 凹み痕を有する石器。
- 敲 石** 敲打痕を有する石器。



第10図 石器平面類型

c) 石材略号

頁岩: Sh、メノウ: Ag、珪質頁岩: S.Sh、黒曜石: Ob、安山岩: An、ダイサイト: Da、
 凝灰岩: Tuff、閃綠岩: Dio、ひん岩: Pro、斑レイ岩: Gab、軽石: Pu、砂岩: S.S、
 穀岩: Cong、チャート: Ch、蛇紋岩: Serp、結晶片岩: Sch、ホルンフェルス: Ho



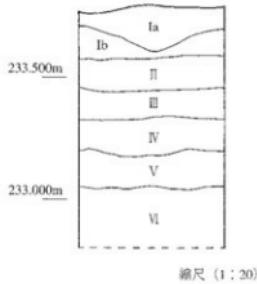
第11図 石巣遺存類型

4 基本土層

基本土層はB区の柱穴が密集するVB区調査区帯で観察・記載した(第12図)。層厚については、B区西側での状況であり、1号捨て場ではⅡ層が厚く堆積する。

(1) B区基本土層

- I a層 10YR6/6~8/6 黄褐色～明黄褐色土層
(盛土) 層厚10~30cm (C区では3m堆積)
- I b層 10YR3/2~2/2 黒褐色シルト層 (旧表土) 枠
の発達が見られる。しまり弱 粘性弱 層厚
10~30cm (B区東側では80cm以上堆積)
- II 層 10YR2/1~10YR3/2 黒色～黒褐色シルト層
(遺物包含層) しまり中 粘性中 層厚10~60cm
- III 層 10YR3/2~10YR3/4 黒褐色～暗褐色シルト層
(遺物包含層) しまり強 粘性中 層厚10~
30cm
- IV 層 10YR7/6 明黄褐色火山灰層 (十和田中揮
火山灰層) しまり強 粘性なし 層厚15~40cm
- V 層 10YR2/1~10YR3/2 黒色～黒褐色シルト層
しまり中 粘性中 層厚15~40cm
- VI 層 10YR8/2 灰白色シルト層 (基盤白色凝灰
岩層) しまり強 粘性なし 層厚不明



第12図 基本土層

IV 遺構・遺物

1 概 要

調査遺構は、掘立柱建物跡9棟、土坑10基、溝跡1条、柱穴状土坑143個、土器埋設遺構1基、焼土遺構1基、捨て場2ヶ所である。所属時期は縄文時代後期と近世以降に大別される。

縄文時代については、掘立柱建物跡、土坑および捨て場を確認したが、堅穴住居跡は検出されていない。8・9号掘立柱建物跡は微高地に位置し、1・2号捨て場と近接している。縄文時代の遺構からは、後期前葉の縄文土器・石器が出土している。普代川対岸には、今回の調査区とはほぼ同標高的河岸段丘面に坂の下遺跡が存在し、後期後葉の資料が多量に表記されている。

近世以降については、民家と考えられる掘立柱建物跡から陶器・金属器・寛永通宝が出土し、その周辺で近世墓碑集中部と墓壙(5号土坑)を検出した。遺跡周辺は鉄山で栄えた旧沼袋村の居住領域であり、これまで本格的な発掘調査が少なかった沼袋地区的歴史的環境を知る上で貴重な資料となろう。

遺物は大コンテナ(30×40×30cm)で18箱分出土した。このうち縄文土器14箱、石器3箱、その他に陶器・腕輪形土製品・鏃形土製品・円盤形土製品・ミニチュア土器・土偶・人骨・古錢・煙管などで1箱分である。縄文土器は後期前葉の資料が主体を占める。また、2号捨て場では上部から弥生土器が出土している。普代川との比高差の小さいC区北端は遺物分布密度が低くかったが、C区東側では縄文時代後期前葉の埋設土器や晩期の土器片が出土している。

2 遺 構

(1) 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡

遺構(第13図、写真図版5)

【位置・検出状況】B区西端のV B3aグリッド付近に位置する。盛土が厚く堆積し、II~IV層は削平されていたため、V層で検出を実施した。遺構検出の結果、長方形プランに配列する柱穴を確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。各柱穴を掘り下げた結果、検出面から深さ約50cmのところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断して精査を進めた。[重複関係]なし。

【規模・平面形式】掘立柱建物で、調査区内で確認された規模は桁行372cm以上、梁行470cmの長方形プランを呈する。床面積は推定で17.48m²以上(5.30坪以上)である。

【建物方位】N-26°-E。

【埋土】黒褐色シルト主体である。7号柱穴では礫が柱痕跡底部に配置されている。

【柱間寸法】6.1尺(約186cm)と6.5尺(約196cm)を多用している。

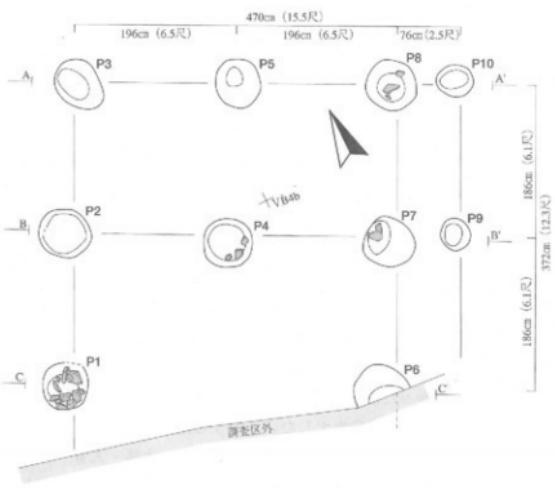
【柱穴】調査区内で本遺構に使用された柱穴は10個である。埋土には柱痕跡が確認できる3個ある。

【付属施設】不明。

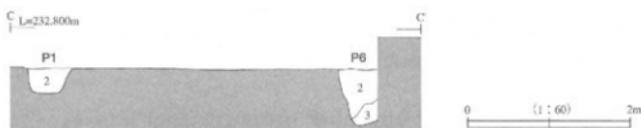
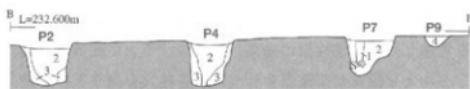
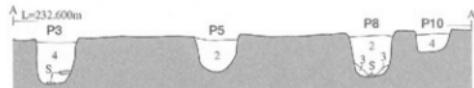
【建物の性格】規模及び平面形式から民家の母屋と考えられる。

遺物 出土していない。

時期 遺構形態と埋土の特徴から近世～近代に所属すると考えられる。



- 1号掘立柱建物跡
- 1 10Y3G2 葉緑色シート層 しまり層 砂質層 水層～沃青褐色ブロック充合
 - 2 10Y3G25 黒褐色シート層 しまり層 砂質層 岩板約15～15mmを5%混含
 - 3 10Y4M3 葉緑色砂質シート層 しまり層 砂質層 灰褐色砂約1mmを30%混含
 - 4 10Y3G2 黒褐色シート層 しまりやや變 沢層～沃青褐色ブロック90%混含



第13図 1号掘立柱建物跡

2号掘立柱建物跡

遺構（第14図、写真図版6）

【位置・検出状況】B区西端のVB2bグリッド付近に位置する。1号掘立柱建物跡と同じくV層で検出を行った。遺構検出の結果、長方形プランに配列する柱穴を確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。各柱穴を掘り下げた結果、検出面から深さ70~80cmのところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断して精査を進めた。

【重複関係】なし。

【規模・平面形式】掘立柱建物である。調査区内で確認された規模は桁行242cm以上、梁行393cm以上の長方形プランを呈する。床面積は推定で9.51m²以上（2.88坪以上）である。

【建物方位】N.7°-E。

【埋土】砂層とシルト層の互層が主体で、互層には硬化面がなく、しまりも弱い。柱痕跡は黒褐色シルト主体である。また多くの場合、黄褐色粘土質土粒を微量～少量含む。

【柱間寸法】8尺、7.5尺、5.5尺など一定でない。

【柱穴】調査区内で確認できた柱穴は4個である。いずれの柱穴にも柱痕跡が残存しているため、建物廃絶後も柱は遺棄されたとみられる。埋土中の礫は柱を支えるように配置されている。

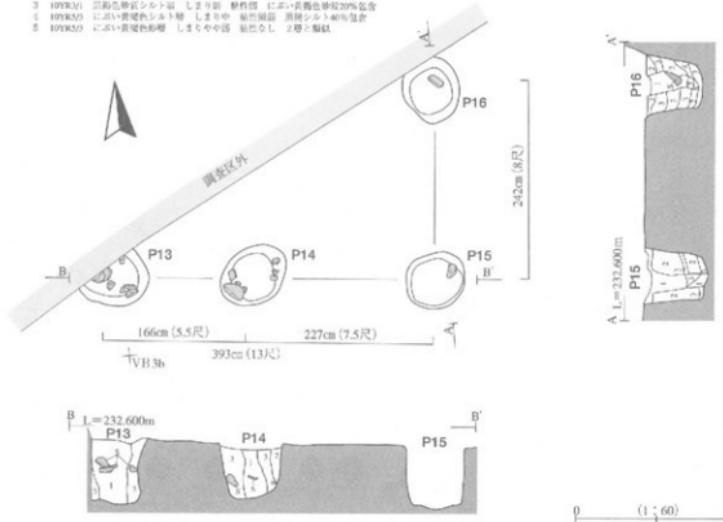
【付属施設】不明。

遺物 なし。

時期 不明。

2号掘立柱建物跡

- 1 197K3/3 黒褐色シルト層 しまり中 柱痕
- 2 197K3/3 黒褐色シルト層 しまり中 柱痕なし 1層構成土24%包含
- 3 197K3/3 黒褐色粘土シルト層 しまり弱 柱性層 に高い黒褐色砂20%包含
- 4 197K3/3 に高い黒褐色シルト層 しまり中 基盤層 黑褐色シルト40%包含
- 5 197K3/3 に高い黒褐色砂層 しまりや弱 基盤なし 2層と類似

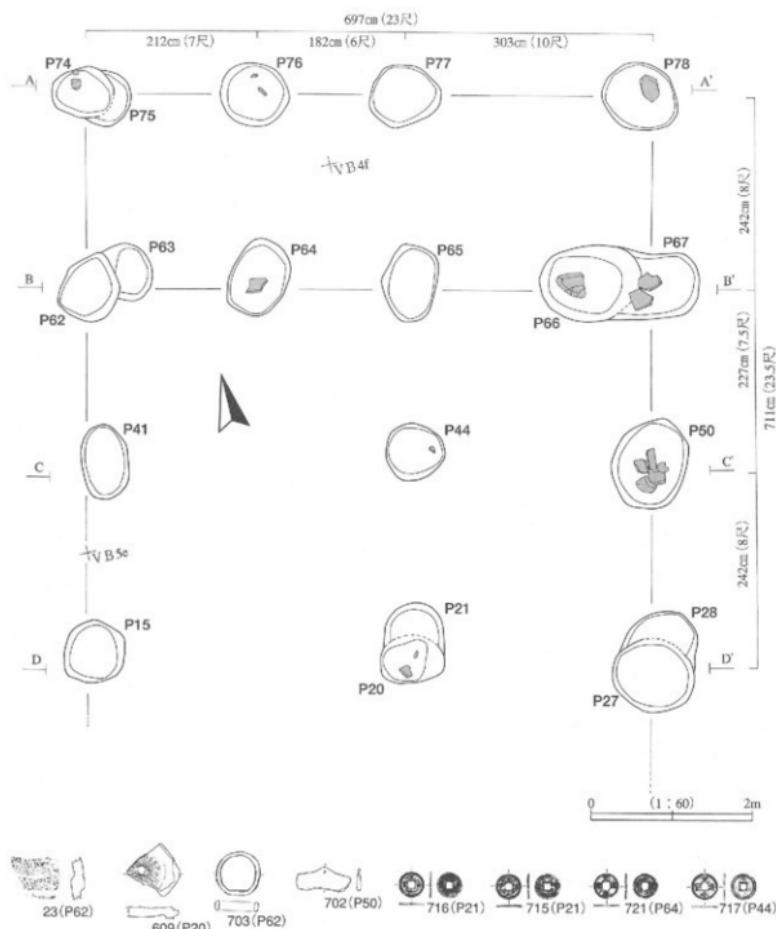


第14図 2号掘立柱建物跡

3号掘立柱建物跡

遺構(第15・16図、写真図版7・8)

[位置・検出状況] B区のVB4eグリッド付近に位置する。I層(表土層)直下で検出している。大半はII層で遺構確認したが、場所によってはIV層(To-cu)が露出していた。遺構検出の結果、柱穴が多数密集する地区であることが判明し、そのうち径60~110cmのやや大型の柱穴で構成される長方形ブ



第15図 3号掘立柱建物跡(1)

ランを確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。各柱穴を掘り下げた結果、検出面から深さ15~40cmのところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断して精査を進めた。

〔重複関係〕 本遺構を構成する20号・50号柱穴は、それぞれ5号掘立柱建物跡を構成する22号・51号柱穴と重複し、新しい。したがって、本遺構は5号掘立柱建物跡廃絶後には構築されたと考えられる。

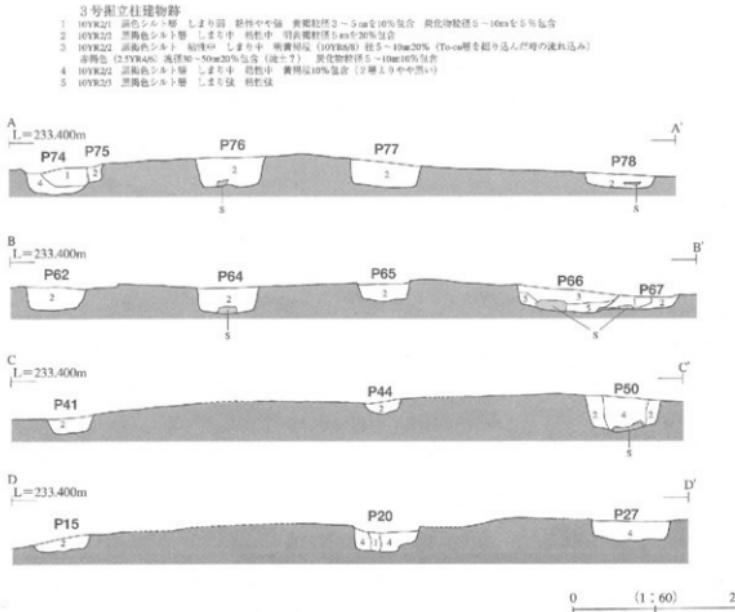
〔規模・平面形式〕 掘立柱建物である。規模は桁行711cm以上、梁行697cmの長方形プランを呈する。床面積は調査区内で49.56m² (15.02坪) で、本遺構範囲は調査区外へ広がる想定される。

〔建物方位〕 N-12° -E。

〔埋土〕 単一層が多く、黒褐色土主体である。また多くの場合、黄褐色土粒や明黄褐色土粒 (To-cu) を微量~少量含む。埋土は5種類確認できたが、柱痕跡の見られる20・50・74号柱穴の埋土は黑色シルトを主体とする。

〔柱間寸法〕 8尺 (約242cm) を主体としている。

〔柱穴〕 本遺構に使用されたと考えられる柱穴は19個である。このうち、5ヶ所で重複や柱の取替えが行われた可能性があり、埋土の状況も単一でない。



第16図 3号掘立柱建物跡 (2)

〔付属施設〕切り合い関係から、隣接する4号掘立柱建物跡が付属施設と思われる。

〔建物の性格〕規模及び平面形式から母屋で、本遺構範囲は調査区外へ及ぶと考えられる。

遺 物（第54・55図、写真図版34）

〔出土状況〕20・21・44・50・62号柱穴埋土から出土している。

〔遺物〕20号柱穴から609の在地系陶器、21号柱穴から715・716の寛永通宝、44号柱穴から715の寛永通宝、50号柱穴から702の火打ち金、64号柱穴から721の寛永通宝、62号柱穴から23の縄文土器と703の環状鉄製品が出土している。

時 期 19世紀初頭である。

4号掘立柱建物跡

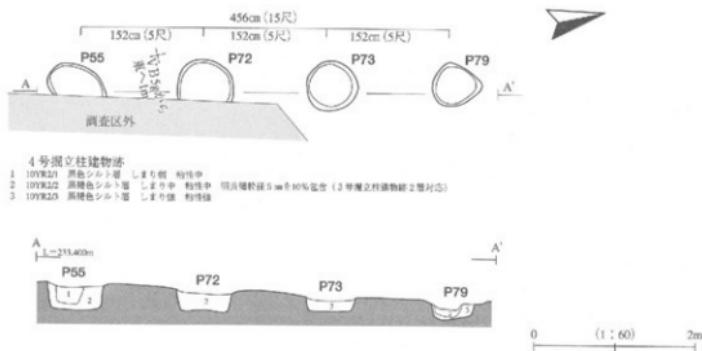
遺 構（第17図、写真図版7・8）

〔位置・検出状況〕調査区西側のVB5gグリッド付近に位置する。3号掘立柱建物跡と同じくⅠ層（表土層）直下で検出している。大半はⅡ層での検出だが、場所によってはⅣ層が露出していた。遺構検出の結果、柱穴が密集する地区であることが判明し、そのうち径60~70cmの柱穴で構成される長方形プランを確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。当初は3号掘立柱建物跡を構成する柱穴の可能性も検討したが、柱穴規模がやや異なることから、別施設と捉えた。柱穴を掘り下げた結果、検出面から深さ13~30cmのところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡ないしは構列として精査を進めた。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形式〕規模不明。確認できた柱列は456cmである。構列と掘立柱建物の2者の可能性がある。構列とすれば、軸線上に同規模の柱穴がさらに発見される可能性が高いが、確認できなかった。掘立柱建物跡とすれば、調査区外へ遺構範囲が及ぶものと想定される。ここでは便宜的に掘立柱建物跡として報告する。

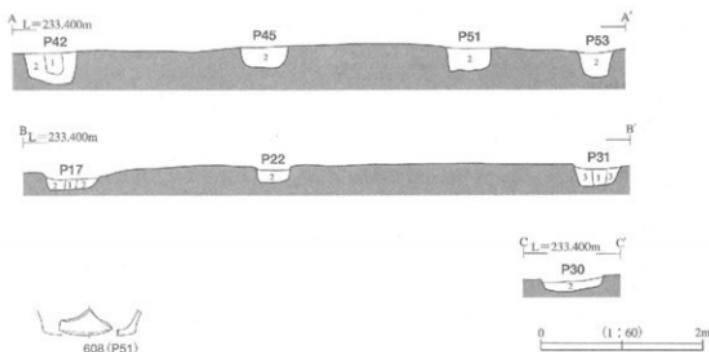
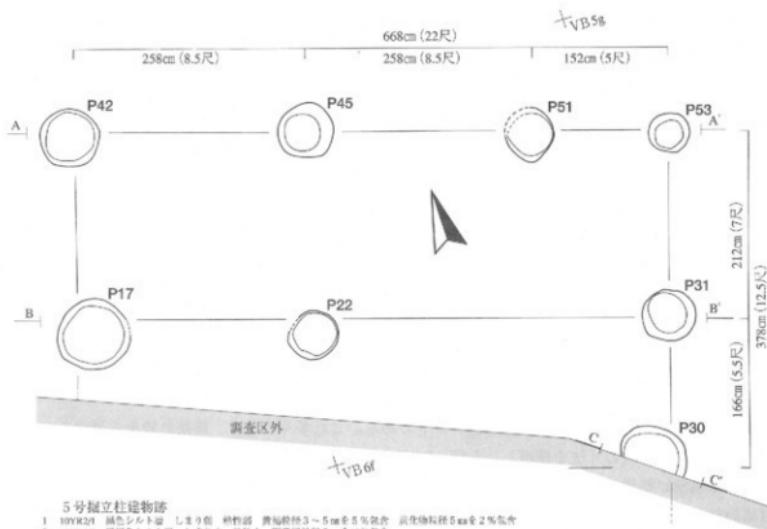
〔建物方位〕不明。



第17図 4号掘立柱建物跡

[埋土] 黒褐色シルト主体である。現場所見では、埋土2層が3号掘立柱建物跡第2層に対応する。第79号柱穴の埋土3層は粘性が強く、埋没過程で水分の浸透作用によって2層から分離した可能性がある。

[柱間寸法] 5尺（約157cm）を使用している。



第18図 5号掘立柱建物跡

〔柱穴〕 本遺構に使用されたと考えられる柱穴は4個である。

〔付属施設〕 隣接する3号掘立柱建物跡が主層と想定される。

〔建物の性格〕 不明。

遺 物 なし。

時 期 埋土の特徴と遺構の配置関係から3号掘立柱建物跡と同時期の19世紀初頭と考えられる。

5号掘立柱建物跡

遺 構 (第18図、写真図版9)

〔位置・検出状況〕 B区西側のVB5fグリッド付近に位置する。3号掘立柱建物跡と同じくI層(表土層)直下で検出している。大半はII層での検出だが、場所によってはIV層が露出していた。遺構検出の結果、柱穴密集地区であることが判明し、そのうち主に径60~80cm程度の柱穴で構成される長方形プランを確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。検出面から深さ15~40cmのところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断した。当初は3号掘立柱建物跡を構成する可能性を考慮したが、配置関係にやや難があり、独立した建物として精査を進めた。

〔重複関係〕 本遺構を構成する22号・51号柱穴は、それぞれ3号掘立柱建物跡を構成する20号・50号柱穴と重複し、古い。したがって、本遺構は3号掘立柱建物跡よりも古期に位置づけられる。

〔規模・平面形式〕 掘立柱建物である。確認できた規模は桁行378cm以上、梁行668cmの長方形プランを呈する。床面積は 25.25m^2 (7.65坪) 以上で、本遺構範囲は調査区外へ広がると想定される。

〔建物方位〕 N-18°-E。

〔埋土〕 黒褐色シルト主体で柱痕跡は黒色シルトである。また多くの場合、黄褐色粒を少量含む。

〔柱間寸法〕 5寸単位の寸法を採用し、5尺~8.5尺までを使用している。

〔柱穴〕 本遺構に使用されたと考えられる柱穴は8個である。

〔付属施設〕 建物の配置関係から6号掘立柱建物跡が本遺構に付属する小屋として想定される。

〔建物の性格〕 全体の平面形式は不明であるが、規模から母屋と考えられる。

遺 物 (第54図、写真図版34)

〔出土状況〕 51号柱穴埋土から出土している。

〔遺物〕 608の在地系陶器が出土している。

時 期 柱穴の重複関係と埋土内出土遺物の年代から18~19世紀代が想定される。

6号掘立柱建物跡

遺 構 (第19図、写真図版9)

〔位置・検出状況〕 B区西側のVB4fグリッド付近に位置する。3号掘立柱建物跡と同じくI層(表土層)直下で検出している。大半はII層での検出だが、場所によってはIV層が露出していた。遺構検出の結果、多数の柱穴の密集する地区であることが判明し、そのうち主に径25~50程度で構成される長方形プランを確認した。検出面から深さ15~35cmのところで底面に達した。当初は3号掘立柱建物跡に付属する構造の可能性を考慮したが、柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断した。

〔重複関係〕 なし。

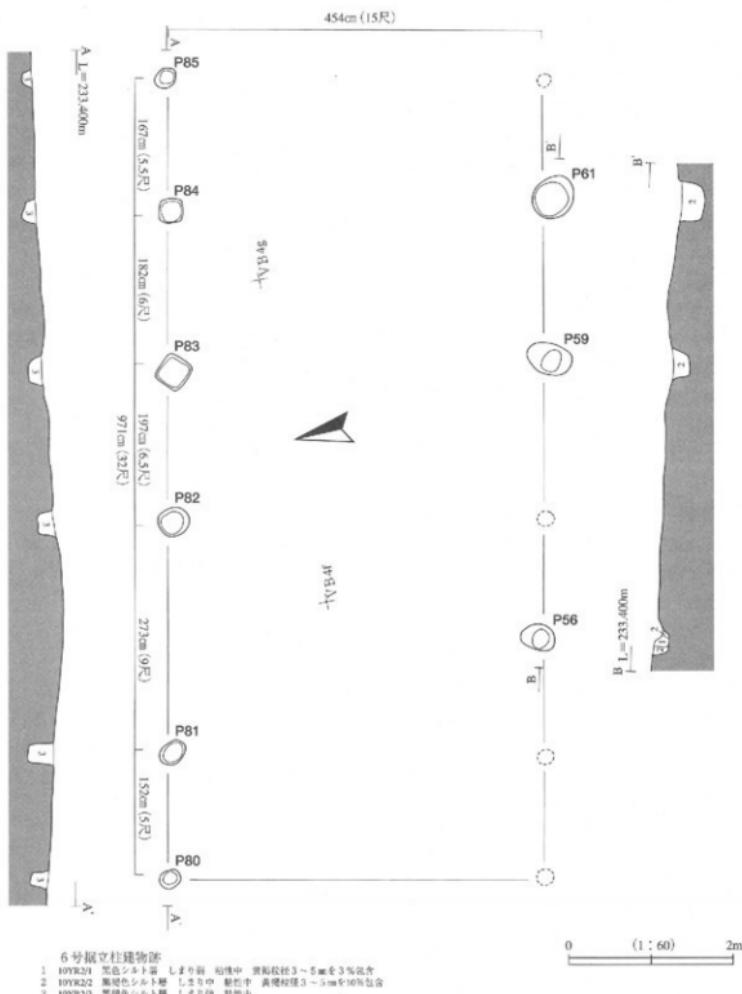
〔規模・平面形式〕 掘立柱建物である。調査区内で確認できた規模は、桁行971cm、梁行454cmの長方形プランを呈すると考えられ、調査区外へ広がると想定される。床面積は 44.1m^2 (13.35坪) 以上である。

〔建物方位〕 N-80°-W。

【埋土】 黒褐色シルト主体である。また多くの場合、黄褐色土粒を微量～少量含む。

【柱間寸法】 5寸単位で5尺～9尺を使用している。

【柱穴】 本遺構に使用されたと考えられる柱穴は9個である。



- 6号掘立柱建物跡
- 1 IOYR2/1 黒色シルト層 しまり弱 柔性中 粘和粒径3～5mmを3%以上含む
 - 2 IOYR2/2 黒褐色シルト層 しまり中 柔性中 黄褐色粒3～5mmを10%以上含む
 - 3 IOYR2/3 黑褐色シルト層 しまり強 柔性中

第19図 6号掘立柱建物跡

【付属施設】配置関係から、隣接する5号掘立柱建物跡が付属施設として想定される。

【建物の性格】全体の平面形式は不明であるが、規模から小屋と考えられる。

遺 物 なし。

時 期 配置関係から5号掘立柱建物跡と同時期の18~19世紀代が想定される。

7号掘立柱建物跡

遺 構（第20図、写真図版10）

【位置・検出状況】B区西側のVB2iグリッド付近に位置する。I層（表土層）直下で検出している。II層での検出を主体とするが、本遺構は1号捨て場範囲内にあるため、1号捨て場調査のはば終了した段階のIV層（To-cu）上面で明確になった。遺構検出の結果、長方形プランに配列する柱穴を確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。各柱穴を掘り下げた結果、検出面から深さ40~60cmのところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断して精査を進めた。

【重複関係】なし。

【規模・平面形式】掘立柱建物である。調査区内で確認できた規模は桁行985cm以上、梁行726cmの長方形プランを呈すると考えられる。床面積は残存値で 71.51m^2 (21.67坪) 以上である。梁行が非常に長いため2列の構列としての可能性もある。捨て場内に位置し、中央部が低く、窪地状になっていることから中央部の柱穴が捨て場調査によって消滅したかもしれない。

【建物方位】N-1°-E。

【埋土】ほぼ単一層を呈し、黒色~黒褐色シルト主体である。IV層を掘り込む柱穴はTo-cuブロックを少量含む。

【柱間寸法】桁の柱間寸法は両列とも北から9尺-8尺-7.5尺を使用している。

【柱穴】本遺構に使用されたと考えられる柱穴は9個以上である。柱痕跡の確認できた柱穴は少なく、118・129号柱穴のみである。

【付属施設】なし。

【建物の性格】小屋である。

遺 物（第31・54図、写真図版18・34）

【出土状況】123号柱穴埋土上部と132号柱穴底面から遺物が出土している。

【遺物】123号柱穴上部から繩文土器（24）、132号柱穴底面から永楽通宝（720）が出土している。

時 期 132号柱穴底面出土の永楽通宝を根拠として中世~近世が想定される。遺構の存続時期は不明だが、遺構範囲内からは16世紀後半代の唐津産陶器が出土していることから中世末期に構築された可能性もある。

8号掘立柱建物跡

遺 構（第21図、写真図版11）

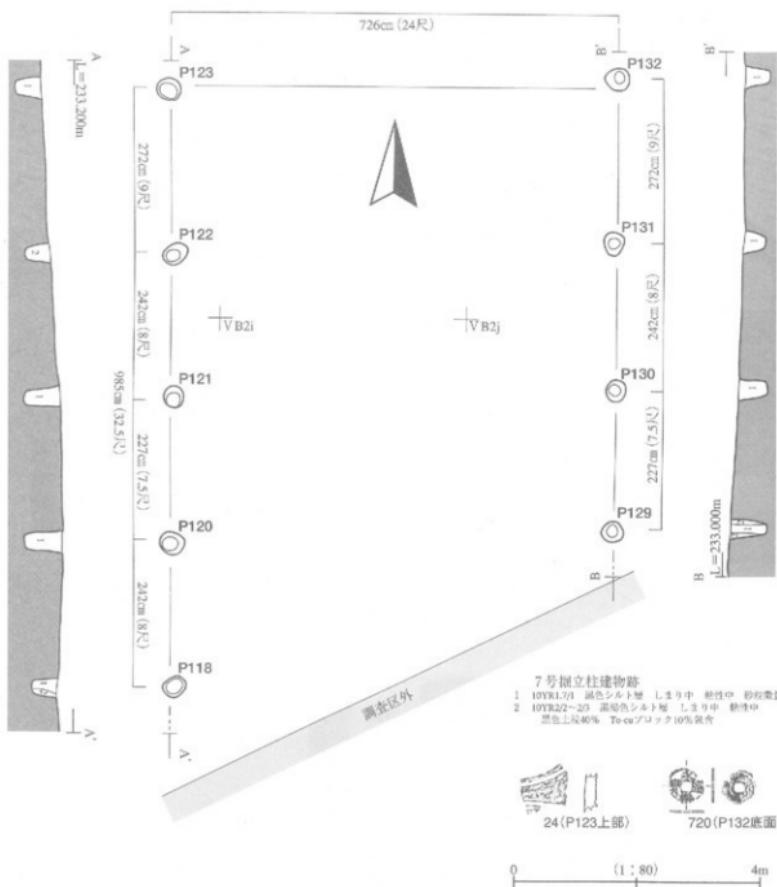
【位置・検出状況】B区中央のIVC7eグリッド付近に位置する。I層（表土）を除去した後、II層の層厚が薄く、すぐにIV層に達したため、IV層で遺構検出を実施した。遺構検出の結果、一部が調査区外へと延びるほぼ正方形プランに配列する柱穴を確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して調査を行った。各柱穴を掘り下げた結果、検出面から深さ約100cmのところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断して精査を進めた。

[重複関係] なし。

[規模・平面形式] 据立柱建物である。規模は調査区外に延びているため残存値であるが、ほぼ正方形プランを呈すると考えられる。床面積は残存値で 6.58m^2 (1.99坪) 以上である。柱穴掘り方は径70~80cm、柱痕跡は径15~25cmである。

[建物方位] N-27° -E。

[埋土] 柱痕跡が確認でき、柱材は遺棄されたと考えられる。埋土にはぶい黄褐色砂層を主体とする。139号柱穴は台風によって遺構を覆っていたブルーシート、土のう、コンパネ材が移動して雨水が流入し、堆積観察用のセクションが崩落したため、セクション図作成が出来なかった。



第20図 7号据立柱建物跡

[柱間寸法] 242cmと272cmが使用されている。

[柱穴] 本遺構に使用されたと考えられる柱穴は3個以上である。139号柱穴は底面に礫が設置されている。

[付属施設] なし。

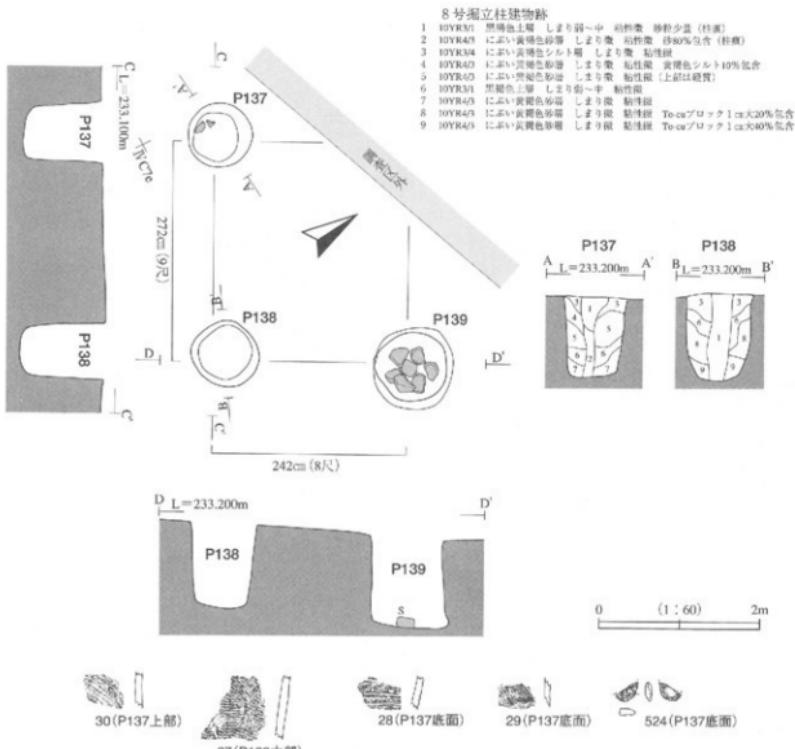
[建物の性格] 不明。1号捨て場に隣接する。

遺 物 (第31・48図、写真図版18・31)

[出土状況] 137号柱穴底面と138号柱穴中部から遺物が出土している。柱穴には柱痕跡が残されておりことから、これらの遺物は遺構構築時の流入と考えられる。

[遺物] 137号柱穴から縄文土器 (28・29) と石器 (524)、138号柱穴から縄文土器 (27) が出土している。

時 期 純文時代後期と思われる。



第21図 8号掘立柱建物跡

9号掘立柱建物跡

遺構（第22図、写真図版12）

[位置・検出状況] B区東側のIV D6cグリッド付近に位置する。I層（表土）を除去した後、140・143号柱穴のプランを確認し、II層除去後に141・142号柱穴を確認した。遺構検出の結果、これら4個の柱穴が長方形プランに配列することを確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して調査を行った。各柱穴を掘り下げる結果、検出面から深さ約40～80cmのところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断して精査を進めた。

[重複関係] なし。

[規模・平面形式] 堀立柱建物である。床面積は6.92m²である。

[建物方位] N-20° -W。

[埋土] 3個で柱痕跡が確認でき、多量の礫を包含する。黒褐色土主体である。また143号柱穴埋土は極暗赤褐色を呈し、酸化鉄を包含する。柱穴掘り方は径70～80cm、柱痕跡は径15～30cmである。

[柱間寸法] 303cmと227cmを使用している。

[柱穴] 本遺構に使用された柱穴は4個である。すべての柱穴底面には大型礫が敷き詰められている。柱痕跡が確認できた柱穴は柱材が造営されたと考えられる。

[付属施設] なし。

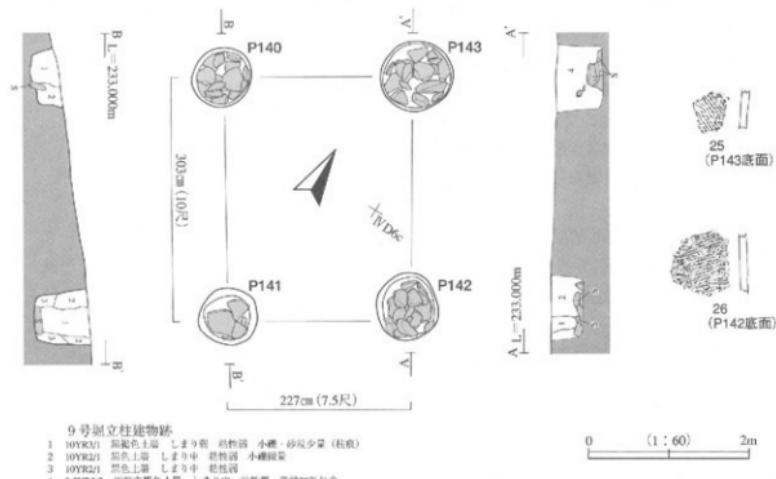
[建物の性格] 不明。2号捨て場に隣接する。

遺物（第31図、写真図版18）

[出土状況] 142・143号柱穴埋土底面から出土している。142号柱穴は柱痕跡が確認できたことから、出土遺物は建物構築時に流入したと考えられる。

[遺物] 142号柱穴底面から純文土器（26）、143号柱穴底面から縄文土器（25）が出土している。

時期 遺物の年代から縄文時代後期と思われる。



第22図 9号掘立柱建物跡

(2) 土 坑

1号土坑（第23図、写真図版13）

【位置・検出状況】B区1号捨て場内のVB1jグリッドに位置する。I層（表土）を除去した後、II層（黒褐色）上面で遺構検出を実施した。1号捨て場の調査途中で、やや砂粒の多い長方形に拡がる黒褐色プランを確認した。

【重複関係】1号捨て場の形成過程で構築されたと考えられる。

【形状・規模】平面形は104×41cmの長方形である。底面標高232.76m。

【埋土】黒褐色シルトと砂で構成され、砂粒を多量に包含する。

【時期】検出面から縄文時代後期と思われる。

2号土坑（第23図、写真図版13）

【位置・検出状況】B区1号捨て場内のIVB10jグリッドに位置する。I層（表土）を除去した後、II層（黒褐色）上面で遺構検出を実施した。1号捨て場の調査途中で、やや砂粒の多い長方形に拡がる黒褐色プランを確認した。

【重複関係】1号捨て場の形成過程で構築されたと考えられる。6号土坑と重複し、本遺構が新しい。

【形状・規模】平面形は122×81cmの楕円形である。断面形は皿形を呈する。底面標高232.95m。

【埋土】黒褐色シルトと砂で構成され、砂粒を多く包含する。

【出土遺物】縄文土器が3点出土している。1号捨て場形成時に混入したと考えられる。

【時期】検出面と出土遺物から縄文時代後期と思われる。

3号土坑（第23図、写真図版13）

【位置・検出状況】B区1号捨て場内のIVB10jグリッドに位置する。I層（表土）を除去した後、II層（黒褐色）上面で遺構検出を実施した。1号捨て場の調査途中で、やや砂粒の多い楕円形に拡がる黒褐色プランを確認した。4号土坑と隣接する。

【重複関係】1号捨て場の形成過程で構築されたと考えられる。

【形状・規模】平面形は142×88cmの楕円形である。断面形は皿形を呈する。底面標高232.92m。

【埋土】黒褐色シルトと砂で構成され、砂粒を多く包含する。埋土は1号土坑と類似する。

【出土遺物】縄文土器が3点出土している。

【時期】検出面と出土遺物から縄文時代後期と思われる。

4号土坑（第23図、写真図版13）

【位置・検出状況】B区1号捨て場内のIVB9jグリッドに位置する。I層（表土）を除去した後、II層（黒褐色）上面で遺構検出を実施した。1号捨て場の調査途中で、やや砂粒の多い長方形に拡がる黒褐色プランを確認した。3号土坑と隣接する。

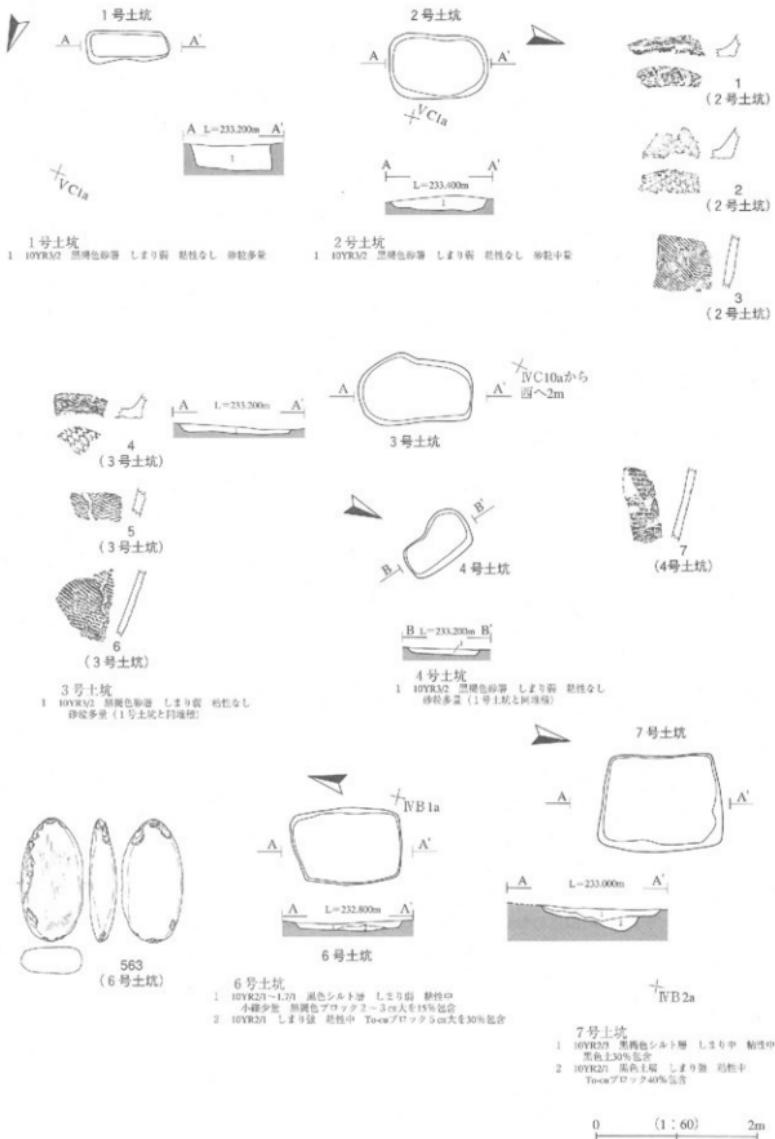
【重複関係】1号捨て場の形成過程で構築されたと考えられる。

【形状・規模】平面形は92×60cmの長方形である。断面形は皿形を呈する。底面標高232.98m。

【埋土】黒褐色シルトと砂で構成され、砂粒を多く包含する。埋土は1号土坑と類似する。

【出土遺物】縄文土器が1点出土している。

【時期】検出面と出土遺物から縄文時代後期と思われる。



第23図 1~4・6・7号土坑

5号土坑（第24図、写真図版14）

【位置・検出状況】B区1号捨て場内のIV C9 a グリッドに位置する。I層（表土）を除去した後、II層（黒褐色）上面で遺構検出を実施した。1号捨て場調査中に捨て場内堆積土よりも黒く円形に拡がる黒色シルトのプランを確認した。

【重複関係】埋土の検討から1号捨て場の廃絶後に構築されたと考えられる。

【形状・規模】平面形は120×117cmの円形、断面形はバケツ形を呈する。底面標高232.10m。

【埋土】黒色シルトと砂で構成され、砂粒は少量である。

【出土遺物】埋土の上部から縄文土器・石器、下部・底面から近世人骨1体・寛永通宝・鍾管が出土している。木造構築時に1号捨て場を掘り込んでいることから、縄文時代遺物は1号捨て場内出土遺物の混入と考えられる。寛永通宝は古寛永・文錢・新寛永で構成される。人骨は頭部の一部大脳骨の遺存状態が良好であった。歯の磨耗度から老年期の男性と推定される。詳細は第V章第4節を参照されたい。

【遺構の性格】近世墓壙である。

【時期】出土遺物から18世紀後半である。

6号土坑（第23図、写真図版14）

【位置・検出状況】B区1号捨て場内のIV B10 j グリッドに位置する。I層（表土）を除去した後、II層（黒褐色）上面で遺構検出を実施した。1号捨て場の調査途中で、長方形に拡がる黒褐色プランを確認した。

【重複関係】1号捨て場の形成過程で構築されたと考えられる。2号土坑と重複し、本遺構が古い。

【形状・規模】平面形は135×95cmの長方形である。断面形は皿形を呈する。底面標高232.60m。

【埋土】黒褐色シルトを主体とする。本遺構はIV層（To-cu）を掘り込み、埋土にTo-cuブロックを包含する。

【出土遺物】磨石が出土している。1号捨て場形成時に混入したと考えられる。

【時期】検出面と出土遺物から縄文時代後期と思われる。

7号土坑（第23図、写真図版14）

【位置・検出状況】B区1号捨て場内のV B1 j グリッドに位置する。I層（表土）を除去した後、II層（黒褐色）上面で遺構検出を実施した。1号捨て場の調査途中で、長方形に拡がる黒褐色プランを確認した。

【重複関係】1号捨て場の形成過程で構築されたと考えられる。

【形状・規模】平面形は152×121cmの長方形である。断面形は皿形を呈する。底面標高232.45m。

【埋土】黒褐色シルトを主体とする。本遺構はIV層（To-cu）を掘り込み、埋土にTo-cuブロックを包含する。

【出土遺物】なし。

【時期】検出面から縄文時代後期の可能性がある。

8号土坑（第25図、写真図版14）

【位置・検出状況】B区1号捨て場内のV B2 i グリッドに位置する。I層（表土）を除去した後、II層（黒褐色）上面で遺構検出を実施した。1号捨て場の調査途中で、長方形に拡がる黒褐色プランを確認した。

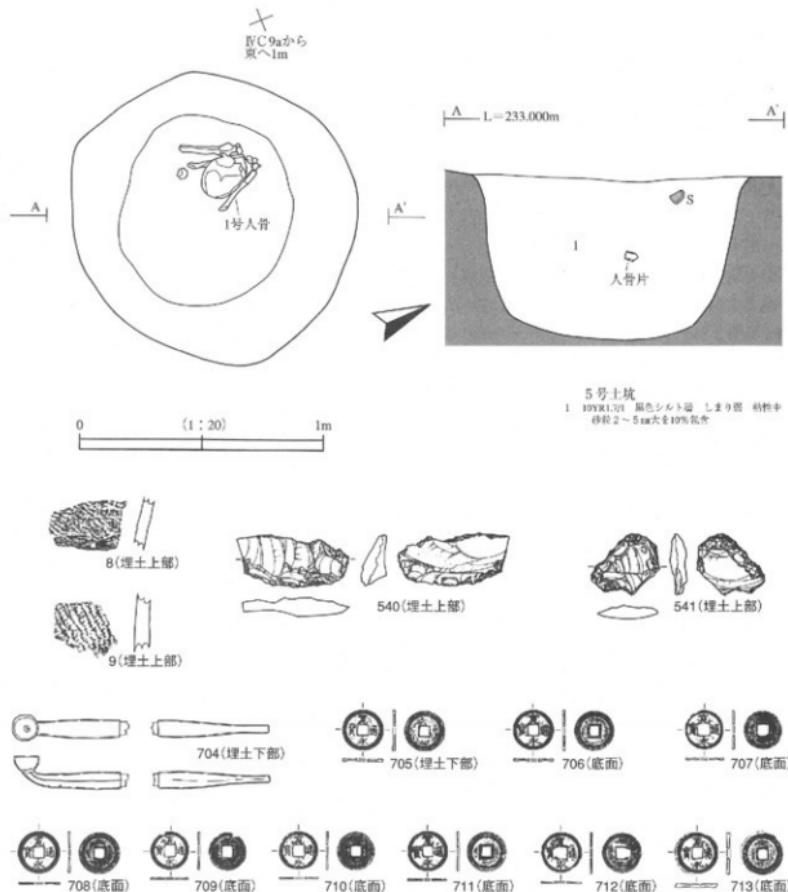
【重複関係】1号捨て場の形成過程で構築されたと考えられる。

【形状・規模】平面形は148×76cmの長方形である。断面形は皿形を呈する。底面標高232.62m。

【埋土】黒褐色シルトを主体とする。本遺構はIV層（To-cu）を掘り込み、埋土にTo-cuブロックを包含する。

【出土遺物】なし。

【時期】検出面から縄文時代後期の可能性がある。



第24図 5号土坑

9号土坑（第25図、写真図版15）

【位置・検出状況】 2号捨て場に隣接するⅣ D2 f グリッドに位置する。I層（表土）を除去した後、II層（黒褐色）下部とIII層でそれぞれ遺構検出を実施し、長方形に括がる黒色プランを確認した。

【重複関係】 なし。

【形状・規模】 平面形は173×68cmの長方形である。断面形は皿形を呈する。底面標高232.24m。

【埋土】 黒色シルトを主体とする。埋土に砂粒を少量包含する。

【出土遺物】 繩文土器が3点出土している。

【時期】 検出面と遺物から縄文時代後期。

10号土坑（第25図、写真図版15）

【位置・検出状況】 2号捨て場に隣接するⅢ D10 f グリッドに位置する。I層（表土）を除去した後、II層（黒褐色）下部で遺構検出を実施し、円形に括がる黒色プランを確認した。

【重複関係】 なし。

【形状・規模】 平面形は133×124cmの円形である。断面は描鉢形を呈する。底面標高231.78m。

【埋土】 黒色土を主体とする。埋土に砂粒・To-cu粒を微量包含する。多量の遺物が2・3層を主体として出土している。

【出土遺物】（第31・47～49図、写真図版18・30・31）

縄文土器・石器がまとまって出土している。縄文土器は13がほぼ完形にまで復元された。18は2号捨て場第3層出土土器（263）と同一個体の可能性がある。

【時期】 検出面と遺物から縄文時代後期前葉。

(3) 溝 跡

1号溝跡（第26図、写真図版16）

【位置・検出状況】 B区西側のVB1f グリッドに位置する。B区西側は土地改変に伴う削平が著しい。厚く堆積していた盛土を除去したところ、IV層が露出していた。IV層で検出し、緩いカーブを描く溝形に括がる黒褐色プランを確認した。

【重複関係】 91号柱穴と重複し、本遺構が古い。

【形状・規模】 平面形は198×23cmの溝形。断面形は浅い皿形を呈する。

【長軸方位】 N-18° -E。

【埋土】 黒褐色土主体の單一層で構成される。

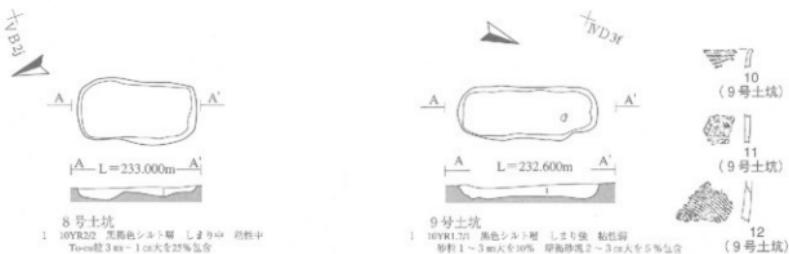
【遺構の性格】 不明。ただし、B区柱穴密集区に位置し、密集区域内出土遺物、遺構配置関係および遺構埋土の特徴などから竪穴住居跡の壁溝ないしは柱間溝の可能性がある。

【時期】 出土遺物が皆無のため不明だが、上記の理由から縄文時代の可能性がある。

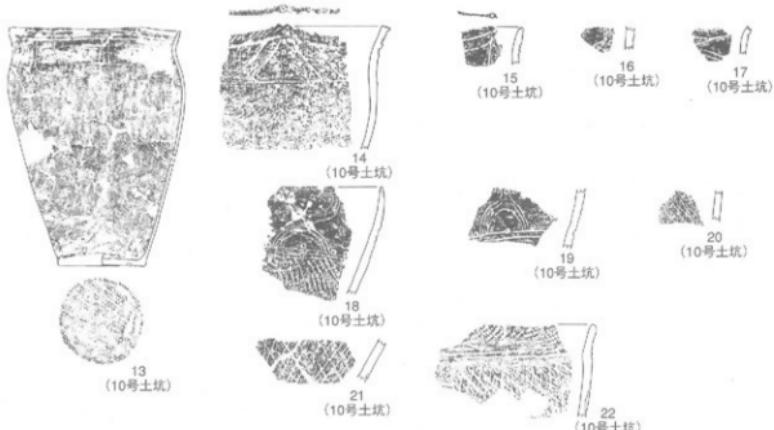
(4) B区柱穴群（第26・27図、写真図版16）

B区西側には柱穴跡が密集している。VB4f グリッド付近には近世掘立柱建物跡が4棟確認でき、埋土の状況は類似していることから、ほぼ近世の所産と考えられる。

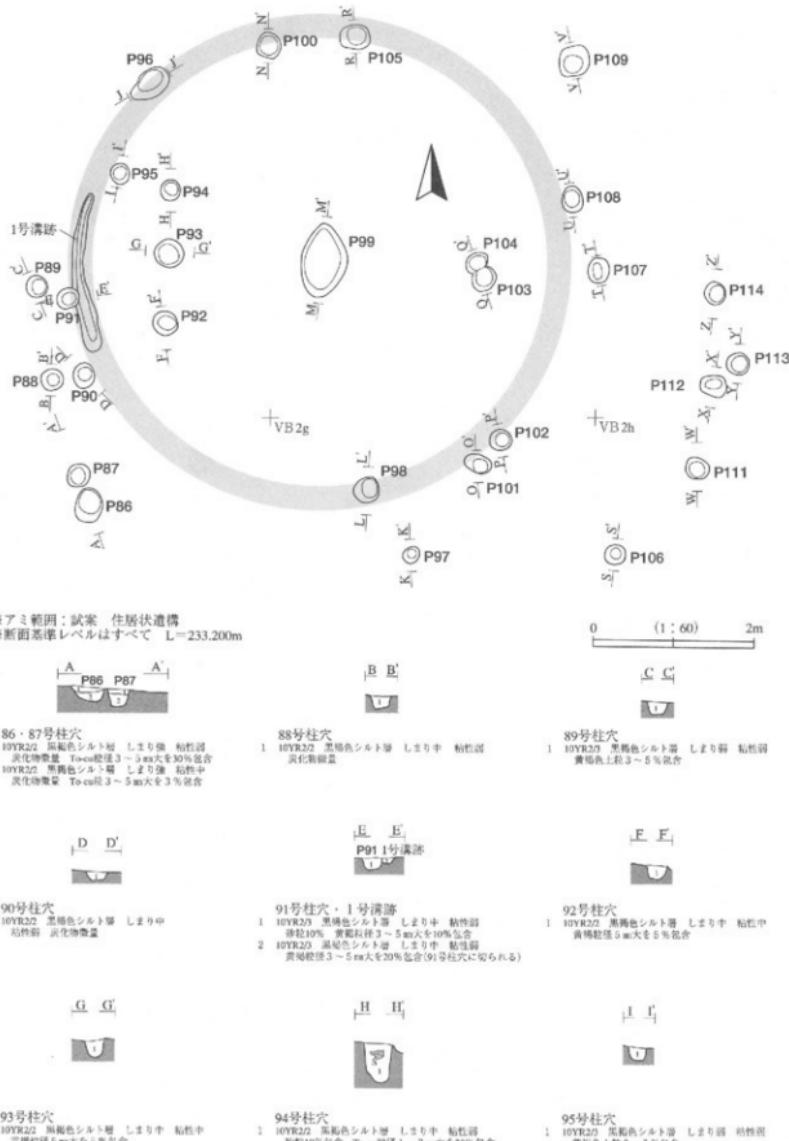
一方、VB2g グリッド付近の柱穴は近世掘立柱建物跡の埋土より全体的に黒色が強く、しまりの良い堆積土であった。1号捨て場の上位堆積土に類似することから、縄文時代の柱穴の可能性がある。1号溝跡の延長線上には柱穴が並び、住居状遺構の可能性を試案として第26図に示した。



- 10号土坑**
- 1 10YR2/2 黒褐色土層 しまり中 粘性弱 砂粒1%混含
 - 2 10YR3/3 暗褐色土層 しまり中 粘性弱 To-cuブロック 1cmを10%混含 (黒土層混含)
 - 3 10YR2/2 黒褐色土層 しまり弱 粘性弱 砂粒1%混含 (黒土層混含)
 - 4 10YR1.7/1 黑色土層 しまり強 粘性弱 To-cuブロック 1cm大を1%混含



第25図 8～10号土坑



第26図 B区柱穴群 (1)



第27図 B区柱穴群 (2)

(5) 土器埋設遺構

1号埋設土器（第30図、写真図版15）

[位置・検出状況] 黒色土が厚く堆積するC区II E10cグリッドに位置する。C区7層（第1泥炭層）で出土した。C区は全面を埋没谷と捉え、洪水層と黒色層（一部泥炭層）の互層を層ごとに掘削しており、遺物包含層を確認した。本遺構は7層調査時に単独出土した。土器は正位に配置され、明確な掘り込みは見られなかったが、7層は水分を多く含む粘性堆積物層であり、土器埋設後に7層が水性作用によって伸縮を繰り返し、本来の掘り方のラインを消失させたものと考えられる。

[形状・規模] 口径18.2cm、器高20.2cmの深鉢を埋設している。

[埋土] 2層に分離され、1層は黒色土を主体とし、2層は砂粒が多い。2層内にはわずかながら白色粒子が見られ、骨片の可能性を考慮して土壤分析を実施した。本遺構に骨蔵器としての用途があるかを検証目的としたが、有意義な結果は得られなかった。第Ⅶ章第2節の土壤分析を参照されたい。

[遺物] 深鉢（31）で磨消手法を多用している。沈線によって凹状のモチーフを描出する。

[時期] 検出面と遺物から縄文時代後期前葉である。

(6) 焼土遺構

1号焼土遺構（第30図、写真図版15）

[位置・検出状況] B区西側VB2jグリッドの1号捨て場内に位置する。1号捨て場調査中に暗赤褐色土粒を検出した。住居内地床跡の可能性を検討すべく、柱穴・住居壁などの縦穴住居施設の検出を試みたが、発見できなかった。捨て場内に投げ込まれた可能性もあるが、散在していない。

[形状・規模] 平面形は30×24cmの不整形。断面形は浅い皿形を呈する。

[埋土] 黒褐色土内に暗赤褐色土粒が含まれる。

[時期] 検出面から縄文時代後期である。

(7) 捨て場

1号捨て場

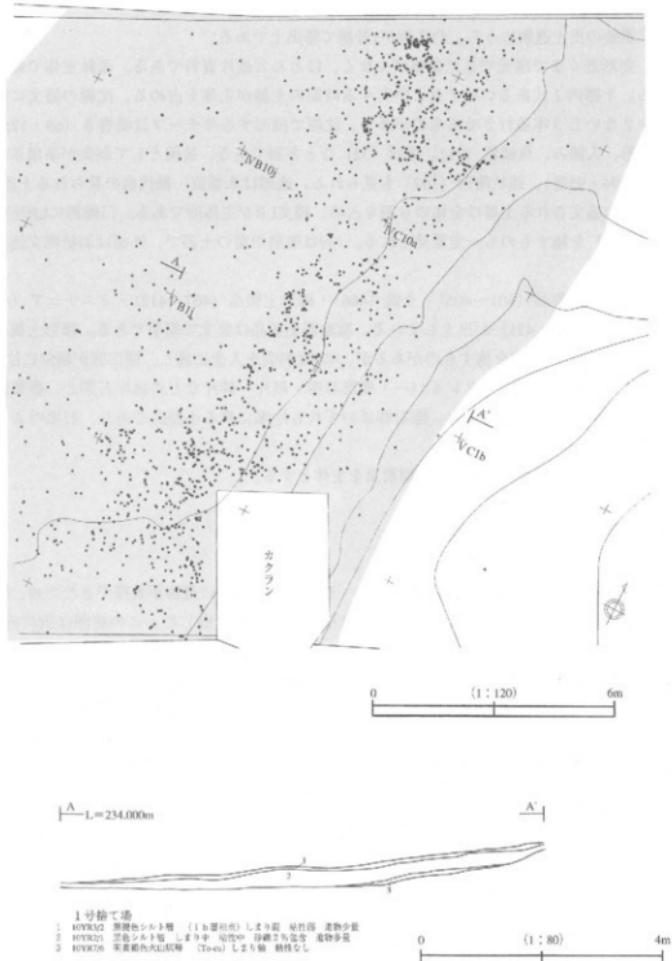
遺構（第28図、写真図版1）

[位置・検出状況] B区西側のIVB9j・IVB10j・VB1j・VB2jを中心とする遺物が表採できたため、薄く堆積していたI層（表土）から人力で掘削し、II層上面で遺構検出作業を行った。この範囲は浅い埋没沢を覆うように地層の堆積がみられた。当初III層（黒色土層）と区別できなかったが、II層より土壤化が進行し、マサ上の流入も見られた。遺物は2層の黒色土層を中心に出土している。範囲内からは1～8号土坑と1号焼土遺構を検出したが、明確な居住痕跡である縦穴住居跡は発見できなかった。本遺構については遺物の集合・飛散状態を検討するため、遺物点を可能な限り採取したが、その結果、完形品近くまで復元される個体の土器片が放射状に散在する状況や埋没沢を覆うように分布することを確認できた。したがって、遺物の投げ込み行為が遺構形成の1要因として考えられたため、捨て場として登録することとした。

[規模] 約255m²を調査区内で検出し、調査区外へと南北に広がると想定される。層厚は50～60cmで、V層直上まで遺物が出土する。

遺物（第32～39・45～53図、写真図版19～24・30～33）

[出土状況] 細やかな斜面部に最も遺物量が多い。投げ込み行為の大半は、本遺構東側の微高地上か



第28図 1号捨て場

らと考えられる。

[遺物] 本遺跡の出土遺物のうち、約7割が1号捨て場出土である。

土器は、完形近くまで復元できた個体が少なく、ほとんど破片資料である。深鉢主体で鉢・浅鉢少量存在する。十腰内1式あるいはそれと併行する時期の土器が主体を占める。沈線の施文に特徴があり、沈線を2ないし3本並行させるものが多い。沈線で描出するモチーフは渦巻き（69・125～127）、円形、三角形、入組み、魚鱗状（73）、波状（32）など多彩である。装飾として刺突が多用され（50・57・88・89・94・95等）、鎖状隆帯（102）も見られる。底部は木葉痕・網代痕の見られる土器が多い。縄文・撚糸文の施文される土器は全体の6割を占め、縄文LRが主体的である。口縁部にLR压痕による区画（148～150）を施すものも一定量見られる。139は後期中葉の土器で、外面は羽状縄文施文後に磨かれている。

土製品は腕輪型土製品（401～405）・土偶（406）・鏃形土製品（407～412）・ミニチュア（413）・円盤形土製品（417～419・421）が出土している。腕輪形土製品は無文で厚手である。鏃形土製品は無文（407・408）と、沈線や刺突を施すものがあるが、409は刺突を入念に施し、開口部が横位に位置する。

石器は、石鎌・錐・石匙・スクレイパー・楔形石器・剥片・碎片などの剥片石器と、磨製石斧・敲石・凹石・磨石の砾石器が出土した。砾石器はいずれも片掌に乗る小型品であり、石皿のような大型品は見られない。

時期 遺物の年代から縄文時代後期前葉を主体とする。

2号捨て場

遺構（第29図、写真図版2）

[位置・検出状況] 沢に近いB区東側のIVD3h・IVD4hを中心に遺物が表採できたため、厚く堆積していたI層（表土）を重機によって除去し、II層上面で遺構検出した。この範囲は沢に近いため、湧水が数箇所でみられた。遺物は黒色土層を中心に出土している。周辺には9・10号土坑があり、10号土坑からは本遺構の第3層出土土器と同一個体の可能性がある土器片が出土している。堅穴住居跡の可能性を考慮して調査を進めたが、硬化面・焼土・柱穴など居住に係わる痕跡を見つけられなかった。本遺構の北側に水の流入によって土層が削り取られた痕跡を確認した。土器は破片資料で、磨耗が激しい。廃棄場の様相を呈していると考え、2号捨て場として登録した。

[規模] 約95m²を調査区内で検出した。南側方向に調査区外へと広がると想定される。層厚は1.2～1.3mで、IV層（To-cu）を切るように堆積している。

遺物（第39～43・47～52図、写真図版25～27・30・31～33）

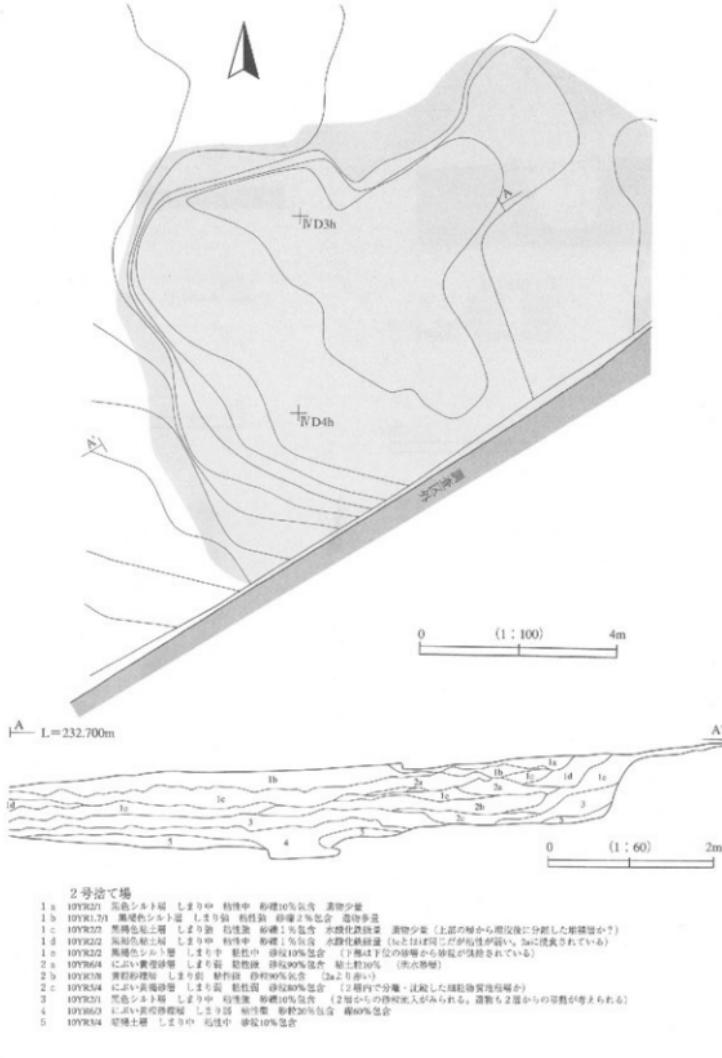
[出土状況] にぶい黄褐色砂礫層（3層）に最も遺物が多く、大半は磨滅している。

[遺物] 土器は、1層から後北A式併行段階の弥生土器（227～232）が出土している。大半は1層下部から3層で出土した。器形は深鉢主体だが、赤彩された壺形土器（198）も見られる。完形近くまで復元された個体はなく、すべて破片資料である。十腰内1式あるいはそれと併行する時期の土器が主体を占める。縄文・撚糸文の施文される土器は全体の6割を占め、縄文LRが主体的である。

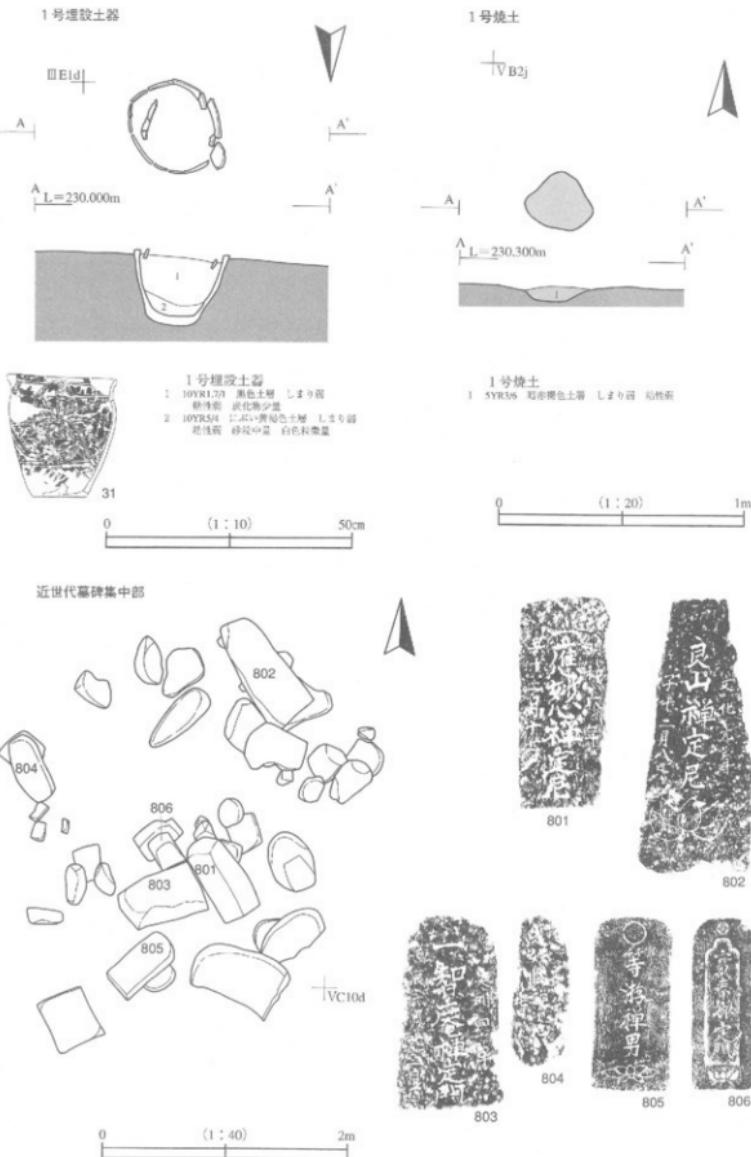
土製品はミニチュア（414・416）・円盤形土製品（420・422）が出土している。

石器は、石鎌・錐・石匙・スクレイパー・楔形石器・剥片・碎片の剥片石器と、磨製石斧・敲石・凹石・磨石の砾石器で構成される。

時期 遺物の年代から縄文時代後期前葉を主体とする。



第29図 2号捨て場



第30図 1号埋設土器、1号焼土遺構、近世墓碑集中部

(8) 近世墓碑集中部（第30図、写真図版17）

調査前の現況確認時に、すでにVC10dグリッド付近の木の根に絡まるように廃棄されていた。多数の大型礫の中に6基の墓碑（801～806）があり、年代は明和年間から文政年間までの18世紀後半～19世紀前半で統まる。これらは3・5号掘立柱建物跡の存続年代に近く、関係性が高いと考えられる。なお、本遺構出土墓碑は、発掘調査中に折木を探取し、旧地権者の墓碑置き場に移築した。

3 遺 物

(1) 土 器（第31～44図、写真図版18～29）

縄文時代後期前葉を主体として、後期中葉・晩期後葉・弥生中期の土器が出土している。後期前葉土器は大コンテナ14箱分あり、大半が捨て場遺構から出土した。完形近くまで復元できる資料（13・31・130等）は少なく、多くが破片資料である。地文を縄文とすることが多く、沈線・隆帯・刺突による文様描出が多用されている。赤彩痕跡の残る資料は82・198・199等ごくわずかだが、器面が磨耗している資料も多く、本米の赤彩土器の比率は不明である。

また、網目状燃系文のある土器が一定量存在する。器形は深鉢を主体とし、浅鉢・壺も破片であるが、わずかに認められる。土器はB区を中心に出土している。C区は今回の調査区内では標高が低く、後期前葉と晩期の上器が出土している。310は後期前葉の土器で、C区試掘トレンチから出土し、器面は良く磨かれている。322は晩期大洞A式の壺である。

(2) 土 製 品（第45～47図、写真図版29・30）

1・2号捨て場を中心に出土している。腕輪形土製品・鐸形土製品・ミニチュア土器・円盤形土製品・土偶が出土している。腕輪形土製品は、すべて無文で器厚が厚い。鐸形土製品は無文と沈線・刺突を多用するものがある。409は沈線による渦巻文を描出し、側面には刺突を入念に施し、開口部が横位に位置する。ミニチュア土器は完形品がない。413は鐸形土製品の破片の可能性がある。円盤形土製品は7点出土した。器面の磨耗が顕著で、左右の溝は不鮮明なものが多い。土偶は406の1点のみで脚部と思われる。

(3) 石 器（第48～53図、写真図版31～33）

大半が1・2号捨て場から出土した。上器群との対比関係から縄文時代後期前葉が主体と考えられる。石製利器、製作残滓からなり、468点出土した。その大半は製作残滓の剥片・碎片・石核である。石製利器の中では石鏃の比率が高い。石器の利用石材は周辺地域で採取可能ななものが多いが、青森県深浦産黒曜石と宮城県湯ノ倉産黒曜石がそれぞれ1点ずつ出土しており、遠隔地石材もわずかながら見られる（第5章5節参照）。

石器組成は石鏃47点、石錐2点、石匙5点、搔器12点、削器17点、楔形石器10点、三棱石器1点、磨製石斧7点、磨石9点、凹石1点、敲石1点、剥片類351点、石核5点である。剥片石器の石材は頁岩・メノウ・黒曜石を、礫石器は閃緑岩・安山岩・砂岩を利用している。また、遺跡内へ搬入された多量の礫については大コンテナ28箱分出土したが、この中には石器の素材礫も含まれていると考えられる。

(4) 陶 器 (第54図、写真図版34)

B区西側の中・近世掘立柱建物跡の構築範囲とその周辺から出土している。16世紀後半の唐津焼(601・604・607)は7号掘立柱建物跡範囲内から出土した。他の陶器は3号掘立柱建物跡範囲内から出土し、製作年代は19世紀前半である。

(5) 鉄 製 品 (第54図、写真図版34)

鉄製品はわずかである。701の釘は表土直下で出土した。702は3号掘立柱建物跡を構成する50号柱穴から出土している。702は火打ち金で両端を欠損している。703は用途不明の環状鉄製品である。

(6) 煙 管 (第55図、写真図版34)

704の1点のみで、5号土坑(近世墓域)から出土した。副葬品と考えられる。竹管部がわずかに残存し、吸口部は磨耗が著しく、断面が楕円形を呈している。

(7) 銭 貨 (第55図、写真図版34)

永楽通宝(720)は7号掘立柱建物跡を構成する132号柱穴から出土している。その他の銭貨は寛永通宝である。5号土坑では10枚の寛永通宝が出土し、古寛永・文銭・新寛永で構成される。また造構には伴わないが、鉄銭(722~726)も少量出土した。

(8) 墓 碑 (第56・57図、写真図版35)

発掘調査以前に原位置を保持しない状況で散在していた。後世の土地利用によって寄せられたものと考えられる。比較的大形のもの(801~803)は表面の風化が少なく、文字の判読が容易であるが、小形のもの(804~806)は判読できない文字もある。小形品のほうが時期の下る傾向にある。

第2表 造構計測表(柱穴)

測定	旧番号	グリッド	長(cm)	幅(cm)	底面標高(m)	構成
001号柱穴	P001	VB4a	58	58	231.90	1号掘立柱建物跡
002号柱穴	P002	VB3a	65	59	231.88	1号掘立柱建物跡
003号柱穴	P003	VB3a	57	54	231.83	1号掘立柱建物跡
004号柱穴	P004	VB3a	62	61	231.90	1号掘立柱建物跡
005号柱穴	P005	VB3b	60	54	231.99	1号掘立柱建物跡
006号柱穴	P006	VB4a	(42)	69	231.95	1号掘立柱建物跡
007号柱穴	P007	VB4b	62	64	232.05	1号掘立柱建物跡
008号柱穴	P008	VB3b	63	61	231.95	1号掘立柱建物跡
009号柱穴	P011	VB4b	40	36	232.40	1号掘立柱建物跡
010号柱穴	P012	VB3b	46	38	232.25	1号掘立柱建物跡
011号柱穴	P013	VB2b	81	(53)	231.65	2号掘立柱建物跡
012号柱穴	P014	VB2b	89	67	231.72	2号掘立柱建物跡
013号柱穴	P015	VB2b	77	70	231.58	2号掘立柱建物跡
014号柱穴	P017	VB2b	80	67	231.65	2号掘立柱建物跡
015号柱穴	P021	VB5d	85	76	232.76	3号掘立柱建物跡
016号柱穴	P029	VB5f	54	49	232.18	
017号柱穴	P030	VB5e	80	83	232.80	5号掘立柱建物跡
018号柱穴	P031	VB5f	54	53	232.80	
019号柱穴	P038	VB5f	49	(21)	232.85	
020号柱穴	P039	VB5e	81	60	232.73	3号掘立柱建物跡
021号柱穴	P125	VB5e	(42)	75	232.84	3号掘立柱建物跡
022号柱穴	P059	VB5g	57	57	232.88	5号掘立柱建物跡
023号柱穴	P127	VB5g	(51)	(10)	234.00	
024号柱穴	P051	VB5g	39	38	232.76	
025号柱穴	P131	VB5g	33	32	232.85	
026号柱穴	P064	VB5g	60	51	232.90	

第2表 遺構計測表(柱穴)

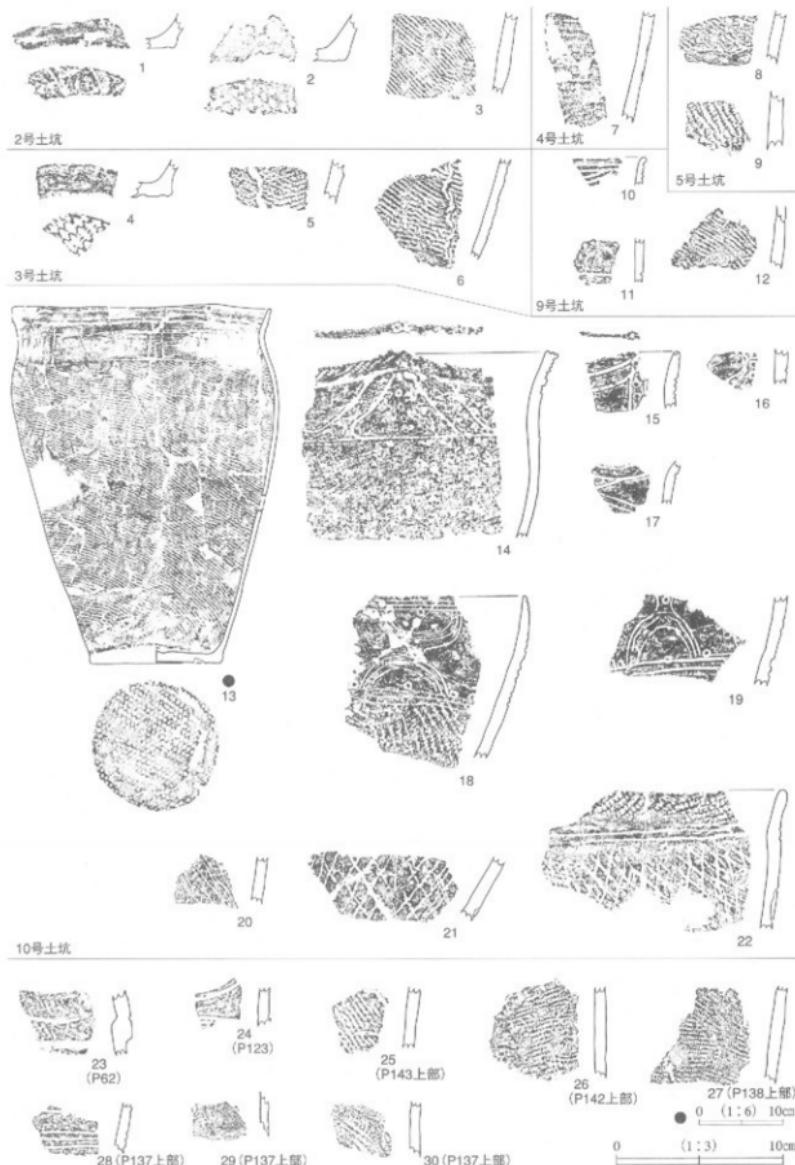
倒 番	山番号	グリッド	長(cm)	幅(cm)	底面標高(m)	構 成
027号柱穴	P065	VB5f	103	90	232.85	3号掘立柱建物跡
028号柱穴	P066	VB5f	(39)	85	232.80	3号掘立柱建物跡
029号柱穴	P077	VB5g	55	50	232.84	
030号柱穴	P087	VB6g	77	(48)	232.92	
031号柱穴	P083	VB5h	61	58	232.82	5号掘立柱建物跡
032号柱穴	P088	VB5g	49	40	232.83	
033号柱穴	P099	VB5g	39	36	232.83	
034号柱穴	P101	VB5g	48	(32)	233.06	
035号柱穴	P100	VB6g	28	25	232.83	
036号柱穴	P110	VB6g	30	26	232.90	
037号柱穴	P097	VB6g	61	52	232.85	
038号柱穴	P096	VB6g	50	55	232.85	
039号柱穴	P128	VB6g	37	(7)	232.82	
040号柱穴	P106	VB6h	26	26	234.00	
041号柱穴	P022	VB4e	94	58	232.72	3号掘立柱建物跡
042号柱穴	P033	VB4e	66	56	232.78	5号掘立柱建物跡
043号柱穴	P126	VB4g	45	41	232.75	
044号柱穴	P043	VB4e	69	73	232.87	3号掘立柱建物跡
045号柱穴	P042	VB5g	63	62	232.90	5号掘立柱建物跡
046号柱穴	P041	VB5g	59	54	232.72	
047号柱穴	P052	VB5g	39	37	232.85	
048号柱穴	P132	VB4g	34	26	232.94	
049号柱穴	P053	VB4g	39	35	232.90	
050号柱穴	P068	VB5f	116	91	232.77	3号掘立柱建物跡
051号柱穴	P076	VB5g	62	55	232.85	5号掘立柱建物跡
052号柱穴	P067	VB5g	31	30	232.84	
053号柱穴	P084	VB5h	46	44	232.74	5号掘立柱建物跡
054号柱穴	P089	VB5h	35	37	232.55	
055号柱穴	P090	VB6g	73	(39)	232.75	4号掘立柱建物跡
056号柱穴	P121	VB4f	42	31	232.91	6号掘立柱建物跡
057号柱穴	P045	VB4g	38	32	232.80	
058号柱穴	P122	VB4g	(35)	(12)	233.00	
059号柱穴	P055	VB4g	56	38	232.73	6号掘立柱建物跡
060号柱穴	P070	VB4g	38	31	232.80	
061号柱穴	P080	VB4h	57	48	232.70	6号掘立柱建物跡
062号柱穴	P023	VB4e	88	68	232.80	3号掘立柱建物跡
063号柱穴	P024	VB4e	72	(46)	232.78	3号掘立柱建物跡
064号柱穴	P035	VB4e	94	70	232.75	3号掘立柱建物跡
065号柱穴	P044	VB4f	96	71	232.80	3号掘立柱建物跡
066号柱穴	P058	VB4f	124	96	232.54	3号掘立柱建物跡
067号柱穴	P057	VB4f	(74)	80	232.59	3号掘立柱建物跡
068号柱穴	P071	VB4h	56	48	232.80	
069号柱穴	P072	VB4h	51	49	232.78	
070号柱穴	P082	VB4h	35	31	232.80	
071号柱穴	P081	VB4h	41	38	232.80	
072号柱穴	P091	VB4g	70	(52)	232.73	4号掘立柱建物跡
073号柱穴	P092	VB4g	63	60	232.73	4号掘立柱建物跡
074号柱穴	P026	VB3e	78	64	232.74	3号掘立柱建物跡
075号柱穴	P123	VB3e	66	(44)	234.00	3号掘立柱建物跡
076号柱穴	P036	VB3e	85	80	232.74	3号掘立柱建物跡
077号柱穴	P047	VB3f	90	76	232.80	3号掘立柱建物跡
078号柱穴	P060	VB3f	96	83	232.64	3号掘立柱建物跡
079号柱穴	P093	VB4g	60	54	232.54	4号掘立柱建物跡
080号柱穴	P028	VB3e	26	22	232.82	6号掘立柱建物跡
081号柱穴	P037	VB3e	34	25	232.80	6号掘立柱建物跡
082号柱穴	P048	VB3f	37	35	232.89	6号掘立柱建物跡
083号柱穴	P061	VB3f	50	48	232.82	6号掘立柱建物跡
084号柱穴	P075	VB3g	30	28	232.74	6号掘立柱建物跡
085号柱穴	P095	VB3g	28	22	224.63	6号掘立柱建物跡
086号柱穴	P139	VB2f	43	35	232.84	
087号柱穴	P140	VB2f	29	28	232.79	
088号柱穴	P141	VB1f	26	28	232.79	
089号柱穴	P142	VB1f	27	27	232.75	
090号柱穴	P143	VB1f	30	28	232.83	
091号柱穴	P192	VB1f	(28)	25	232.78	
092号柱穴	P144	VB1f	30	30	232.70	
093号柱穴	P147	VB1f	36	37	232.35	

第2表 遺構計測表（柱穴）

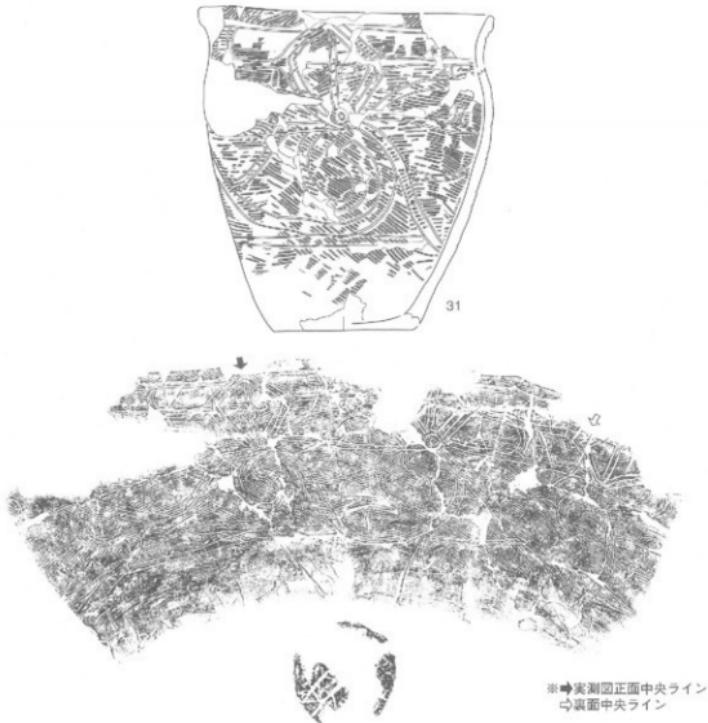
測 計	旧番号	グリッド	長 (cm)	幅 (cm)	底面標高 (m)	構 成
094号柱穴	P148	VB1f	25	23	232.63	
095号柱穴	P145	VB1f	25	22	232.66	
096号柱穴	P149	VB10f	51	25	232.30	
097号柱穴	P150	VB2g	20	20	232.74	
098号柱穴	P151	VB2g	32	32	232.52	
099号柱穴	P152	VB1g	93	57	232.70	
100号柱穴	P153	VB10f	32	30	232.72	
101号柱穴	P154	VB2g	22	34	232.72	
102号柱穴	P155	VB2g	26	27	232.68	
103号柱穴	P156	VB1g	25	30	232.64	
104号柱穴	P157	VB1g	22	30	232.62	
105号柱穴	P158	VB10g	30	36	232.15	
106号柱穴	P159	VB2h	25	25	232.87	
107号柱穴	P160	VB1g	32	26	232.80	
108号柱穴	P161	VB1g	31	28	232.64	
109号柱穴	P162	VB10g	35	36	232.32	
110号柱穴	P163	VB3h	36	37	232.86	
111号柱穴	P164	VB2h	26	28	232.55	
112号柱穴	P165	VB1h	28	32	232.67	
113号柱穴	P166	VB1h	28	27	232.73	
114号柱穴	P167	VB1h	29	27	232.75	
115号柱穴	P168	VB1h	27	27	232.62	
116号柱穴	P169	VB2h	30	35	232.37	
117号柱穴	P170	VB10h	35	36	232.14	
118号柱穴	P118	VB3h	38	38	232.50	7号掘立柱建物跡
119号柱穴	P119	VB3h	28	27	234.00	
120号柱穴	P171	VB2h	38	41	232.38	7号掘立柱建物跡
121号柱穴	P172	VB2h	36	31	232.38	7号掘立柱建物跡
122号柱穴	P173	VB1f	43	32	232.35	7号掘立柱建物跡
123号柱穴	P174	VB1h	33	41	232.22	7号掘立柱建物跡
124号柱穴	P175	VB1h	27	28	232.75	
125号柱穴	P176	VB1i	47	41	232.44	
126号柱穴	P177	VB2j	35	34	232.57	
127号柱穴	P178	VB2i	43	44	232.65	
128号柱穴	P179	VB1j	31	31	232.61	
129号柱穴	P180	VB2j	34	38	232.25	7号掘立柱建物跡
130号柱穴	P181	VB2j	35	33	232.27	7号掘立柱建物跡
131号柱穴	P182	VB1j	37	35	232.32	7号掘立柱建物跡
132号柱穴	P183	VB10i	38	40	232.27	7号掘立柱建物跡
133号柱穴	P193	VC2a	28	27	232.75	
134号柱穴	P184	VC2a	36	(10)	232.72	
135号柱穴	P185	VC1a	27	(15)	232.97	
136号柱穴	P187	VC1a	40	41	233.12	
137号柱穴	P135	VC6d	80	80	231.92	8号掘立柱建物跡
138号柱穴	P136	VC6e	84	80	231.90	8号掘立柱建物跡
139号柱穴	P137	VC6e	106	96	231.67	8号掘立柱建物跡
140号柱穴	P188	VD5b	78	70	232.05	9号掘立柱建物跡
141号柱穴	P189	VD6b	76	72	232.00	9号掘立柱建物跡
142号柱穴	P190	VD6c	84	80	232.26	9号掘立柱建物跡
143号柱穴	P191	VD5b	90	85	232.00	9号掘立柱建物跡

第3表 遺構計測表（土坑）

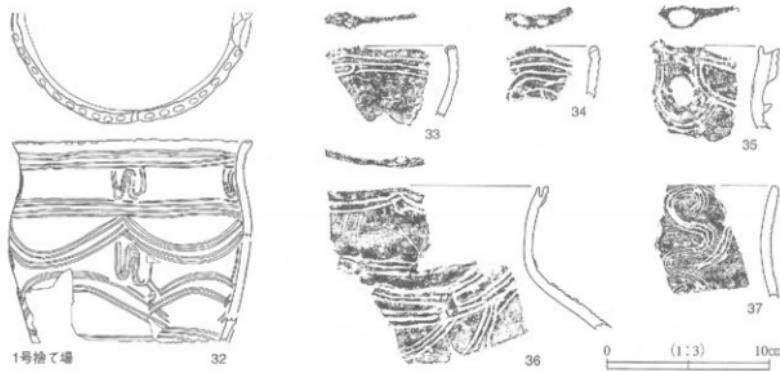
測 計	旧番号	グリッド	長 (cm)	幅 (cm)	底面標高 (m)	構 成
1号土坑	SKI	VB1j	104	41	232.76	1号挖て場範囲内
2号土坑	SK2	VB10j	122	81	232.95	1号挖て場範囲内
3号土坑	SK3	VC10a	142	88	232.92	1号挖て場範囲内
4号土坑	SK4	VB9j	92	60	232.98	1号挖て場範囲内
5号土坑	SK5	VC8a	120	117	232.10	1号挖て場範囲内
6号土坑	SK6	VB10j	135	95	232.60	1号挖て場範囲内
7号土坑	SK7	VB1j	152	121	232.45	1号挖て場範囲内
8号土坑	SK8	VB2i	148	76	232.62	1号挖て場範囲内
9号土坑	SK9	VD2f	173	68	232.24	
10号土坑	SK10	VD10f	133	124	231.78	



第31図 土坑、柱穴内出土土器



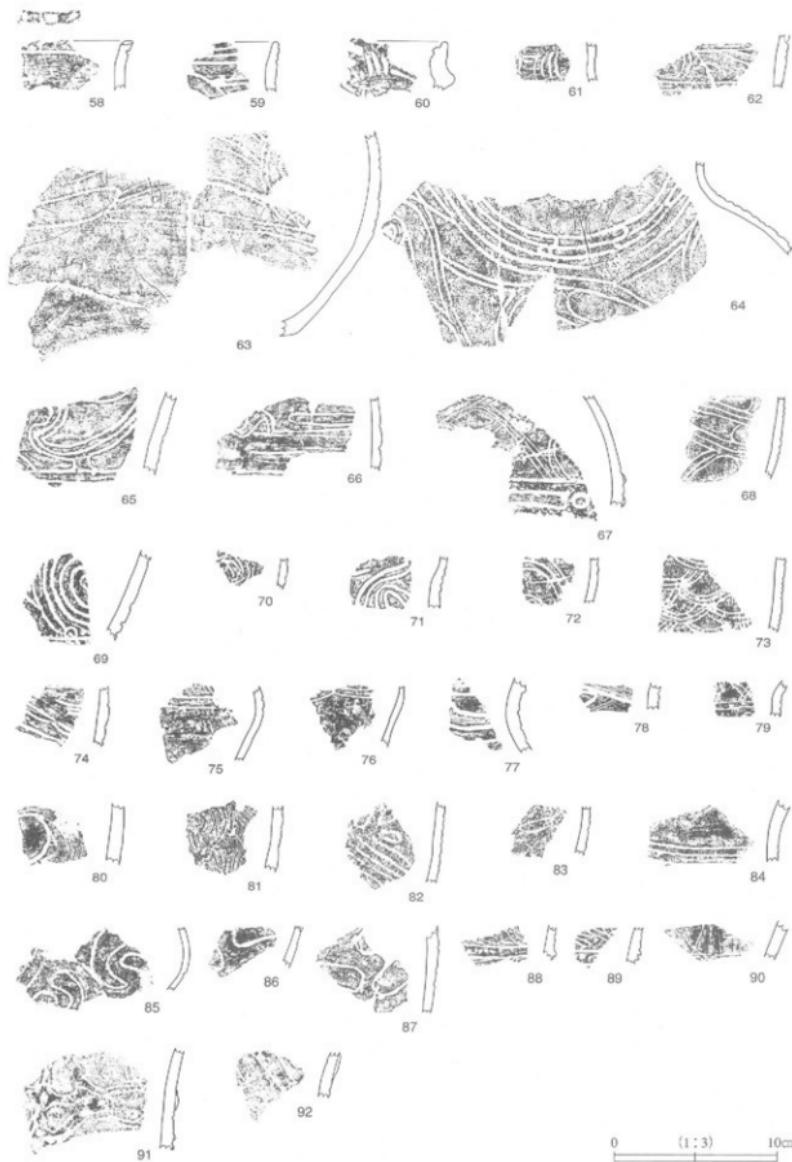
1号埋設土器



第32図 1号埋設土器、1号捨て場出土土器 (1)



第33図 1号捨て場出土土器 (2)



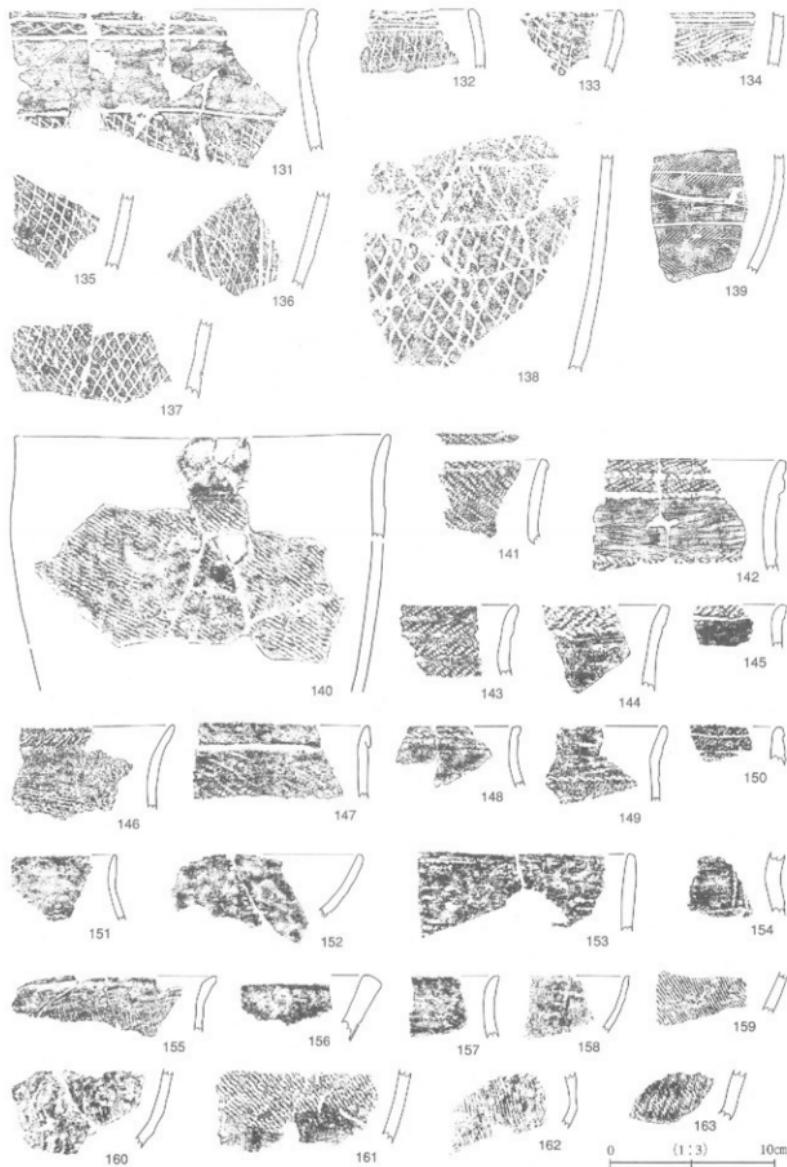
第34図 1号捨て場出土土器 (3)



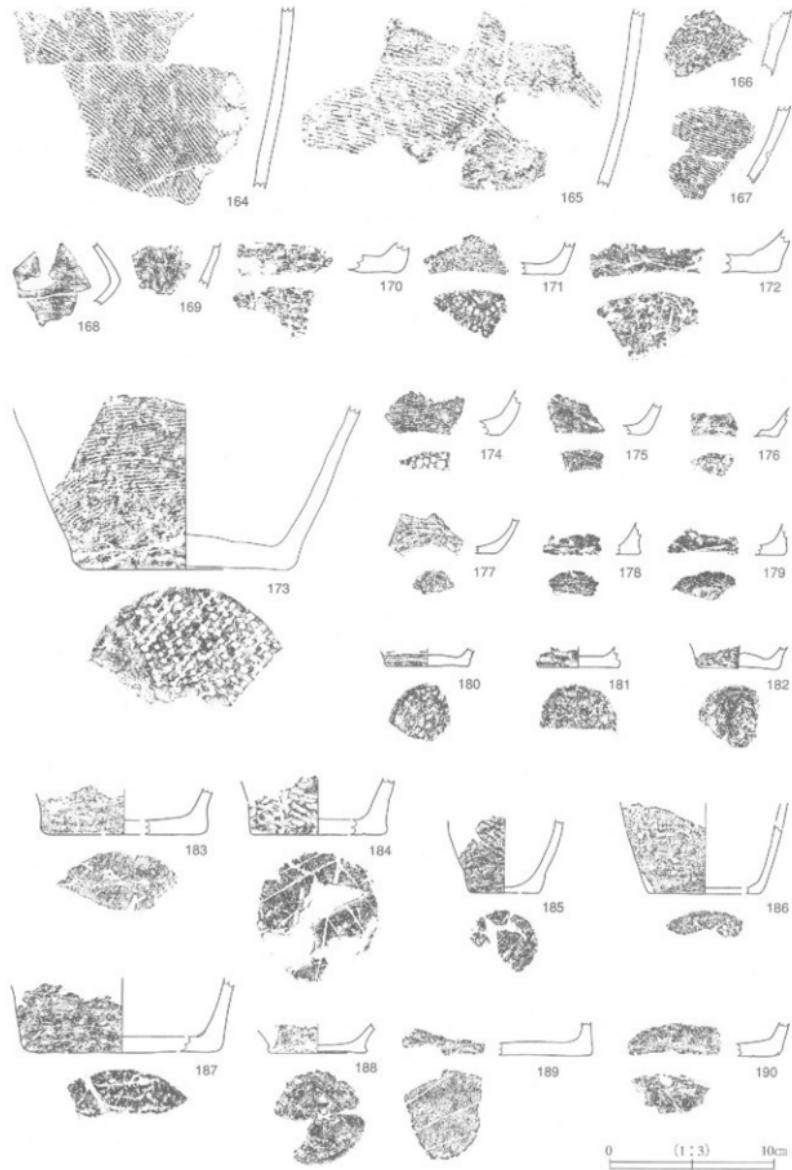
第35図 1号捨て場出土土器(4)



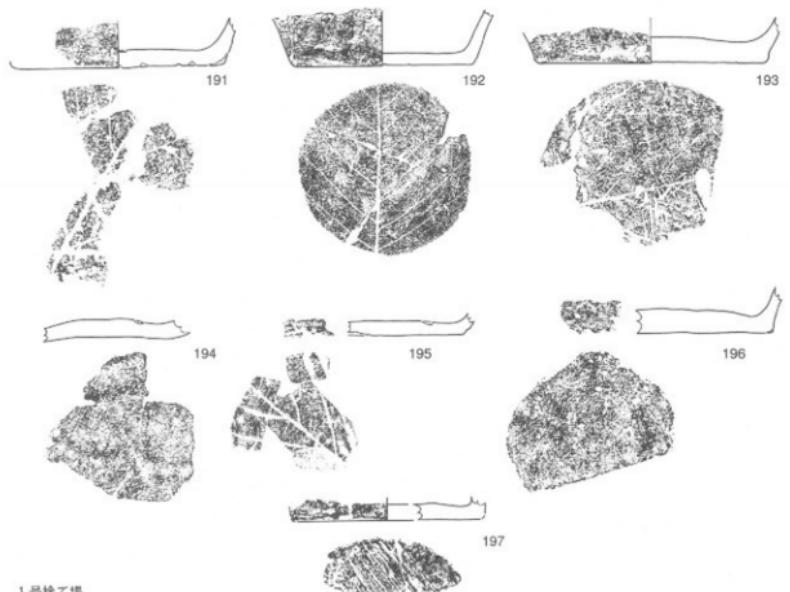
第36図 1号捨て場出土土器 (5)



第37図 1号捨て場出土土器(6)

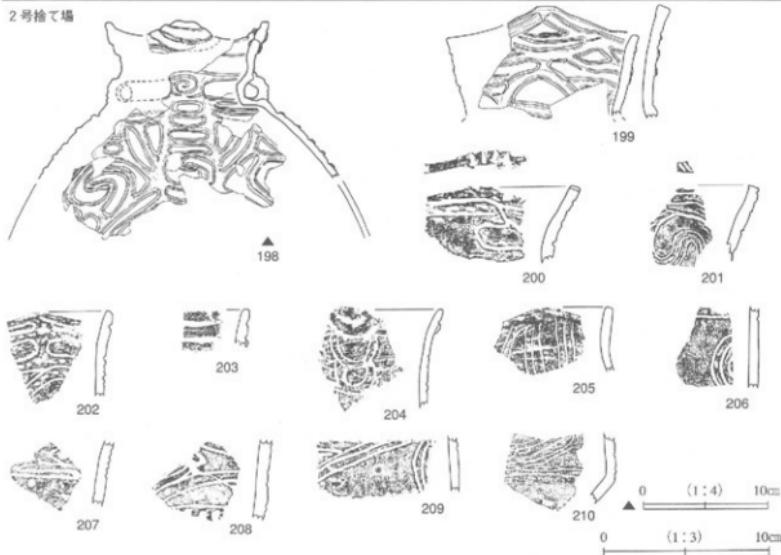


第38図 1号捨て場出土土器 (7)

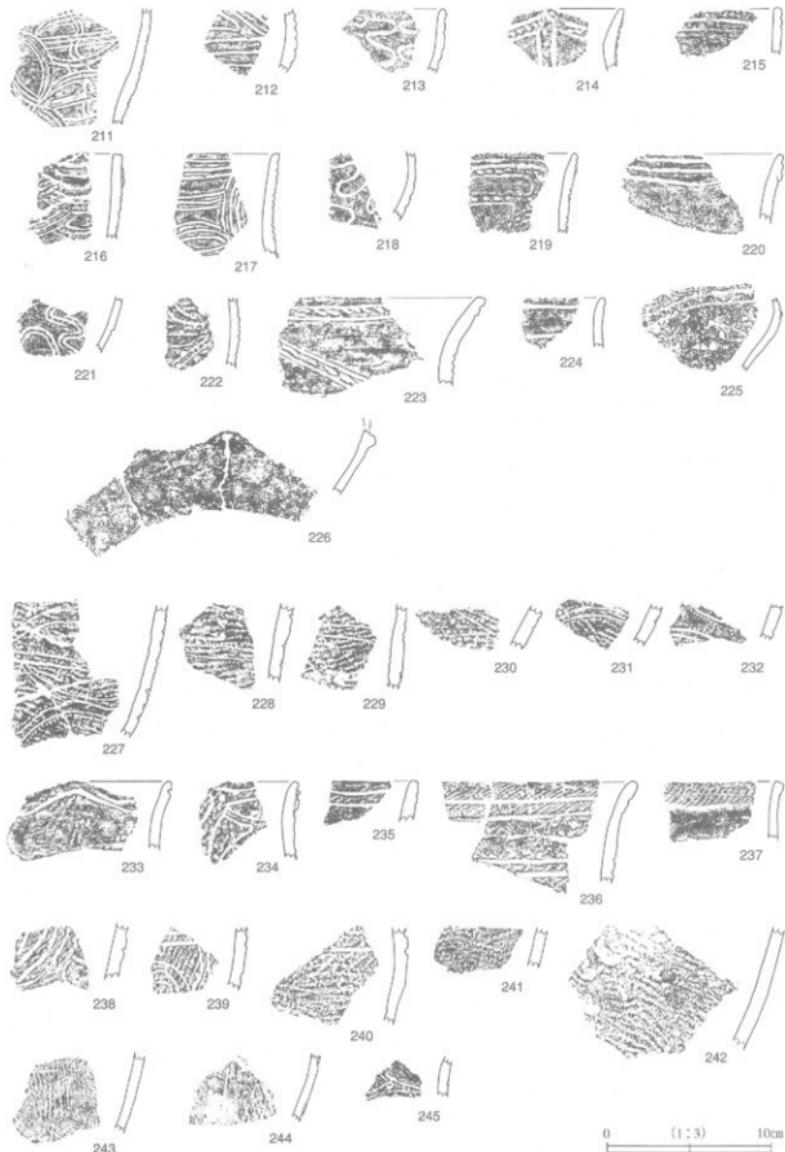


1号捨て場

2号捨て場



第39図 1号捨て場出土土器(8)、2号捨て場出土土器(1)

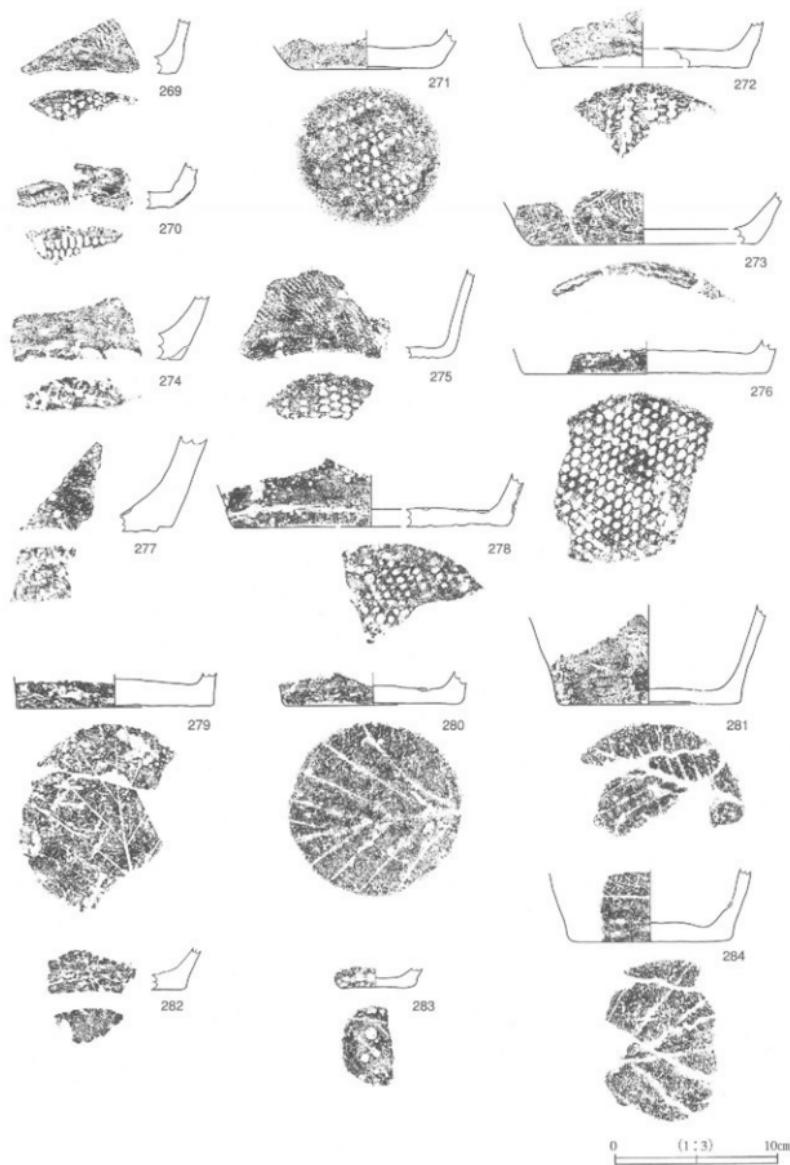


第40図 2号捨て場出土土器（2）

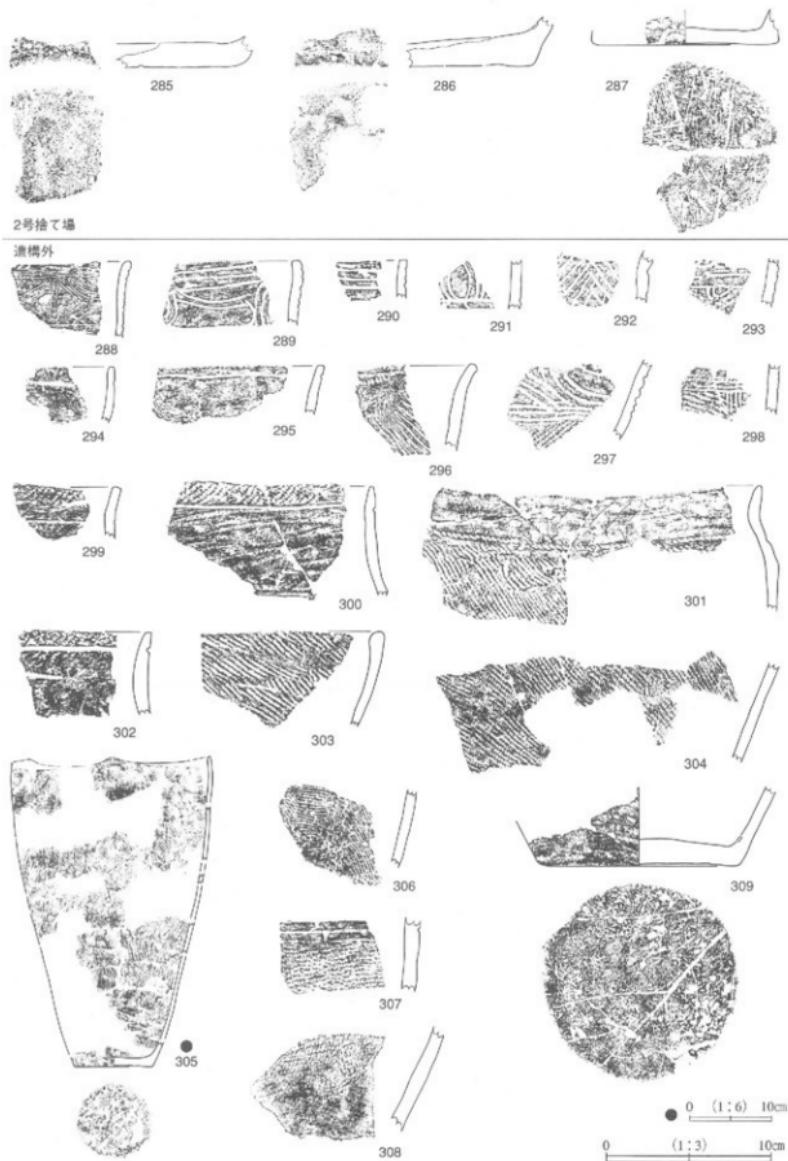


第41図 2号捨て場出土土器（3）

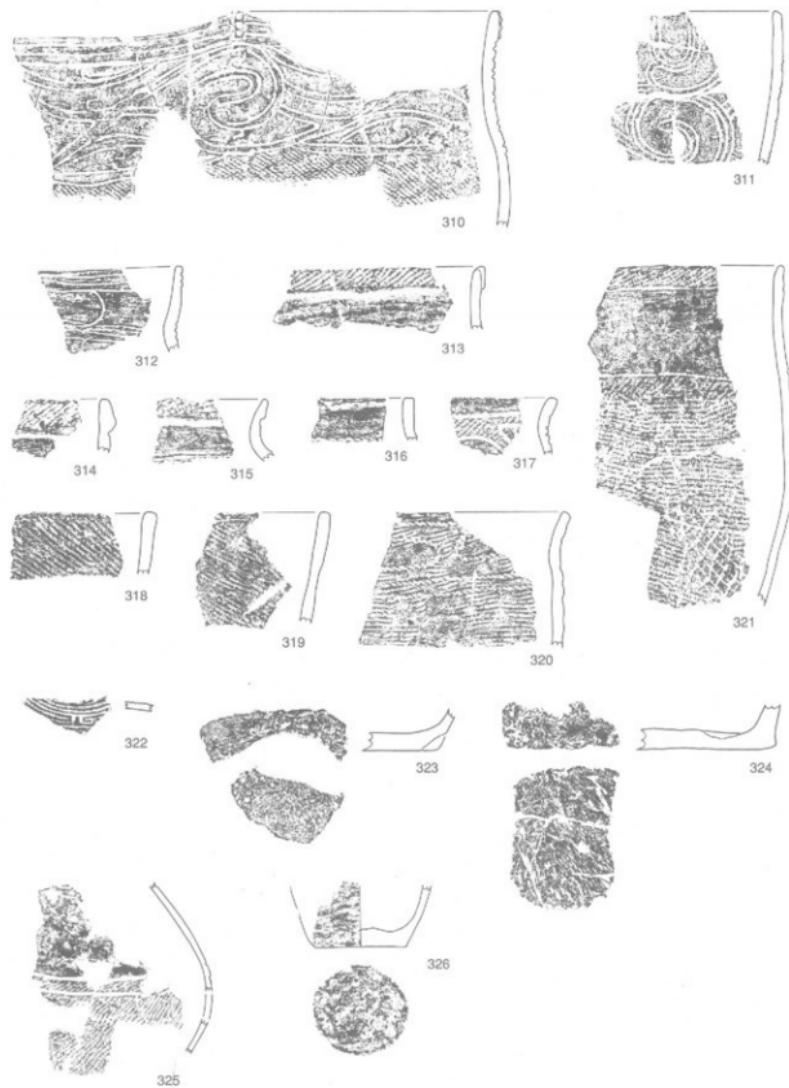
0 (1 : 3) 10cm



第42図 2号捨て場出土土器 (4)

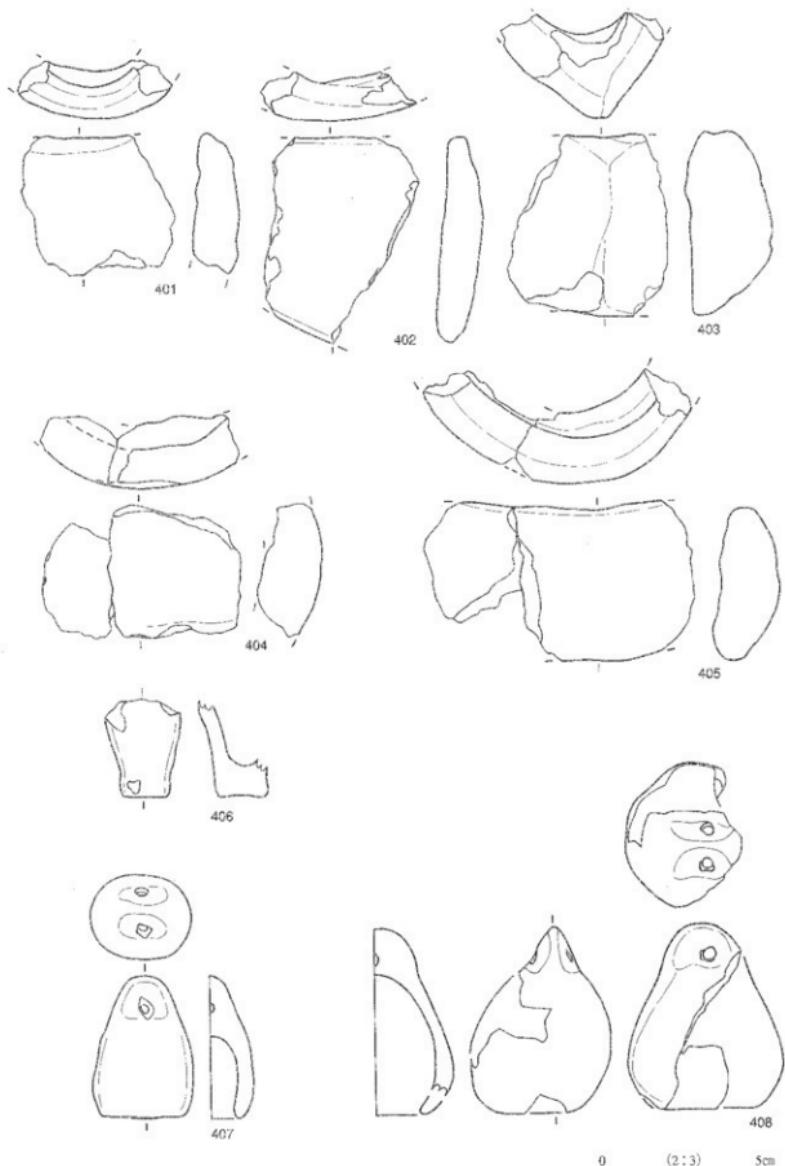


第43図 2号捨て場出土土器(5)、B区遺構外出出土土器



0 (1 : 3) 10cm

第44図 B・C区遺構外出土土器



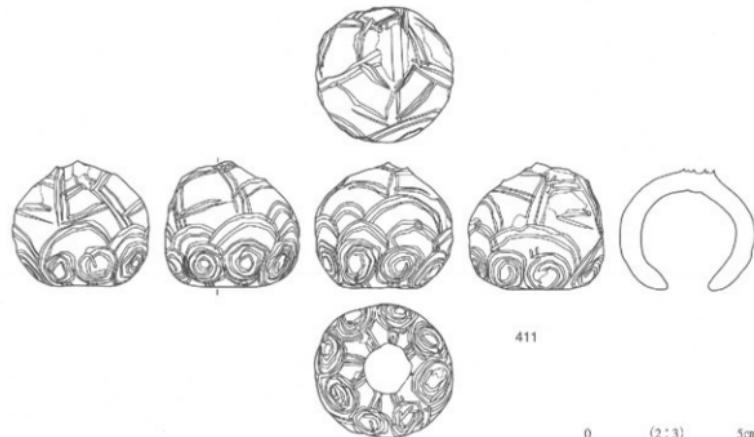
第45図 土製品(1)



409



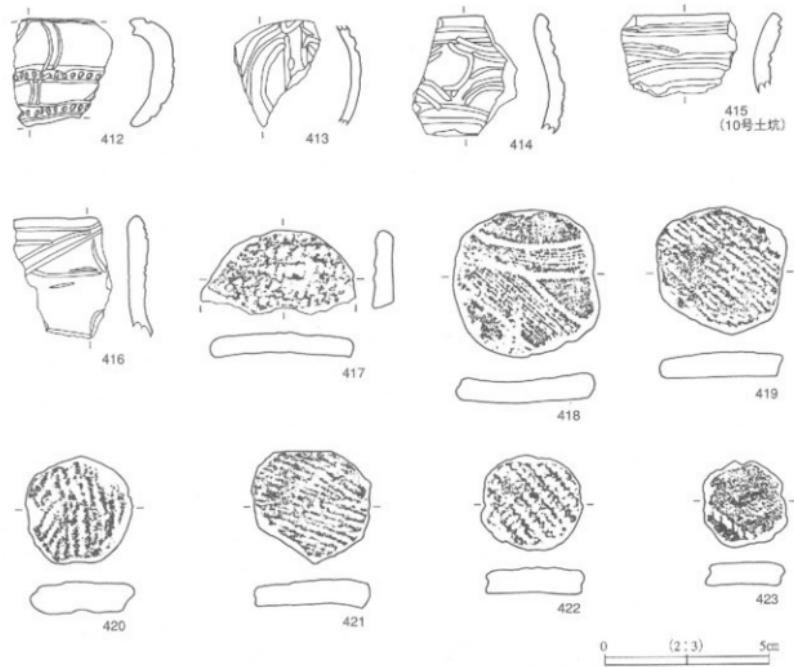
410



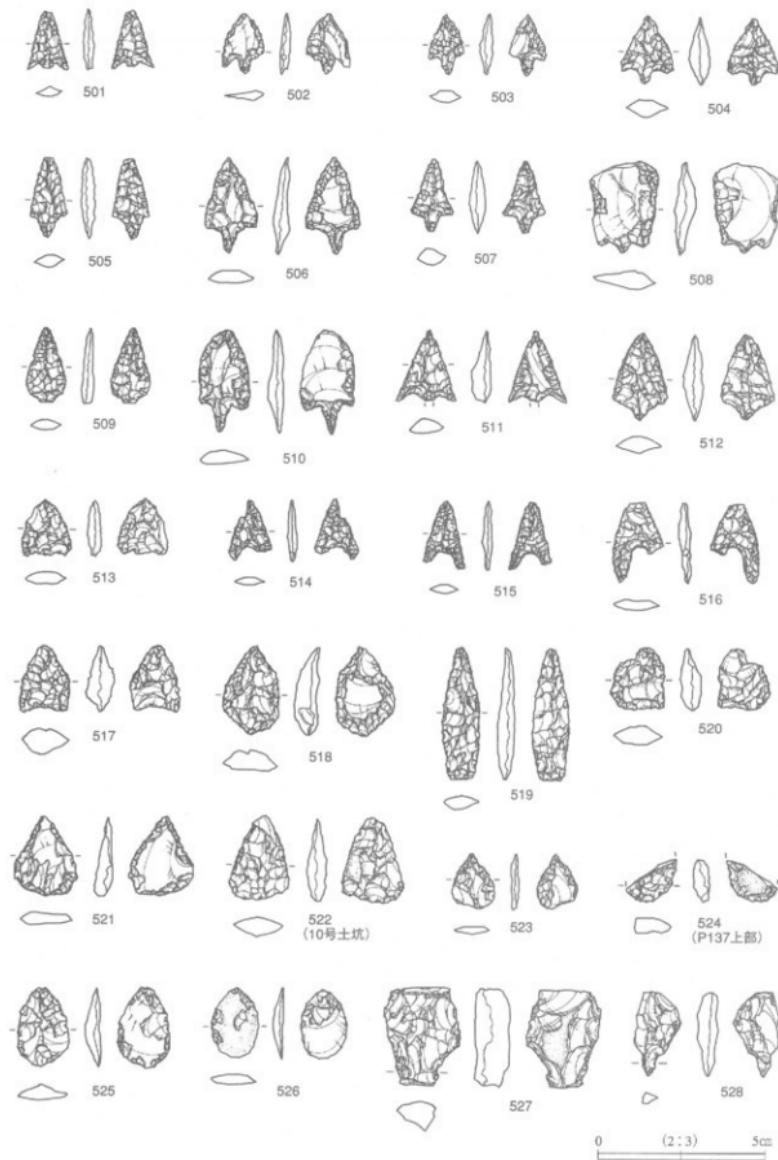
411

0 (2:3) 5cm

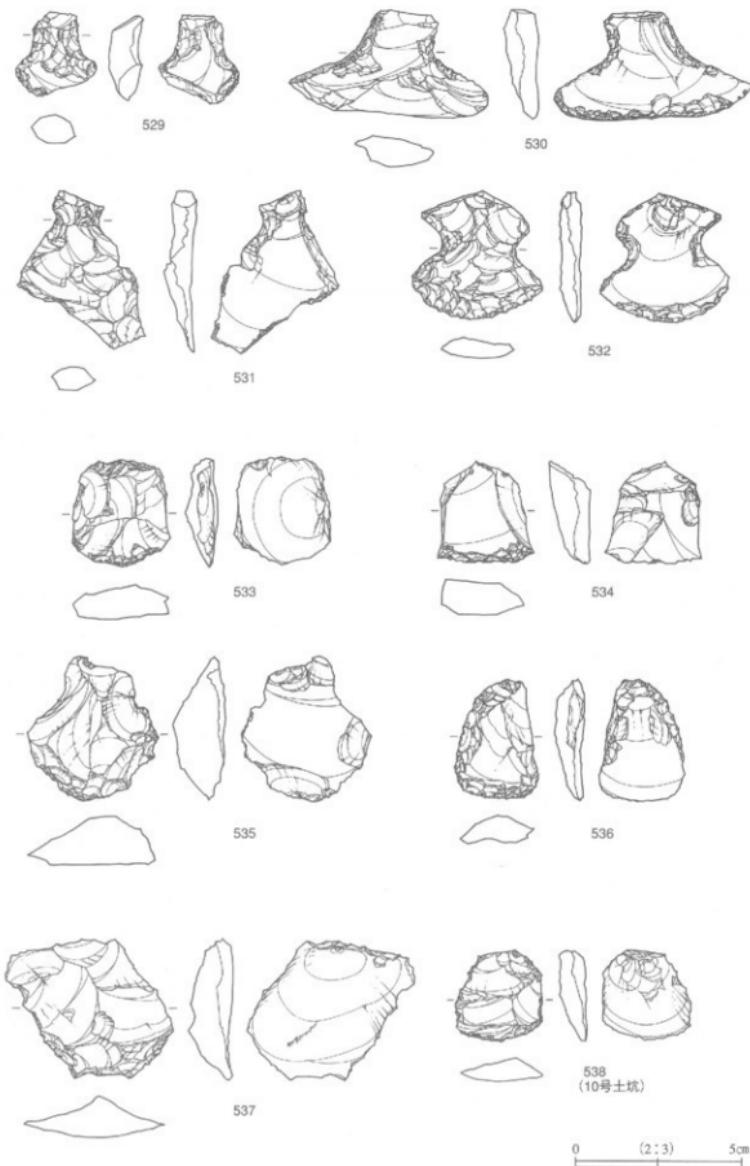
第46図 土製品(2)



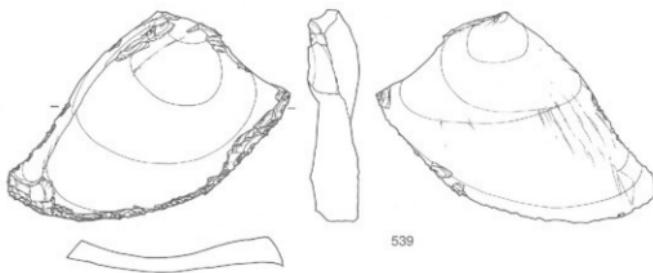
第47図 土 製 品 (3)



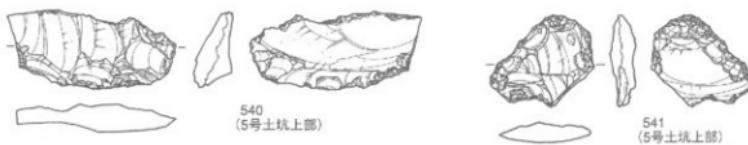
第48図 石器 (1)



第49図 石器(2)

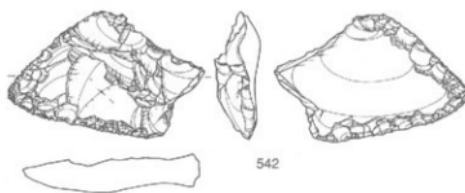


539

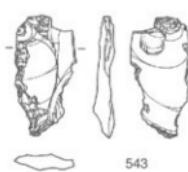


540
(5号土坑上部)

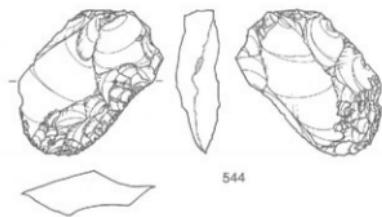
541
(5号土坑上部)



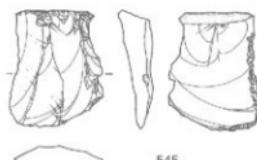
542



543



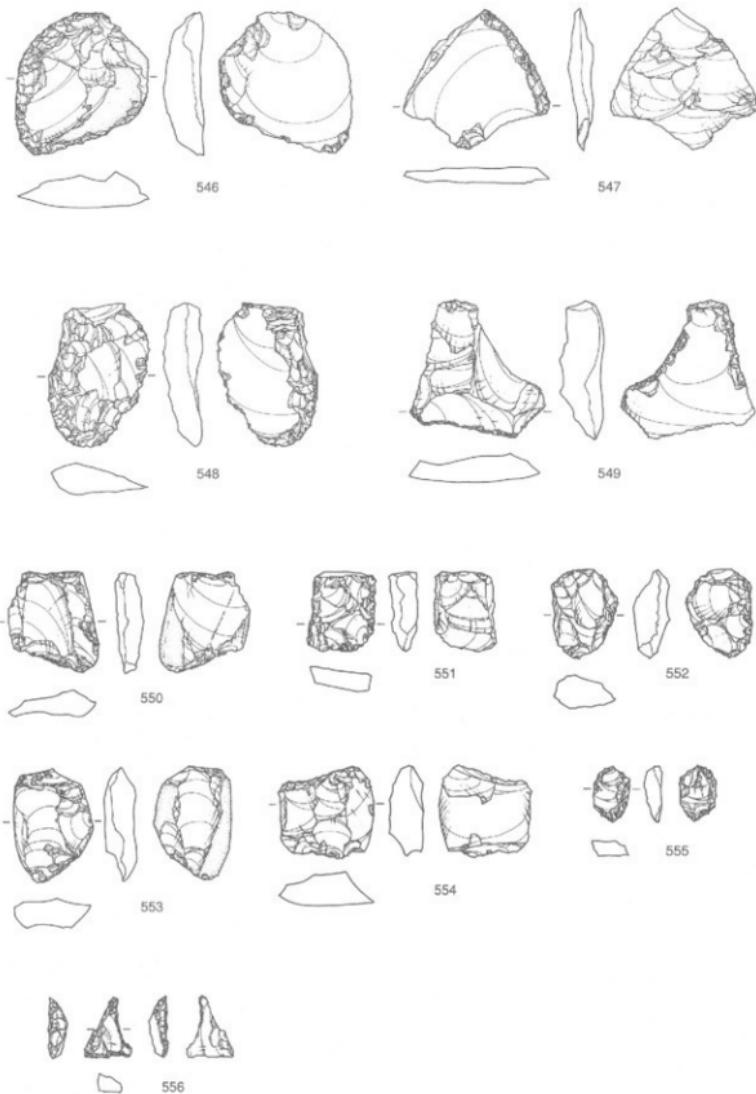
544



545

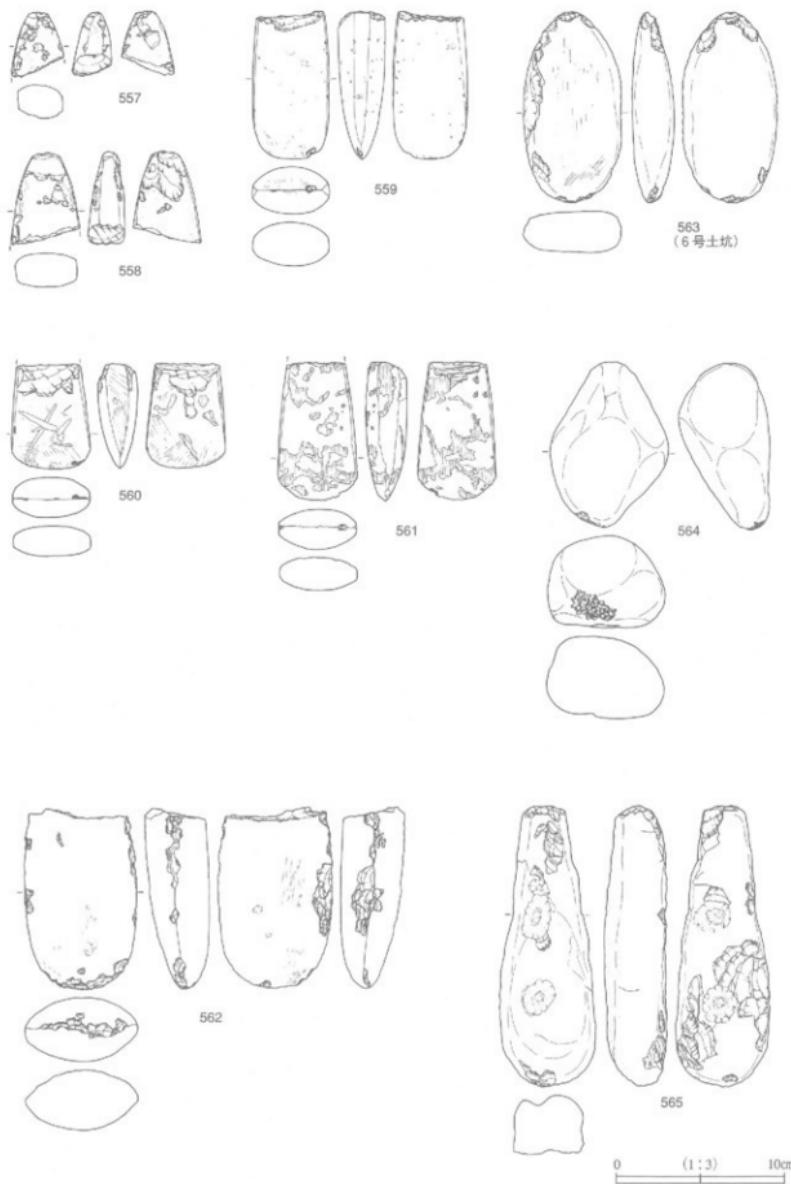
0 (2:3) 5cm

第50図 石器 (3)

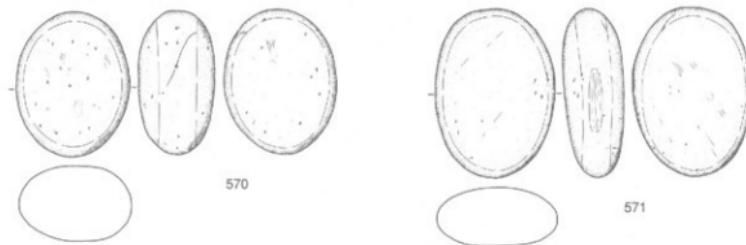
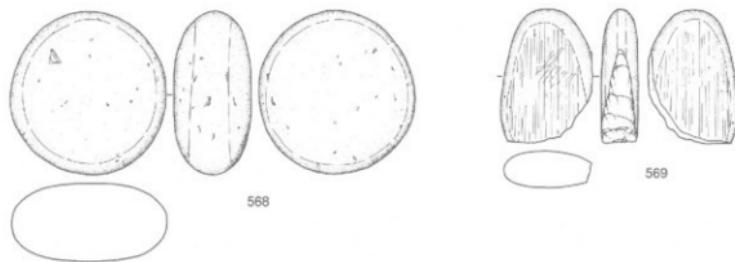
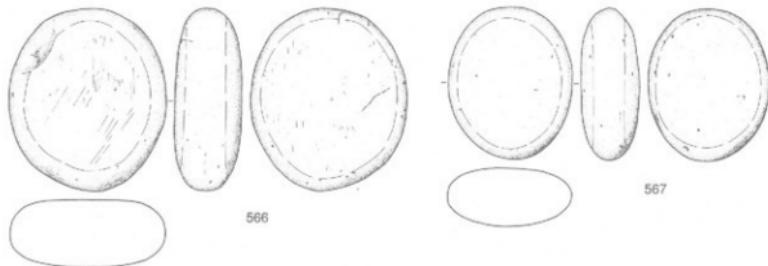


第51図 石器 (4)

0 (2:3) 5cm

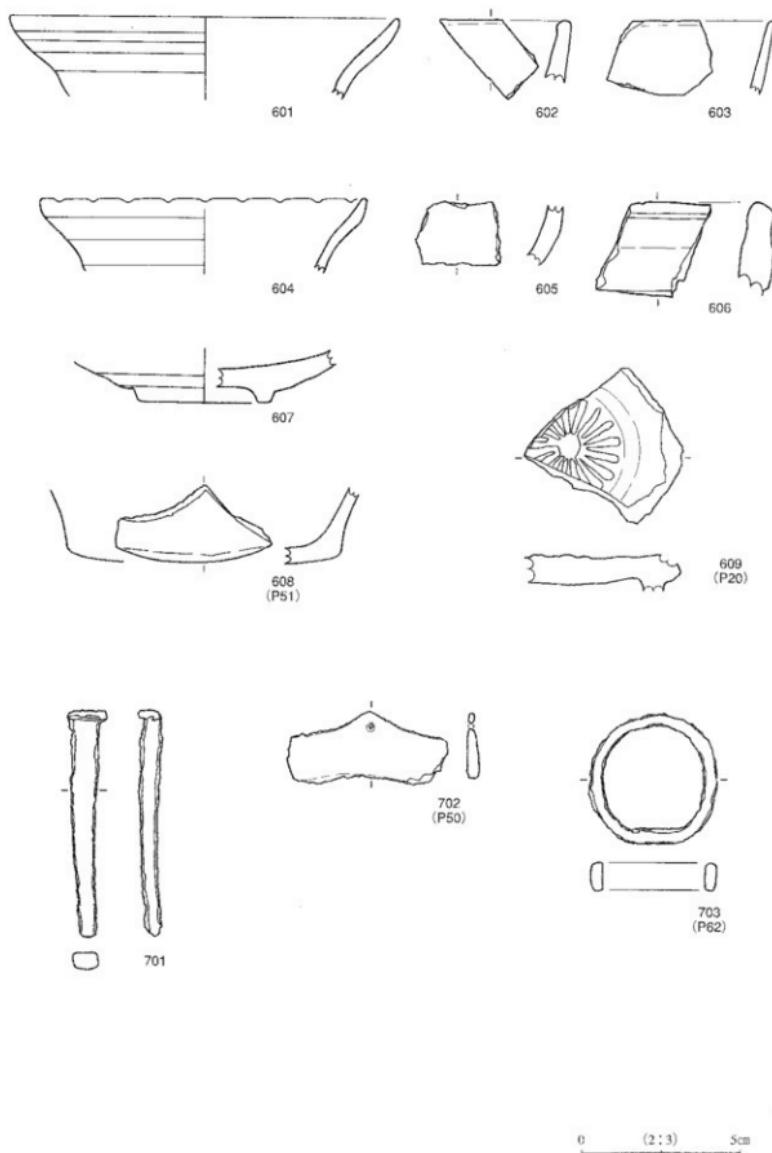


第52図 石器 (5)

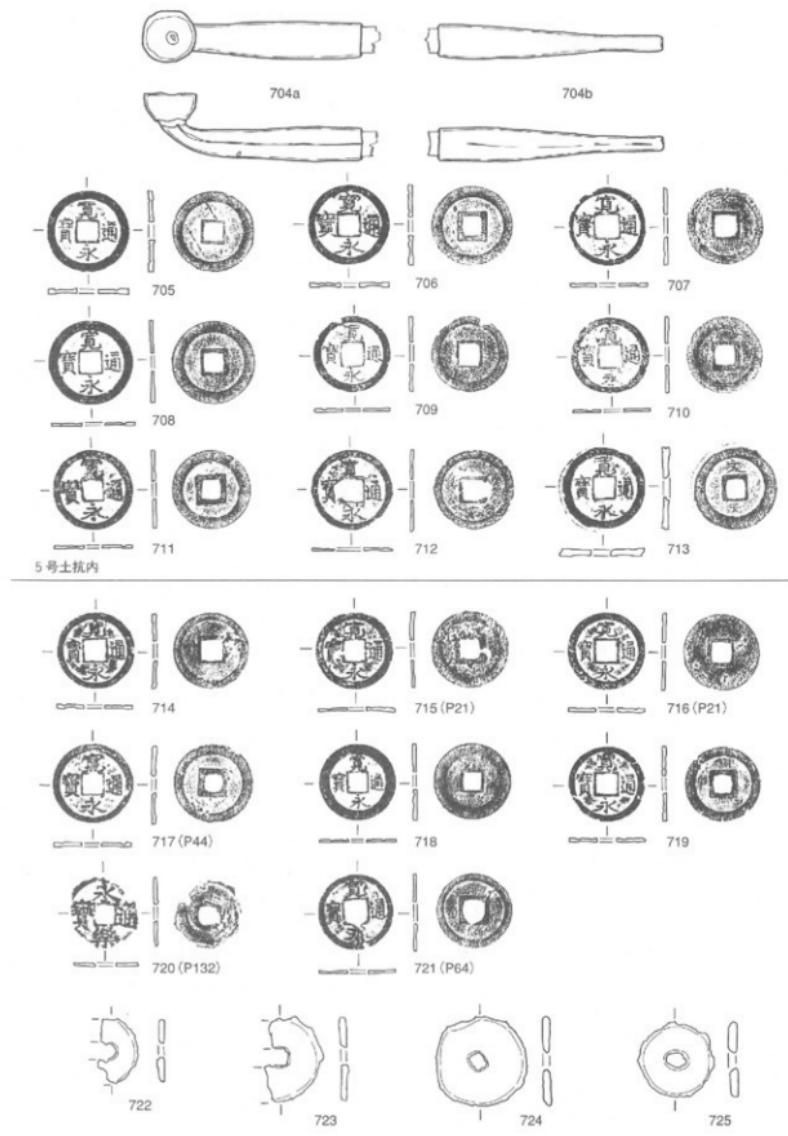


0 (1 : 3) 10cm

第53図 石器(6)



第54図 陶器、鉄製品



第55図 煙管・錢貨

明和六年 五十二月十七日 (一 慶妙心福定尼) ... 1769年



801

文化元年 子十二月八日 (奥山福定尼) ... 1804年



802

天明四年 (庚) 六月 (廿) 三日 (一 智惠心福定尼) ... 1784年



803

文政八年? 七月 (一) 紗○福定尼) ... 1825年?



804

0 (1:6) 20cm

第56図 近世墓碑 (1)



805b



805a



805c



806b



806a



806c

0 (1:6) 20cm

第57図 近世墓碑(2)

第4表 土器観察表（縦文～弥生）

編號	名前	遺物	位置	グリッド	測量			残存部位	単型	特性	文 漢（地文）	説 明
					X	Y	Z					
001			2号土坑・1	NF U10	-	85359.659	233.027	底部	I a1			
002	616		2号土坑・1	NF U10	5999.991	85359.659	233.027	底部	I a2			
003			2号土坑・1	NF U10	-			側部	I a3			
004			3号土坑・1	N C 10 a	-			底部	I a4		縦文LRタテ	
005			4号土坑・1	N C 10 a	-			側部	I a5		横筋縦文及タテ	
006			3号土坑・1	N C 10 a	-			側部	I a6		筋筋縦文及タテ	
007			4号土坑・1	N F 19	-			側部	I a7		縦文LR斜	
008			5号土坑・1	N C 8	-			側部	I a8		縦文LRタテ	
009			5号土坑・1	N C 8	-			側部	I a9		縦文LRタテ	
010			9号土坑・1	N D 2	-			口縫	I a10			
011			9号土坑・1	N D 2	-			側部	I a11			
012			9号土坑・1	N D 2	-			側部	I a12		縦文LRタテ	
013			10号土坑・1	D D 10	-			底部	I a13		縦文LRタテ	
014			10号土坑・4	D D 10	-			底部	I a14		縦文LRヨコ・LR斜削	
015			10号土坑・1	D D 10	-			口縫～側部	I a15		縦文LRヨコ	
016			10号土坑・1	D D 10	-			口縫	I a16		縦文LRヨコ	
017			10号土坑・1	D D 10	-			側部	I a17		縦文LR斜	
018			10号土坑・1	D D 10	-			側部	I a18		縦文LR斜	
019			10号土坑・1	D D 10	-			口縫～側部	I a19		縦文LR斜	
020			10号土坑・1	D D 10	-			側部	I a20		縦文LR斜	
021			10号土坑・1	D D 10	-			側部	I a21		横筋及横筋	
022			10号土坑・1	D D 10	-			口縫～側部	I a22		縦目状及舌	
023			62号柱穴	V B 4c	-			側部	I a23		口縫～尾端LRヨコ	
024			124号柱穴	V B 1 h	-			側部	I a24		縦文R	
025			143号柱穴	N D 5b	-			側部	I a25		縦文R	
026			142号柱穴	N D 6c	-			側部	I a26		縦文R	
027			138号柱穴	N C 6e	-			側部	I a27		縦文R	
028			137号柱穴	N C 6d	-			側部	I a28		縦文R	
029			137号柱穴	N C 6f	-			側部	I a29		縦文R	
030			137号柱穴	N C 6g	-			側部	I a30		縦文R	
031			137号柱穴	N C 6j	-			側部	I a31		縦文LRタテ	
032	1368	1号窓下場・2	V B 1 j	-	6003.339	85358.219	233.039	発光部	I a32		縦文LRヨコ	
033	1373	1号窓下場・2	V B 1 j	-	6002.623	85357.56	233.029	発光部	I a33		縦文R	
034			1号窓下場・3	V B 1 j	-			口縫	I a34		縦文R	
035			1号窓下場・3	V B 2 h	-			口縫	I a35		縦文R	
036	743	1号窓下場・2	V B 2 j	-	6006.013	85358.833	233.221	口縫～側部	I a36	*		
037	744	1号窓下場・2	V B 2 j	-	6005.777	85358.792	233.233	口縫	I a37			
038	745	1号窓下場・2	V B 2 j	-	6005.777	85358.792	233.234	口縫	I a38			
039	656	1号窓下場・2	V C 1 a	-	6000.038	85361.303	233.29	口縫	I a39			
040	1635	1号窓下場・2	V B 9 j	-	5994.282	85358.632	232.885	口縫	I a40			
041	1035	1号窓下場・2	V B 9 j	-	5994.227	85358.524	232.912	口縫	I a41			
042	1038	1号窓下場・2	V B 9 j	-	5994.227	85358.524	232.961	口縫	I a42			
043	1号窓下場・2	N F 9 j	-	5992.906	85359.666	232.969	口縫	I a43				
044	1号窓下場・2	N F 9 j	-	5991.884	85359.169	232.919	口縫	I a44				
045	1210	1号窓下場・2	N F 9 j	-	5992.417	85360.218	232.886	口縫～脇部	I a45			
046	1211	1号窓下場・2	N F 9 j	-	5992.745	85359.497	232.817	口縫	I a46			
047	1216	1号窓下場・2	N F 9 j	-	5993.394	85359.108	232.801	口縫	I a47			
048	655	1号窓下場・2	V C 1 a	-	6002.945	85360.446	233.147	口縫	I a48			
049	1423	1号窓下場・2	V C 1 a	-	6001.249	85360.235	233.547	口縫～側部	I a49			
050	483	1号窓下場・2	V C 1 a	-	6002.945	85360.446	233.147	口縫	I a50			
051	484	1号窓下場・2	V C 1 a	-	6002.945	85360.446	233.147	口縫	I a51			
052	1427	1号窓下場・2	V C 9 a	-	5992.52	85358.92	232.74	口縫	I a52			
053	266	1号窓下場・2	V C 10 b	-	5999.478	85360.543	233.236	口縫	I a53			
054	1069	1号窓下場・2	V C 10 b	-	5999.478	85360.444	233.049	口縫	I a54			
055	680	1号窓下場・2	V F 10	-	5997.535	85355.515	232.924	口縫	I a55			
056	537	1号窓下場・2	N F 9 j	-	5993.356	85359.032	232.904	口縫	I a56			
057	876	1号窓下場・2	N F 9 a	-	5994.093	85361.163	233.071	口縫	I a57			
058	918	1号窓下場・2	N F 9 j	-	5994.182	85359.055	232.974	口縫～側部	I a58			
059			1号窓下場・2	N F 9 j	-			口縫	I a59			
060			1号窓下場・2	N F 9 j	-			口縫	I a60			
061			1号窓下場・2	N F 9 j	-			口縫	I a61			
062	1437	1号窓下場・2	N F 10	-	5998.837	85359.108	233.12	口縫～側部	I a62			
063	938	1号窓下場・2	N F 9 j	-	5993.173	85359.844	232.874	口縫	I a63			
064	1102	1号窓下場・2	N F 9 j	-	5992.061	85359.213	232.812	口縫	I a64			
065	1276	1号窓下場・2	N F 9 j	-	5993.826	85359.901	232.892	口縫	I a65			
066	1147	1号窓下場・2	N F 9 j	-	5993.687	85359.285	232.918	口縫	I a66			
067	1279	1号窓下場・2	N F 9 j	-	5993.826	85359.901	232.892	口縫	I a67			
068	1102	1号窓下場・1	V B 1 j	-	5999.817	85359.843	233.086	口縫	I a68			
069	1384	1号窓下場・2	V B 10	-	5999.817	85359.843	233.086	口縫	I a69			
070	444	1号窓下場・2	V B 10	-	5998.511	85359.843	233.112	口縫～側部	I a70			
071	717	1号窓下場・2	V B 2 j	-	6006.497	85355.072	233.179	口縫	I a71			
072	659	1号窓下場・2	V B 2 j	-	6006.497	85355.072	233.179	口縫	I a72			
073	678	1号窓下場・2	V B 1 j	-	6001.839	85354.326	232.999	口縫	I a73			
074	1363	1号窓下場・2	V B 2 j	-	6004.222	85357.536	233.065	側部	I a74			
075	1266	1号窓下場・2	V B 1 j	-	5991.618	85358.772	232.733	側部	I a75			
076	1340	1号窓下場・2	V B 1 j	-	5990.861	85359.096	232.766	側部	I a76			

装飾	手法	胎 土	断面焼成	備 考
		砂粒少量	黑色層なし	底面木裏側
		小粒少量	黑色層中央(2/3)	表面焼成
彫法(ナデ)		小粒少々	黑色層中央(2/3)	表面焼成
		砂粒少々	黑色層中央(2/3)	表面焼成
		砂粒少々	黑色層中央(2/3)	表面焼成
彫道(ナダ)		小粒少々	黑色層中央(2/3)	表面焼成
		砂粒少々	黑色層中央(2/3)	表面焼成
彫道(ナダ)		小粒少々	黑色層なし	1号捨て場からの流入
彫道(ナダ)		小粒少々	黑色層中央(2/3)	1号捨て場からの流入
		砂粒少々	黑色層中央(2/3)	ミニチュア?
		砂粒少々	黑色層中央(2/3)	
彫刻	彫清(ナダ)	砂粒少量	黑色層なし	表面層上部にマキ痕焼成風 鋸齿44.2cm 容量22.5ℓ
刻定		砂粒中量	黑色層なし(1/2)	
刻定		砂粒中量	黑色層なし	
刀削等	ミガキ	砂粒少々	黑色層中央(2/3)	
刻定		砂粒中量	黑色層中央(2/3)	
刻定		砂粒中量	黑色層中央(2/3)	
刻定		砂粒少々	黑色層なし	箱板No.19と同一個体
刻定		砂粒中量	黑色層中央(2/3)	箱板No.18と同一個体
彫清?		砂粒少々	黑色層なし	
		砂粒中量	黑色層内部(2/3) 内面口付側	
		砂粒少々	黑色層なし	外側口付側
		砂粒少々	黑色層なし	構造により規定不同
彫清?		砂粒少々	黑色層中央(2/3)	
		砂粒少々	黑色層中央(2/3)	
		砂粒少々	黑色層中央(2/3)	
		砂粒少々	黑色層なし	
		砂粒少々	黑色層なし	
彫清(ナダ)	砂粒少々	黑色層中央(2/3)	縦縫→ヒダ→イダ・底面木裏側 容量20.2cm 容量2.9ℓ	
口等上に刻印	彫清(ナダ)	砂粒少量	黑色層中央(2/3)	沈銀・ナデ
口等 刻痕	ミガキ	砂粒少々	黑色層中央(2/3)	
口等 刻文 外面火窓		砂粒少々	黑色層内部(1/3)	
口等		砂粒少々	黑色層内部(1/3)	
刻定	ミガキ	砂粒中量	黑色層中央(2/3)	外側 形状異常
	ミガキ	砂粒中量	黑色層中央(2/3)	
刻突・貼付		砂粒中量	黑色層中央(2/3)	外面崩落部凹凸形成
外周系部	ミガキ	砂粒少量	黑色層なし	
波状口縁	ミガキ	砂粒中量	黑色層中央(2/3)	
	ミガキ	砂粒少々	黑色層中央(2/3)	
筋状縫合	ナデ	砂粒少量	黑色層中央(2/3)	
		砂粒少々	黑色層中央(2/3)	
		砂粒少々	黑色層中央(1/3)	外側要純
波状口縁		砂粒少々	黑色層中央(1/3)	
刻突		ミガキ	砂粒中量	黑色層なし
波状口縁	ミガキ	砂粒少々	黑色層中央(2/3)	底面→ミガキ
波状口縁		砂粒少々	黑色層中央(2/3)	外側底面 指板No.9と同一個体
波状口縁		砂粒多量	黑色層中央(2/3)	外側底面 指板No.8と同一個体
刻突・波状口縁	ミガキ	砂粒少量	黑色層中央(2/3)	沈銀・ミガキ
	ミガキ	砂粒少々	黑色層中央(2/3)	
	ミガキ	砂粒少々	黑色層中央(2/3)	
	ミガキ	砂粒少々	黑色層中央(1/3)	指板No.6と同一個体?
		砂粒少量	黑色層中央(1/3)	
		砂粒少々	黑色層中央(2/3)	
円形割窓		砂粒少々	黑色層中央(2/3)	指板No.5と同一個体?
口唇割目	ミガキ	砂粒少々	黑色層中央(2/3)	
刻突 壁延	ミガキ	砂粒少々	黑色層なし	
	ナデ	砂粒少々	黑色層中央(2/3)	
		砂粒少々	黑色層なし	
		砂粒多量	黑色層中央(2/3)	
		砂粒多量	黑色層中央(2/3)	

第4表 土器観察表(縄文~弥生)

被覆	注記	造形・層位	グリッド	座標			残存部位	類型	器種	文 紙(地文)	埋 墓
				X	Y	Z					
065	672	1号施て場・2	V B11	-6003.813	85353.533	233.061	肩部	I ab			沈綱
066	1033	1号施て場・2	V B9	5994.601	85358.999	232.958	肩部	I ab?			沈綱・隆背
067	1059	1号施て場・2	V B9	-5994.157	85357.948	232.886	肩部	I ab			沈綱
068	150	1号施て場・2	V C18	-6001.175	85361.269	233.368	肩部	I ab			沈綱・隆背
069	881	1号施て場・2	V C9	-5993.04	85361.128	232.914	肩部	I ab			沈綱
070	1067	1号施て場・2	V B9	-5992.541	85357.802	232.802	肩部	I ab			沈綱
071	1146	1号施て場・2	V B9	-5992.987	85358.953	232.729	肩部	I ab			沈綱
072	1081	1号施て場・2	V B9	-5992.678	85358.617	232.805	肩部	I ab			沈綱
073	748	1号施て場・2	V B5	-6001.159	85359.324	233.238	肩部	I ab			沈綱
074	1190	1号施て場・2	V B9	5992.785	85358.124	232.802	肩部	I ab			沈綱
075	1317	1号施て場・2	V B11	-6001.529	85358.729	233.027	肩部	I ab			沈綱
076	1530	1号施て場・2	V B10	-5999.816	85358.654	232.984	肩部	I ab			沈綱
077	1583	1号施て場・2	V B10	-5991.963	85359.289	231.581	肩部	I ab			沈綱
078	1335	1号施て場・2	V C5	-5990.561	85361.752	232.818	肩部	I ab			沈綱
079	1536	1号施て場・2	V T1	-5991.739	85360.119	232.871	肩部	I ab			沈綱
080	549	1号施て場・2	V C8	5990.931	85360.119	232.871	肩部	I ab			沈綱・複数共通
081	739	1号施て場・2	V U2	-6006.694	85358.877	233.269	肩部	I ab			椭球状深溝
082	1	1号施て場・2					肩部	I ab			沈綱
083	1013	1号施て場・2	V B10	5997.109	85359.93	233.054	肩部	I ab			沈綱
084	1	1号施て場・2	V C9				肩部	I ab			沈綱
085	787	1号施て場・2	V B2	-6004.236	85358.007	233.22	肩部	I ab			沈綱
086	788	1号施て場・2	V B2	-6004.296	85357.979	233.225	肩部	I ab			沈綱
088	1528	1号施て場・2	V C10	-5998.669	85358.927	232.923	肩部	I ab			沈綱
087	161	1号施て場・2	V C5	-6004.059	85360.782	232.255	肩部	I ab			沈綱
089	1579	1号施て場・2	V B10	-5997.969	85359.026	232.922	肩部	I ab			沈綱
090	878	1号施て場・2	V B9	5994.093	85361.163	231.071	肩部	I ab			沈綱・隆背
091	1424	1号施て場・2	V B9	5991.644	85358.856	232.743	肩部	I ab			沈綱・隆背
090	457	1号施て場・2	V H2	-6006.486	85359.775	233.208	肩部	I ab			沈綱
091	692	1号施て場・2	V D10	-5999.357	85358.356	233.081	肩部	I ab			沈綱・隆背
092	610	1号施て場・2	V D10	-5999.667	85359.252	232.922	肩部	I ab			沈綱・隆背
093	349	1号施て場・2	V B8	5991.906	85358.918	232.922	肩部	I ab			沈綱
1255	1号施て場・2	V B10	-5991.493	85358.919	232.775	肩部	I ab			沈綱	
1258	1号施て場・2	V B10	-5991.493	85358.919	232.776	肩部	I ab			沈綱	
093	1599	1号施て場・2	V B10	-5991.551	85358.856	232.769	口縫~肩部	I ab	添付	縄文LRタテ・ヨコ	沈綱
1260	1599	1号施て場・2	V B10	-5991.655	85358.637	232.711	口縫~肩部	I ab	添付	縄文LRタテ・ヨコ	沈綱
1265	1599	1号施て場・2	V B10	-5991.707	85358.641	232.719	口縫~肩部	I ab	添付	縄文LRタテ・ヨコ	沈綱
1266	1599	1号施て場・2	V B10	-5991.641	85358.466	232.696	口縫~肩部	I ab	添付	縄文LRタテ・ヨコ	沈綱
094	1	1号施て場・2	V B11				口縫	I ab			縄文LRタテ・ヨコ
095	306	1号施て場・2	V C9	-5993.858	85362.052	233.124	口縫	I ab			沈綱
096	1145	1号施て場・2	V B9	-5993.421	85359.106	232.911	口縫	I ab			沈綱
097	1312	1号施て場・2	V B11	6001.934	85358.377	232.961	口縫	I ab			沈綱
098	895	1号施て場・2	V C9	-5993.634	85361.043	233.038	口縫	I ab			沈綱
099	1	1号施て場・2	V H2				口縫	I ab			沈綱
100	1	1号施て場・2	V B11				口縫	I ab			沈綱
101	498	1号施て場・2	V B11	-6002.905	85359.402	233.124	口縫	I ab			沈綱
102	1269	1号施て場・2	V B10	-5992.189	85359.205	232.778	口縫~肩部	I ab	添付	縄文LRヨコ	沈綱
1473	1270	1号施て場・2	V B9	-5992.151	85359.043	232.774	口縫~肩部	I ab	添付	縄文LRヨコ	沈綱
1195	1496	1号施て場・2	V B9	-5992.151	85359.165	232.772	口縫	I ab			沈綱
1496	1496	1号施て場・2	V B9	-5992.785	85358.124	232.802	口縫	I ab			縄文LRヨコ?
1496	1379	1号施て場・2	V H2	-6003.534	85359.121	233.043	口縫	I ab			縄文LRタテ・ヨコ
165	163	1号施て場・2	V B11	-6002.849	85359.924	233.178	口縫	I ab			縄文LRヨコ
106	1	1号施て場・2	V B11				口縫	I ab			縄文LRヨコ?
107	553	1号施て場・2	V H2	-5991.123	85359.666	232.847	口縫	I ab			縄文LRヨコ?
108	1213	1号施て場・2	V B10	-5993.34	85357.358	232.824	口縫	I ab			縄文LRタテ・ヨコ
109	1	1号施て場・2	V B10				口縫	I ab			縄文LRヨコ
110	1	1号施て場・2	V B10				口縫	I ab			縄文LRヨコ
111	1	1号施て場・2	V B10				口縫	I ab			縄文LRヨコ
112	314	1号施て場・2	V C9	-5993.611	85361.008	233.082	口縫	I ab			縄文LRヨコ
113	314	1号施て場・2	V B9	-5992.552	85359.258	232.997	口縫	I ab			縄文LRヨコ
114	354	1号施て場・2	V B10	-5997.755	85359.05	232.977	口縫~肩部	I ab	添付	縄文LRヨコ?	沈綱
115	1446	1号施て場・2	V B10	-5997.755	85359.05	232.977	口縫~肩部	I ab	添付	縄文LRヨコ	沈綱
1450	1	1号施て場・2	V B10	-5997.982	85359.396	233.037	口縫~肩部	I ab	添付	縄文LRヨコ?	沈綱
116	1531	1号施て場・2	V B10	-5999.757	85358.719	232.989	口縫~肩部	I ab	添付	縄文LRヨコ・斜	沈綱・隆背
117	1021	1号施て場・2	V B10	-5996.768	85336.234	232.755	口縫	I ab			沈綱・隆背
118	1	1号施て場・2	V B10				口縫	I ab			縄文LRヨコ?
119	770	1号施て場・2	V B10	-6004.849	85358.392	232.178	口縫	I ab			沈綱
120	1563	1号施て場・2	V B10	-5999.815	85359.654	232.912	口縫	I ab			沈綱・隆背
121	1385	1号施て場・2	V C1a	-5999.703	85359.937	233.161	口縫	I ab			縄文LR斜
122	1	1号施て場・2	V C9				口縫	I ab			縄文LRヨコ・斜
123	653	1号施て場・2	V B10	-5996.316	85357.312	232.884	肩部	I ab	添付	縄文LR新	沈綱
1018	1	1号施て場・2	V B10	-5997.769	85357.472	232.866	肩部	I ab	添付	縄文LR新	沈綱
124	1	1号施て場・2	V C9				肩部	I ab			縄文LR新
125	869	1号施て場・2	V C9	5994.319	85360.877	233.026	口縫	I ab	添付	縄文LR土氣	沈綱
1132	1132	1号施て場・2	V B10	-5997.078	85360.793	232.823	肩部	I ab			沈綱
1014	1	1号施て場・2	V B10	-5998.411	85358.468	233.032	口縫~肩部	I ab	添付	縄文LRヨコ	沈綱
127	1	1号施て場・2	V B10	-5998.411	85358.468	233.032	口縫~肩部	I ab	添付	縄文LRヨコ	沈綱
163	999	1号施て場・2	V B10	-6002.849	85359.934	233.178	口縫	I ab			沈綱
492	1577	1号施て場・2	V B11	-6003.054	85359.768	233.129	口縫	I ab			沈綱
493	1	1号施て場・2	V H2	-6003.054	85359.836	233.113	口縫	I ab			沈綱
128	641	1号施て場・2	V B11	-6002.188	85359.709	233.105	口縫	I ab	添付	縄文LR斜	沈綱
1331	1331	1号施て場・2	V B9	-5992.162	85359.706	232.752	口縫	I ab			沈綱
1246	1476	1号施て場・2	V B12	-6001.368	85356.866	232.804	口縫	I ab	添付	縄文LRタテ	沈綱
187	187	1号施て場・2	V B2	-6007.351	85356.322	233.233	口縫~肩部	I ab	添付	縄文LRヨコ・斜	沈綱
196	196	1号施て場・2	V B12	-6007.445	85353.74	233.202	口縫~肩部	I ab	添付	縄文LRヨコ・斜	沈綱
269	269	1号施て場・2	V C10	5999.502	85360.991	233.267	口縫	I ab			沈綱
467	467	1号施て場・2	V C10	5999.138	85360.565	233.2	口縫	I ab			沈綱

第4表 土器観察表（縦文～弥生）

図版	注記	遺物・部位	グリッド	基準			残存部位	傾型	器種	文様（地文）		種類
				X	Y	Z						
130	1号施設-場-2 VC1a	6001.705	85360.45	233.26								
131	1号施設-場-2 VC1a	6002.182	85360.55	233.291								
132	1号施設-場-2 VB2	6004.458	85357.086	233.216	口縁		I-a5	深鉢	縦文LRヨコ・カテ・新・L印痕			沈縁
133	1号施設-場-2 VH2	6007.678	85359.206	233.362	口縁		I-a5	深鉢	縦文LRヨコ			沈縁
134	1号施設-場-2 VT1j											
135	714 1号施設-場-2 VB2	6005.743	85356.168	233.205	頭部		I-a5	深鉢	縦文LRヨコ			沈縁
136	1号施設-場-2 VC1a	6002.303	85360.206	233.279	頭部		I-a5	深鉢	縦文LRヨコ			沈縁
(37)	表鉢											
138	1号施設-場-2 VC1a	-6000.008	85360.303	233.121	頭部		I-b	深鉢	縦目状模条文			
139	413 1号施設-場-2 VB10	-5996.281	85354.729	232.941								
681	1号施設-場-2 VB10	-5996.892	85354.372	232.871								
735	1号施設-場-2 VB2	-6000.534	85356.223	233.222								
736	1号施設-場-2 VB2	-6000.534	85358.588	233.209								
773	1号施設-場-2 VB2	-6000.605	85358.562	233.244								
782	1号施設-場-2 VB2	-6004.541	85358.685	233.173								
800	1号施設-場-2 VB1j	-6003.584	85357.713	233.209								
801	1号施設-場-2 VB2	-6004.016	85357.512	233.21								
805	1号施設-場-2 VB2	-6004.525	85356.826	233.22								
140	850 1号施設-場-2 VB1j	-6003.193	85358.271	233.1	口縁～脚部		I-a4	深鉢	縦文R・RL			
1368	1号施設-場-2 VB1j	-6000.339	85358.219	233.039								
141	1号施設-場-2 VB2	-6005.803	85359.423	233.148								
142	1号施設-場-2 VB2	-6005.899	85358.472	233.14								
143	1号施設-場-2 VB1j	-6001.588	85359.633	233.149	口縁		I-a4	深鉢	縦文LRヨコ			
144	1号施設-場-2 VB9	-5993.283	85357.879	232.803	口縁		I-a5	深鉢	縦文LRヨコ・L印痕			
145	1号施設-場-2 VB1j	-6002.843	85359.785	233.003	口縁		I-a5	深鉢	縦文LRヨコ			沈縁
146	1号施設-場-2 VB1j	-6002.843	85359.785	233.003	口縁		I-a5	深鉢	縦文LRヨコ			
147	617 1号施設-場-2 VB10	-5999.531	85359.428	232.987	口縁		I-a5	深鉢	縦文LRヨコ			
148	1305 1号施設-場-2 VB1j	-6000.082	85358.478	233.041	口縁		I-a5	深鉢	縦文LRヨコ			
149	481 1号施設-場-2 VB1j	-6001.793	85359.006	233.168	口縁		I-a5	深鉢	縦文LRヨコ			
150	1546 1号施設-場-2 VB2	-6004.517	85358.106	232.952	口縁		I-a4	深鉢	縦文LRヨコ			
151	793 1号施設-場-2 VB1j	-6003.541	85358.701	233.199	口縁		I-a5	深鉢	縦文LRヨコ			
152	1号施設-場-1											
	表鉢											
153	1号施設-場-2 VB9j	-5992.117	85358.673	232.745	口縁		I-a11	体				
154	1号施設-場-2 VB9j	-5993.975	85358.539	232.821	口縁		I-a1	深鉢				沈縁
155	1号施設-場-2 VB9j	-5991.891	85359.393	232.940	口縁～脚部		I-a4	深鉢	縦文LRヨコ			
156	1095 1号施設-場-2 VB9j	-5991.745	85359.136	232.81	口縁～脚部		I-a3	深鉢	燃木J.			
157	407 1号施設-場-2 VB10	-5993.369	85358.779	232.763	口縁		I-a11	鉢				
158	1058 1号施設-場-2 VB9j	-5999.531	85359.428	232.987	口縁		I-a11	鉢				
159	1318 1号施設-場-2 VB1j	-6001.658	85358.095	233.118	脚部		I-a4	縦文タテ				
160	1410 1号施設-場-2 VB2j	-6005.9	85359.303	233.075	脚部		I-a11	鉢				
161	1412 1号施設-場-2 VB2j	-6005.779	85359.28	233.135	脚部		I-a11	鉢				
162	215 1号施設-場-2 VB10	-6005.063	85356.269	233.241	脚部		I-a4	結節縞文タテ				
163	761 1号施設-場-2 VB2	-6005.436	85358.648	233.413	脚部		I-a1	深鉢				
164	830 1号施設-場-2 VB2j	-6002.916	85359.141	233.096	脚部		I-a3	深鉢	燃木R			
165	1号施設-場-2 VC9a											
166	1441 1号施設-場-2 VB10j	-5998.117	85359.698	232.975	脚部		I-a3	深鉢				
167	1564 1号施設-場-2 VB10	-5990.426	85359.496	232.981	脚部		I-a4	深鉢	縦文RLヨコ			
168	776 1号施設-場-2 VB2	-6004.863	85357.987	233.258	脚部		I-a5	深鉢				
169	777 1号施設-場-2 VB2	-6003.373	85358.207	233.02	脚部		I-a4	深鉢				
170	1421 1号施設-場-2 VB2	-6004.466	85356.654	233.099	脚部		I-a5	深鉢	縦文RLヨコ			
171	1535 1号施設-場-2 VB2j	-6005.083	85358.728	233.01	脚部		I-c1	深鉢				
172	1号施設-場-2											
173	1753 1号施設-場-2 VC10a	-5998.704	85369.835	233.149	底部		I-a4	深鉢	縦文RLヨコ			
174	1742 1号施設-場-2 VC10a	-5998.704	85369.835	233.149	底部		I-c	深鉢				
175	1743 1号施設-場-2 VC9a	-5998.704	85369.591	232.975	底部		I-c	深鉢				
176	1747 1号施設-場-2 VB1j	-5992.507	85357.474	232.967	底部		I-a1	皿				
177	1739 1号施設-場-2 VC1a	-6002.194	85359.739	232.995	底部		I-c	深鉢				
178	1704 1号施設-場-2 VB1j	-6000.275	85358.729	233.016	底部		I-c	深鉢				
179	1703 1号施設-場-2 VB1j	-6000.222	85358.657	233.003	底部		I-c	深鉢				
180	1660 1号施設-場-2 VC1a	-6001.779	85360.579	233.232	底部		I-c	縦文				
181	1002 1号施設-場-2 VC10a	-5996.797	85360.359	233.018	底部		I-c	縦文				
182	1541 1号施設-場-2 VB10j	-5998.738	85358.641	233.059	底部		I-c	縦文				
183	1216 1号施設-場-2 VC9a	-5992.237	85360.451	232.944	底部		I-c	縦文				

第4表 土器観察表(縄文～弥生)

規号	注記	遺構・部位	グリッド	周 長			残存部位	類型	器種	文様	地文	特徴
				X	Y	Z						
184	642	1号墳て場・2	W B10	5996.052	85358.428	252.933	唇部～底部	I ct	縄文LRタテ			
185	468	1号墳て場・2	W B10	-5996.32	85358.743	252.985	唇部～底部	I cl	縄文LRタテ			
186	1548	1号墳て場・2	W B10	-5999.104	85360.77	233.73	唇部～底部	I ct	縄文LRタテ			
187	表記						唇部～底部	I cl	縄文			
188	699	1号墳て場・2	V B11	-6000.973	85357.116	233.191	底部	I ct	縄文			
189	1538	1号墳て場・2	V B11	-6001.172	85358.469	232.89	底部	I cl	縄文			
190	1191	1号墳て場・2	V B11	-5992.313	85358.045	232.541	底部	I ct	縄文			
191	494	1号墳て場・2	V B11	-6002.379	85358.282	233.215	底部	I cl	縄文			
192	1236	1号墳て場・2	V B11	-5992.961	85359.588	233.123	底部	I ct	縄跡 無文			
192	1238	1号墳て場・2	V B11	-5992.624	85360.107	232.86	底部	I cl	縄跡 無文			
193	1019	1号墳て場・2	V B10	5998.346	85358.143	233.037	底部	I ct	縄跡 無文			
194	1164	1号墳て場・2	V B10	-5993.357	85358.12	232.864	底部	I cl	縄跡 無文			
195	1089	1号墳て場・2	V B10	-6006.409	85359.409	232.818	底部	I ct	縄跡 無文			
196	1236	1号墳て場・2	V C9a	-5992.624	85359.588	232.86	底部	I ct	縄跡 無文			
197	765	1号墳て場・2	V U21	-6005.013	85358.073	233.211	底部	I ct	縄跡 無文			
197	778	1号墳て場・2	V B21	-6005.445	85358.047	233.269	底部	I ct	縄跡 無文			
198	2号墳て場・1		W D3g				口縁～胴部	I at	安			北朝・隋唐
199	2号墳て場・1		W D3g				口縁～胴部	I at				北朝・隋唐
200	2号墳て場・1		W D4h				口縁	I at	添跡			北朝
201	2号墳て場・1		W D4g				口縁	I at	添跡			北朝
202	2号墳て場・1		W D4g				口縁	I at	添跡			北朝・隋唐
203	2号墳て場・1		W D4g				口縁	I at	添跡			北朝・隋唐
204	2号墳て場・1		W D4g				口縁	I at	添跡			北朝
205	2号墳て場・1		W D4g				口縁	I at	添跡			北朝
206	2号墳て場・1		W D4g				口縁	I at	添跡			北朝
207	2号墳て場・1		W D3g				口縁	I at	添跡			北朝
208	2号墳て場・1		W D4h				口縁	I at	添跡			北朝
209	2号墳て場・1		W D4h				口縁	I at	添跡			北朝
210	2号墳て場・1		W D4h				口縁	I at	添跡			北朝
211	2号墳て場・2		W D3g				口縁	I at	添跡			北朝
212	2号墳て場・2		W D3g				口縁	I at	添跡			北朝
213	2号墳て場・2		W D3g				口縁	I at	外			北朝
214	2号墳て場・2		W D3g				口縁	I at	外			北朝・隋唐
215	2号墳て場・2		W D3g				口縁	I at	外			北朝・隋唐
216	2号墳て場・2		W D3g				口縁	I at	外			北朝・隋唐
217	2号墳て場・2		W D3g				口縁	I at	外			北朝
218	2号墳て場・2		W D3h				口縫	I at	外			北朝
219	2号墳て場・2		W D3h				口縫	I at	外			北朝
220	2号墳て場・3		W D4h				口縫	I at	外			北朝火
221	2号墳て場・3		W D3g				口縫	I at	外			北朝
222	2号墳て場・3		W D4g				口縫	I at	外			北朝
223	2号墳て場・3		W D4h				口縫	I at	添跡			北朝
224	2号墳て場・3		W D4h				口縫	I at	添跡			北朝
225	2号墳て場・3		W D3h				口縫	I at	添跡			北朝
226	2号墳て場・3		W D3h				口縫	I at	添跡			北朝
227	2号墳て場・3		W D4g				口縫	I at	添跡			北朝
228	2号墳て場・3		W D4g				口縫	I at	添跡			北朝
229	2号墳て場・3		W D4h				口縫	I at	添跡			北朝
230	2号墳て場・3		W D4h				口縫	I at	添跡			北朝
231	2号墳て場・3		W D4h				口縫	I at	添跡			北朝
232	2号墳て場・3		W D4g				口縫	I at	添跡			北朝
233	2号墳て場・3		W D3g				口縫	I at	添跡			北朝
234	2号墳て場・3		W D4h				口縫	I at	添跡			北朝・隋唐
235	2号墳て場・3		W D3g				口縫	I at	添跡			北朝
236	2号墳て場・3		W D3g				口縫	I at	添跡			北朝
237	2号墳て場・3		W D3h				口縫	I at	添跡			北朝
238	2号墳て場・3		W D4h				口縫	I at	添跡			北朝
239	2号墳て場・3		W D4h				口縫	I at	添跡			北朝
240	2号墳て場・3		W D4g				口縫	I at	添跡			北朝
241	2号墳て場・3		W D4g				口縫	I at	添跡			北朝
242	2号墳て場・3		W D4g				口縫	I at	添跡			北朝
243	2号墳て場・3		W D3g				口縫	I at	添跡			北朝
244	2号墳て場・3		W D3g				口縫	I at	添跡			北朝
245	2号墳て場・3		W D3h				口縫	I at	添跡			北朝
246	2号墳て場・3		W D3h				口縫	I at	添跡			北朝
247	2号墳て場・3		W D4g				口縫	I at	添跡			北朝
248	2号墳て場・3		W D3g				口縫	I at	添跡			北朝
249	2号墳て場・3		W D3g				口縫	I at	添跡			北朝
250	2号墳て場・3		W D3h				口縫	I at	添跡			北朝
251	2号墳て場・3		W D3h				口縫	I at	添跡			北朝
252	2号墳て場・3		W D3g				口縫～胴部	I ak	添跡	縄文Lタテ		北朝・隋唐
253	2号墳て場・3		W D3g				口縫～胴部	I ak	添跡	縄文Lタテ		北朝・隋唐
254	2号墳て場・3		W D3h				口縫	I at	添跡	縄文LR日コ		北朝・隋唐
255	2号墳て場・3		W D3h				口縫	I at	添跡	縄文LR日コ		北朝
256	2号墳て場・3		W D3h				口縫	I at	添跡	縄文LR日コ		北朝
257	2号墳て場・3		W D3h				口縫	I at	添跡	縄文LR日コ		北朝
258	2号墳て場・3		W D3h				口縫	I at	添跡	縄文LR日コ		北朝
259	2号墳て場・3		W D3g				口縫	I at	添跡	縄文LR日コ		北朝
260	2号墳て場・3		W D3g				口縫	I at	添跡	縄文LR日コ		北朝
261	2号墳て場・3		W D3h				口縫	I at	添跡	縄文Lタテ・LR平直		北朝
262	2号墳て場・3		W D3h				口縫～胴部	I all	添跡	縄文Lタテ		北朝
263	2号墳て場・3		W D3h				口縫	I at	添跡	縄文L		北朝
264	2号墳て場・3		W D4h				口縫	I at	添跡	縄文LR日コ		北朝

第4表 土器觀察表(縄文~弥生)

施設・計把	遺物・位置	グリッド	南 備			残存部位	表面	容積	文 種 (地文)		緯 括
			X	Y	Z						
265	2号施設場-3 N D3h					側部	1/a3	兩件 腹口弧底盆R			
266	2号施設場-3 N D3h					側部	1/a3	腹体 腹口弧底盆			
267	2号施設場-3 N D3g					側部	1/a1	腹体 縄文LRタテ			
268	2号施設場-3 N D3g					側部	1/a4	縄文LRタテ			
269	2号施設場-1 N D					側部~底部	1/a4	縄文LRタテ			
270	2号施設場-1 N D4h					底部	1/c2				
271	2号施設場-2 N D4h					底部	1/c2				
272	2号施設場-2 N D4h					底部	1/c2	縄文			
273	2号施設場-3 N D3h					底部	1/c2	兩件 縄文LRタテ			
274	2号施設場-3 N D3h					底部	1/c2				
275	2号施設場-3 N D4h					側部~底部	1/c2	縄文LRタテ			
276	2号施設場-3 N D3h					底部	1/c2	底條			
277	2号施設場-3 N D3h					側部~底部	1/c2	兩件			
278	2号施設場-1 N D4h					側部~底部	1/c2	兩件			汎種
279	2号施設場-1 N D4h					底部	1/c1	兩件			
280	2号施設場-3 N D3g					底部	1/c1	兩件			
281	2号施設場-2 N D3g					側部~底部	1/c1	沈跡	縄文LRタテ		
282	2号施設場-3 N D3h					底部	1/c1	沈跡	縄文LRタテ		
283	2号施設場-3 N D3h					底部	1/c1	沈跡	縄文LRタテ		
284	2号施設場-2 N D3g					底部	1/c1	沈跡	縄文LRタテ		
285	2号施設場-2 N D3i					底部	1/c1	沈跡	縄文LRタテ		
286	2号施設場-2 N D3g					底部	1/c1	沈跡	縄文LRタテ		
287	2号施設場-3 N D3h					底部	1/c1	沈跡	縄文LRタテ		
288	II	III D10 f				口縁	1/a1				
289	II	III D10 g				口縁	1/a1				
290	II	III D1 h				口縁	1/a1				
291	II	III D1 g				側部	1/a6				
292	II	III D10 f				側部	1/a6	縄文LRタテ?			
293	II	III D1 g				側部	1/a6				
294	II	III D1 g				口縁	1/a6				
295	II	III D10 f				口縁	1/a1				
296	II	III D1 h				口縁	1/a1				
297	II	III D10 g				側部	1/a6	縄文LR(底多条)			
298	II	III D8 i				側部	1/a6	縄文LR豆コ			
299	II	III D9 h				側部	1/a6	縄文LR			
300	II	III D10 g				口縁	1/a6	縄文LRヨコ			
301	II	III D10 g				口縁~側部	1/a6	縄文LRヨコ・1メタ			
302	II	III D10 g				口縁	1/a6	縄文LRヨコ			
303	II	III D10 g				口縁	1/a6	縄文LRヨコ			
304	II	III D10 g				口縁	1/a6	縄文LRヨコ			
305	16.30	II	III D10 h	5956.597	8549.124	231.622	身先形	1/a4	縄文LRタテ・ヨコ		
306	II	III D3 i				側部	1/a6	縄文LRタテ・ヨコ			
307	II	III D10				側部	1/a6	縄文LRタテ・ヨコ			
308	II	III D1 h				側部	1/a12	縄文支?			
309	II	III D10 f				側部	1/c1	縄文			
310	CIX -7	III D10 f				口縁~側部	1/a6	縄文LRタテ			
311	II	III D16 h				口縁~側部	1/a6	縄文			
312	117 CIX -7	III D4 b	-5934.489	85447.341	230.339	口縁	1/a6	縄文			
313	460 CIX -7	III D10 g				口縁	1/a6	縄文LRヨコ			
314	49 CIX -7	III D2 b	-5926.051	85447.617	230.316	口縁	1/a6	縄文LRヨコ			
315	41 CIX -7	III D3 b	5930.052	85446.176	230.614	口縁	1/a6	縄文LRヨコ			
316	26 CIX -7	III D3 d	5930.893	85452.374	230.511	口縁	1/a6	縄文LR豆コ			
317	19 CIX -7	III D3 d	5929.145	85455.151	230.113	口縁	1/a6	縄文LRヨコ			
318	CIX -7	III E				口縁	1/a6	縄文LRヨコ			
319	CIX -7	III E				口縁	1/a6	縄文LRヨコ			
320	CIX -7	III E				口縁~側部	1/a6	縄文LRヨコ			
321	9 CIX -7	III E 1 c	-5921.227	85449.255	230.142	口縁~側部	1/a6	縄文LR任廣・IKヨコ			
322	118 CIX -7	III D 4 b	5934.691	85447.054	230.458	側部	1/a6	縄文LRヨコ・弱 綱目状底系文			
323	111 CIX -5	III D 4 b	5934.700	85447.063	230.458	底部	1/a6				
324	6 CIX -5	III E 9 f	-5924.416	85462.553	239.773	底部	1/a6	縄文LRヨコ			
325	46 CIX -5	III D 2 b	-5926.821	85447.662	230.563	側部	1/a6	縄文LRタテ			
326	47 CIX -5	III D 2 b	-5926.808	85447.712	230.529	側部	1/a6	縄文LRヨコ			
326	42 CIX -7	III D 3 b	5931.327	85447.85	230.559	側部	1/a6				

第5表 土製品・粘土塊観察表

掲載 番 号	器 種	注記	遺構・層位	グリッド	出土位置			長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備 考
					X	Y	Z					
401	陶輪削り製品	1004	1号捨て場・2	N/C 10 a	-5997.538	85360.535	233.027	4.26	0.04.67	1.80	29.42	無文
402	陶輪削り製品	1-1	1号捨て場・2	V B 2 f				6.25	4.80	1.50	56.52	無文
403	陶輪削り製品	1353	1号捨て場・2	N/B 10 j	-5996.44	85359.124	232.504	5.55	4.78	3.18	57.66	無文
404	陶輪削り製品	1280	1号捨て場・2	N/C 9 a	-5992.288	85360.554	232.857	4.01	6.01	2.21	36.81	無文
405	陶輪削り製品	1	1号捨て場・2	N/D 1				4.81	3.55	3.44	10.10	無文
406	土器	1400	1号捨て場・2	V B 1 i	-6000.544	85359.007	232.989	4.29	2.22	2.22	6.40	無文・脚部
407	土器	649	1号捨て場・2	N/D 8 j	-5991.721	85358.992	232.802	4.33	3.03		19.40	
408	陶器	648	1号捨て場・2	N/D 8 k				5.71	4.37		23.25	無文
409	陶器	647	1号捨て場・2	N/C 9 a	-5995.859	85361.076	233.086	4.93	4.62		41.32	泥縞文・円形文
410	陶器	1375	1号捨て場・2	V B 1 j	-6001.55	85358.918	233.006	4.69	3.85		32.75	泥縞文
411	陶器	646	1号捨て場・2	V B 1 j	-6002.112	85359.441	233.083	3.91	4.26		43.79	泥縞文
412	陶器	1277	1号捨て場・2	N/B 9 j	-5993.078	85359.516	232.886	3.24	3.11		9.00	泥縞文・判点文
413	ミニチャウ	1609	1号捨て場・2	V B 2 i	-6004.724	85359.005	232.97	3.12	2.61	0.34	2.76	泥縞文・肩部
414	ミニチャウ	1-1	2号捨て場・1	N/D 4 g				3.59	3.13	0.30	6.48	泥縞文・口縞目
415	ミニチャウ	20	1号捨て場・2	N/D 10 f				2.40	3.50	0.48	5.51	泥縞文・口縞目
416	ミニチャウ	21	2号捨て場・2	N/D 3 h				2.47	3.27	0.38	5.11	泥縞文・口縞目
417	内窓切り製品	243	1号捨て場・2	V B 3 b	-6003.08	85359.775	233.179	4.58	0.67	0.77	9.27	
418	内窓切り製品	416	1号捨て場・2	V B 1 i	-6000.699	85355.452	232.998	4.38	4.37	0.74	19.64	
419	内窓切り製品	1307	1号捨て場・2	V B 1 j	-6003.778	85358.591	233.099	3.82	3.97	0.77	14.31	
420	内窓切り製品	2	2号捨て場・2	N/D 4 g				3.28	3.39	0.87	10.48	弦頭ヒンチ
421	内窓切り製品	674	1号捨て場・2	V B 1 i	-6002.687	85353.845	233.022	3.33	3.64	0.79	11.44	
422	内窓切り製品	2	2号捨て場・1	N/D 4 f				2.89	3.11	0.82	8.60	
423	内窓切り製品	B区探査						2.55	2.50	0.64	5.26	
424	粘土塊	51	1号井穴(5号指向)	V B 5 f				7.45	7.35	4.25	153.26	等高接觸のみ
425	粘土塊	51	1号井穴(5号指向)	V B 5 i				4.65	4.64	3.60	38.54	等高接觸のみ

第6表 石器観察表

掲載 番 号	器 種	注記	遺構・層位	グリッド	出土位置			氏 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量(g)	右 材	先端角	直 徑	邊 厚
					X	Y	Z								
501	石礫	1号捨て場・2	V B 1 i					1.36	0.31	0.52	Ag	46	B	10	
502	石礫	1605	1号捨て場・2	N/B 10 j	-5999.173	85358.676	232.719	1.86	1.32	0.50	Ag	31	B	4	
503	石礫	1-1	1号捨て場・2	N/C 9 c				1.86	0.38	0.48	Sb	53	B	20	
504	石錐33	1号捨て場・2	N/D 3 g					2.08	1.56	0.64	Ag	55	B	20	
505	石錐13	1号捨て場・1	N/C 8 d					2.47	1.06	0.42	Ag	34	A	10	
506	石錐24	1号捨て場・1	N/D 4 g					3.00	1.64	0.48	Ag	65	A	20	
507	石錐93	1号捨て場・1	N/V 2 h					2.26	1.27	0.48	Ag	54	A	20	
508	石錐25	2号捨て場・1	N/D 4 h					2.82	2.11	0.60	3.14	Ag	B	21	
509	石錐15	日	N/C 9 e					2.35	1.22	0.38	0.87	Sb	47	D	5
510	石錐35	2号捨て場・3	N/D 3 g					3.18	1.60	0.49	1.89	Sb	86	B	20
511	石錐36	2号捨て場・3	N/D 3 h					2.20	1.75	0.58	1.32	Ag	50	B	5
512	石錐32	2号捨て場・3	N/D 3 g					2.65	1.61	0.64	1.87	Sb	88	C	20
513	石錐66	978	1号捨て場・2	N/B 10 -	-5997.712	85360.521	233.033	1.71	1.51	0.42	1.13	Sb	102	B	5
514	石錐30	2号捨て場・1	N/D 3 h					1.84	1.20	0.49	0.50	Sb	72	E	20
515	石錐44	2号捨て場・3	N/D 3 h					2.13	1.31	0.30	0.54	Sb	37	F	9
516	石錐43	2号捨て場・3	N/D 3 h					2.42	1.47	0.40	0.90	Sb	49		
517	石錐18	378	1号捨て場・2	V B 2 j	-6004.659	85358.309	233.201	2.91	1.54	0.85	2.04	Sb	65	Fc	20
518	石錐29	日	N/D 10 b					2.74	1.73	0.78	3.26	Sb	73	H	20
519	石錐45	2号捨て場・3	N/D 4 b					4.07	1.15	0.56	2.39	Sb	25	F	20
520	石錐21	976	1号捨て場・2	N/V 10 g	-5998.33	85360.724	233.142	1.89	1.64	0.60	1.67	Sb	E	10	
521	石錐34	2号捨て場・2	N/D 2 h					2.43	1.95	0.52	2.40	Ch	62	E	20
522	石錐02	1号土坑・2	N/D 10 f					2.55	1.83	0.66	2.32	Ag	88	E	20
523	石錐41	1号土坑・2	N/D 4 h					1.37	1.69	0.69	0.69	Sb	72	F	20
524	石錐09	175	1号捨て場・2	N/C 6 d				1.75	1.57	0.52	1.71	Sb	70	H	11
525	石錐23	1号捨て場・2	N/B 10 a	-6002.004	85360.541	233.278	2.46	1.57	0.52	1.71	Sb	70	H	20	
526	石錐22	459	1号捨て場・2	V B 1 i	-6006.093	85359.593	233.218	2.16	1.41	0.34	1.01	Sb	80	H	20
527	石錐08	1号捨て場・2	V B 1 j					1.82	0.94	0.45	0.44	Sb	53	B	18
528	石錐09	1号捨て場・2	N/B 10 i					1.93	1.67	0.56	1.83	Sb	123	B	4
529	石錐10	1号捨て場・1	N/V 2 h					2.11	1.23	0.41	0.54	Sb	52	B	20
530	石錐11	1号捨て場・1	N/B 9 j					1.63	1.05	0.36	0.48	Sb	54	A	10
531	石錐12	1号捨て場・1	N/C 9 b					1.28	1.13	0.30	0.30	Sb	B	14	
532	石錐14	1号捨て場・2	V B 1 i					1.35	0.81	0.27	0.29	Sb	C	7	
533	石錐16	1号捨て場・2	N/C 10 a					1.38	1.15	0.43	0.58	Sb	69	E	20
534	石錐17	1号捨て場・2	N/B 10 j					1.52	1.69	0.42	1.10	Sb	41	E	11
535	石錐19	1号捨て場・2	N/V 2 h					1.74	1.40	1.61	1.61	Ag	62	H	4
536	石錐20	1号捨て場・2	N/D 4 g					1.78	1.27	0.44	1.37	Sb	41	H	17
537	石錐26	2号捨て場・1	N/D 4 g					1.84	1.43	0.65	1.29	Ag	95	A	20
538	石錐27	2号捨て場・1	N/D 1 g					1.64	1.11	0.33	0.53	Sb	9		
539	石錐28	2号捨て場・1	N/D 1 g					2.41	1.15	0.26	0.50	Ag	49	A	18
540	石錐31	2号捨て場・1	N/D 3 g					1.69	1.07	0.33	0.32	Sb	40	Fb	20
541	石錐37	2号捨て場・3	N/D 3 b					1.45	1.23	0.35	0.55	Sb	B	8	
542	石錐38	2号捨て場・3	N/D 3 h					1.74	1.39	0.36	0.45	Ag	40	B	3
543	石錐39	2号捨て場・3	N/D 3 h					1.65	1.24	0.33	0.45	Sb	88	B	7
544	石錐40	2号捨て場・3	N/D 3 g					2.27	1.52	0.56	1.38	Sb	92	A	3
545	石錐42	2号捨て場・3	N/D 4 h					2.35	1.68	0.90	3.10	Ag	120	H	20
546	石錐46	日	N/C 6 d					1.51	1.23	0.31	0.41	Ag	77	X	1
547	石錐47	日	N/C 6 d					1.44	0.85	0.32	0.28	Sb	70	A	20
548	石錐01	1号捨て場・2	V B 1 i					3.01	2.25	1.11	0.38	Sb	1		
549	石錐02	4号井穴	N/V 4 g					2.59	1.36	0.63	1.75	Sb	2		
550	石錐03	2号捨て場・2	N/D 2 i					2.61	2.39	0.95	5.75	Sb	1		
551	石錐02	521	1号捨て場・2	V B 1 j	-6000.823	85358.672	233.067	5.00	3.87	0.97	11.17	Sb	3		
552	石錐04	566	2号捨て場・3	N/D 4 h	-5990.445	85360.927	232.959	3.98	3.92	0.70	9.52	Sb	1		
553	石錐05	944	1号捨て場・2	N/C 9 a	-5992.914	85361.826	233.085	2.65	3.24	0.87	5.08	Sb			
554	石錐06	566	1号捨て場・2	N/C 8 a	-5990.445	85360.927	232.959	3.36	2.96	1.03	10.64	Sb			

第6表 石器観察表

種類	岩種	注記	事情・位置	グリッド	出土位置			高 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	石質	先端角	断面	遺存
					X	Y	Z								
534	須部65	1号施設	2	N C 10 a	—	—	—	3.32	2.91	1.22	11.44	Sb	—	—	—
535	須部10	2号施設	3	N D 3 b	—	—	—	4.38	3.97	1.60	23.06	Sb	—	—	—
536	須部56	2号施設	2	N D 3 g	—	—	—	3.70	2.56	0.89	8.64	Ch	—	—	—
537	須部11	2号施設	3	N D 3 h	—	—	—	4.30	5.12	1.51	23.50	Ch	—	—	—
538	須部10	1号施設	2	N C 10 f	—	—	—	2.79	2.68	0.88	8.25	Sb	—	—	—
539	須部67	2号施設	1	N D 3 j	—	—	—	6.58	3.11	1.01	43.65	Sb	—	—	—
須部62	1号施設	2	N B 10 j	—	—	—	2.64	4.14	1.34	18.13	Sb	—	—	—	
須部64	1号施設	2	N C 9 b	—	—	—	3.92	2.49	0.79	9.91	Sb	—	—	—	
須部66	2号施設	1	N D 3 h	—	—	—	3.21	4.03	1.78	18.99	Ag	—	—	—	
須部69	2号施設	3	N D 3 g	—	—	—	3.34	2.30	0.69	4.62	Sb	—	—	—	
須部12	2号施設	1	N D 3 h	—	—	—	2.10	2.62	0.50	2.58	Sb	—	—	—	
須部61	5号施設	—	N C 9 b	—	—	—	2.43	5.13	1.23	33.29	Sb	—	—	—	
541	削平坑	—	N C 9 a	—	—	—	—	2.75	3.14	0.65	5.42	Sb	—	—	—
542	削平坑	972	1号施設	V C 1 a	-6002.766	85360.277	233.087	3.91	5.88	1.40	20.44	Sb	—	—	—
543	削平坑	13	2号施設	N D 3 g	—	—	—	3.74	1.83	0.62	3.17	Sb	—	—	—
544	削平坑	979	1号施設	N C 10 a	-5997.505	85360.254	233.027	3.65	4.15	1.36	18.70	Sb	—	—	—
545	削平坑	5	2号施設	N D 3 g	—	—	—	3.65	2.37	0.74	8.04	Sb	—	—	—
546	削平坑	12	2号施設	N D 3 g	—	—	—	4.48	4.06	1.13	18.99	Sb	—	—	—
547	削平坑	456	1号施設	V B 2 j	-6006.492	85359.574	233.223	4.40	4.47	0.71	9.73	Sb	—	—	—
548	削平坑	16	2号施設	N D 3 g	—	—	—	4.42	2.99	1.22	11.68	Sb	—	—	—
549	削平坑	1287	1号施設	N B 8 j	-5991.658	85358.87	232.778	4.11	4.02	1.34	13.43	Sb	—	—	—
削平坑	990	1号施設	N B 9 j	-5995.639	85357.169	232.668	4.53	4.94	1.55	34.20	Sb	—	—	—	
削平坑	984	1号施設	N C 9 a	-5992.315	85360.584	232.882	1.58	2.17	0.55	2.29	Sb	—	—	—	
削平坑	529	1号施設	N C 10 a	-5999.591	85361.939	233.303	4.11	3.95	0.90	6.35	Sb	—	—	—	
削平坑	1587	1号施設	V B 2 d	-6005.184	85334.24	231.806	4.44	3.71	1.56	17.32	Sb	—	—	—	
削平坑	14	—	N D 10 h	—	—	—	4.57	3.41	1.21	14.37	Sb	—	—	—	
削平坑	14	2号施設	N D 4 g	—	—	—	4.20	3.03	0.90	10.03	Sb	—	—	—	
削平坑	17	2号施設	N D 4 g	—	—	—	4.00	3.90	1.16	9.99	Sb	—	—	—	
須部7	7.502	1号施設	N D 4 g	—	—	—	3.08	2.62	0.84	2.98	Sb	—	—	—	
須部8	2803	1号施設	N D 1 f	—	—	—	2.38	1.82	0.84	2.73	Sb	—	—	—	
須部7	4606	2号施設	N D 3 g	—	—	—	2.67	1.97	1.05	5.61	Sb	—	—	—	
須部7	2909	2号施設	N D 3 g	—	—	—	3.45	2.30	0.97	8.25	Sb	—	—	—	
須部7	4608	2号施設	N D 3 h	—	—	—	2.77	2.78	0.68	8.00	Sb	—	—	—	
須部7	4601	495	1号施設	V C 1 a	-6002.856	85360.03	231.126	1.73	1.13	0.52	1.05	Sb	—	—	—
削平坑	604	—	N D 1 f	—	—	—	2.81	2.95	1.13	7.78	Sb	—	—	—	
削平坑	205	2号施設	N D 3 h	—	—	—	4.20	2.66	1.43	17.97	Sb	—	—	—	
削平坑	607	2号施設	N D 3 g	—	—	—	2.64	2.01	1.15	5.21	Sb	—	—	—	
削平坑	610	2号施設	N D 4 g	—	—	—	1.86	1.90	0.56	2.09	Sb	—	—	—	
556	石	716	1号施設	V B 2 j	-6005.621	85358.252	233.173	—	—	—	10.52	Sb	—	—	—
石	602	959	1号施設	V B 2 j	-6005.463	85359.846	233.166	—	—	—	13.55	Sb	—	—	—
石	4703	—	N C 10 a	—	—	—	—	—	—	—	7.52	Sb	—	—	—
石	4704	—	N D 10 h	—	—	—	—	—	—	—	3.07	Sb	—	—	—
刮削器	4705	—	N D 4 g	—	—	—	—	—	—	—	11.81	Sb	—	—	—
刮削器	515	1号施設	V C 9 d	-6003.116	85357.359	233.211	—	—	—	0.69	深酒器Ob	—	—	—	
刮削器	516	1号施設	V C 9 d	—	—	—	—	—	—	—	0.07	深酒器Ob	—	—	—
557	新製石斧03	2号施設	N D 3 h	—	—	—	(3.87)	3.15	2.34	33.29	Ob	—	—	—	
新製石斧06	654	1号施設	V B 1 i	-6000.614	85354.767	232.857	(5.45)	4.41	2.19	70.19	Ob	—	—	—	
新製石斧07	655	1号施設	V B 1 i	-5993.173	85358.576	232.884	(4.78)	4.50	2.17	194.46	S.S	—	—	—	
660	新製石斧05	1583	N D 1 f	-6003.004	85341.881	231.966	(1.65)	0.74	0.41	1.13	Ob	—	—	—	
661	新製石斧02	652	1号施設	N D 10 i	-5996.375	85357.6	232.863	(8.30)	4.57	2.40	154.58	Ob	—	—	—
662	新製石斧04	273	2号施設	N D 3 h	(10.85)	6.70	3.73	445.28	An	—	—	—	—	—	—
新製石斧07	—	—	N C 9 c	—	—	—	3.78	4.89	2.79	200.29	Ob	—	—	—	
664	新石斧	1515	1号施設	V B 3 h	-6008.563	85351.501	233.075	9.99	6.73	5.24	433.59	Sch	—	—	—
665	凹石斧	657	2号施設	N C 10 a	-5996.614	85361.242	233.266	16.70	5.45	3.67	485.48	Sch	—	—	—
663	新石斧	671	6号施設	N B 10 j	—	—	—	11.35	5.68	2.33	262.52	An	B	—	—
666	新石斧	1108	2号施設	N C 7 d	-5986.904	85373.188	233.114	10.79	9.42	4.01	655.26	S.S	D	—	—
667	新石斧	1509	2号施設	V B 2 j	-6004.522	85357.959	233.035	9.04	7.31	3.37	334.05	S.S	D	—	—
668	新石斧	—	N D 10 h	—	—	—	9.81	9.23	4.53	615.63	An	D	—	—	
669	新石斧	—	V B 1 i	—	—	—	(8.08)	(5.34)	2.85	154.33	S.S	D	—	—	
670	新石斧	—	N D 9 b	—	—	—	8.64	7.78	4.45	325.97	An	D	—	—	
571	新石斧	851	2号施設	N D 9 j	-5993.605	85357.569	232.799	10.36	7.74	3.56	375.23	S.S	D	—	—
新石斧	3	2号施設	N D 9 j	—	—	—	(2.56)	(5.59)	(2.31)	47.71	S.S	D	—	—	
新石斧	15	2号施設	N D 9 j	—	—	—	(3.25)	(2.67)	(3.68)	36.95	S.S	D	—	—	

第7表 陶器觀察表

件號	器種	詳記	遺構・層位	グリッド	出土位置			備考
					x	y	z	
601	圓盤	1b	V C 9c					产地：西洋16世紀後半 口徑：12.0cm
602	鉢	368	II	N B 10 i	-5998.771	85350.695	232.941	产地：西洋19世紀前半
603	桶	437	II	N B 10 i	-5996.056	85356.095	233.04	产地：西洋19世紀前半
604	菊花瓶		1b	N C 8 a				产地：西洋16世紀後半 口徑：9.8cm
605	碗	932	II	N C 9 a	-5993.797	85350.046	232.958	产地：西洋16世紀後半
606	罐	364	1b	N B 10 i	-5998.35	85352.706	232.941	产地：西洋19世紀前半
607	罐	385	II	N B 1 b	-6000.099	85350.289	232.909	产地：西洋19世紀前半 底径：4.2cm
608	漆新瓶	662	51号柱穴 20号柱穴	V B 5 a V B 5 c	-6017.075	85343.288	232.907	产地：西洋19世紀前半 文様、菊花文
609	皿							

第8表 金屬器觀察表

件號	器種	詳記	遺構・層位	グリッド	出土位置			長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備考
					x	y	z					
701	銅剪		1b	V B 1 b				7.11	1.26	0.56	14.38	
702	火打ち金	648	50号柱穴	V B 5 f	-6016.47	85342.592	232.873	2.37	4.99	0.50	14.60	同穴四面
703	鍍銅紙製品	646	62号柱穴	V B 4 e	-6013.315	85338.613	232.988	4.00	4.06	0.43	14.87	
704a	銅製鐘管(喉音)		5号土坑	N C 8 a				6.61			9.77	
704b	銅製鐘管(吸口)		5号土坑	N C 8 a				6.78			5.72	
705	銅鏡(青銅水)		5号土坑	N C 8 a				2.46			3.43	
706	銅鏡(白銅水)		5号土坑	N C 8 a				2.46			3.88	
707	銅鏡(青銅水)		5号土坑	N C 8 a				2.37			2.28	
708	銅鏡(青銅水)		5号土坑	N C 8 a				2.44			2.10	
709	銅鏡(青銅水)		5号土坑	N C 8 a				2.39			2.04	
710	銅鏡(青銅水)		5号土坑	N C 8 a				2.33			2.25	
711	銅鏡(青銅水)		5号土坑	N C 8 a				2.42			2.46	
712	銅鏡(古銅水)		5号土坑	N C 8 a				2.45			2.04	
713	銅鏡(文鏡)		5号土坑	N C 8 a				2.54			6.12	三枚重ね
714	銅鏡(新銅水)		表孫					2.31			2.23	
715	銅鏡(新銅水)	659	21号柱穴	V B 5 f	-6018.465	85340.248	232.914	2.34			2.10	
716	銅鏡(新銅水)	661	24号柱穴	V B 5 c	-6017.846	85339.538	232.885	2.33			2.87	
717	銅鏡(古銅水)	898	44号柱穴	V B 4 e	-6015.561	85339.842	232.764	2.41			2.52	
718	銅鏡(青銅水)		1b	V B 4 e				2.37			2.19	
719	銅鏡		C柱洞					2.37			1.93	
720	銅鏡(青銅水)		11号柱穴底面	N B 10 i				2.15			1.11	
721	銅鏡(新銅水)		64号柱穴	V B 5 f				2.29			2.00	
722	銅鏡		II	V B 1 i				1.95			1.02	
723	銅鏡		1b	N B 9				2.58			1.91	
724	銅鏡		II	N C 9 a				2.74			5.55	
725	銅鏡		II	V B 1 i				2.27			3.87	

V まとめ

1 遺構

(1) 挖立柱建物跡

9棟検出し、縄文時代2棟、中・近世以降6棟、時期不明1棟を検出した。

縄文時代の掘立柱建物跡は、近世以降の掘立柱建物跡に比べると、柱穴規模が大きく深い。8・9号掘立柱建物跡は4木柱で構成され、平面形は正方形ないしは長方形を呈する。いずれも柱痕跡が確認でき、底面には敷石が見られた。本遺跡では竪穴住居跡が発見されなかったが、8号掘立柱建物跡は1号捨て場と、9号掘立柱建物跡は2号捨て場に近接している。柱穴底面から出土した土器は胴部破片ではあるが、胎土・焼成の点で捨て場出土土器と類似しており、所属時期は縄文後期と考えられる。捨て場は埋没沢を覆うように形成されているが、立地の点でも捨て場の形成には掘立柱建物跡の位置する微高地からの投げ込み行為が関与したと想定される。

ところで、後期初頭～前業は遺物量の豊富さと比べ、居住の痕跡が貧弱であることが特徴であるとされる（菅野2003）。菅野によれば、一関市清水遺跡例のように掘立柱建物や平地式住居が集落の主体となっている遺跡も見られることから、実際には集落として考えられる遺跡は見かけより多いのではないかという。本遺跡では、より高位の河岸段丘面にも集落の存在が予想されるものの、この指摘が縄文後期の全体的な傾向として追えるならば、今回の調査範囲が掘立柱建物跡を居住活動の中心とした小集落の一部であった可能性も否定できない。

中・近世以降の掘立柱建物跡は、出土遺物の年代から7号掘立柱建物跡が16世紀後半で、その他は19世紀前半代の母屋・小屋の性格を持つと想定される。7号掘立柱建物跡は梁行の柱間寸法が24尺あり、屋根を支えるにはやや難がある。本遺構は1号捨て場範囲内に構築されており、中間に位置する柱穴を捨て場調査によって発見できなかった可能性も否定できない。また、建物跡ではなく柵列が東側と西側の2条と考えることもできるが、各柱穴の柱間寸法が東西両側で一定に保たれていることから、何らかの建物跡の可能性が高い。7号掘立柱建物跡からは16世紀後半の唐津焼や永楽通宝など、中世に遡る資料が出土しているが、田野畠村では、これまで発掘調査によって明確に中世期の遺構・遺物を確認していない。

近世の掘立柱建物跡は複数存在し、3～6号掘立柱建物跡は民家の母屋と小屋のセット関係と捉えられる。母屋と考えられる3号・5号掘立柱建物跡は、当初は1棟の総柱建物跡ではないかと考えたが、その後の埋土の検討や柱の配置関係から2棟に分離した。切り合い関係があり、3号掘立柱建物跡の廃絶後に5号掘立柱建物跡を新しい母屋として建て替えたと考えられる。

(2) 土坑

10基を検出し、内訳は縄文時代9基、近世墓壙1基である。

縄文時代の上坑は1号捨て場範囲内と2号捨て場周辺に位置し、捨て場と同時期の縄文時代後期の構築と考えられる。縄文時代の土坑は楕円形や長方形に近い平面形だが、大半が不整形である。1号捨て場範囲内出土土坑は浅い。最も良好な堆積と出土遺物に恵まれたのは10号土坑で、ほぼ完形近く復元できた深鉢やミニチュア土器片、2号捨て場第3層出土資料と同一個体の可能性がある土器片などが

出土している。

一方、近世墓壙の5号土坑は人骨1体と寛永通宝・煙管が出土しており、人骨は老年期の男性で、遺物の年代は17世紀後半～18世紀代と捉えられる。掘立柱建物跡とは年代的に離れているが、付近に寄せられていた近世墓碑集中部内の墓碑には近い年代の墓碑が存在している。墓碑と墓壙の関係については後述する。

(3) 捨て場

捨て場は2ヵ所検出した。2ヵ所とも沢の流水によって作られた谷状の地形を覆うように形成されており、微高地から投げ込み行為による埋没過程が想定される。時期は2ヵ所とも縄文時代後期前葉を主体とするが、1号捨て場のほうが若干古期の様相を示す。1号捨て場範囲内には土坑・焼土・遺構があり、範囲西側には柱穴群が存在する。柱穴群は一部建物跡を構成する可能性があり、これを居住痕跡と捉えるならば、1号捨て場形成には東側（微高地側）と西側の2方向からの投げ込み行為があったものと考えられる。

(4) 埋設土器

埋設土器は1基のみ出土した。他の遺構よりも標高の低い場所に設置されている。使用された土器は小型深鉢で磨消手法が多用されている。埋土下部の第2層には周囲の土壤中に見られる白色砂礫とは異なる白色粒子が認められたため、土壤の理化学分析を実施した。埋設土器の用途は貯蔵具・埋葬施設としての骨蔵器が考えられるため、分析によるリン濃度の高さに注目していたが、用途を示す明確なデータは得られなかった。

2 遺 物

(1) 土 器

土器では大コンテナ（30×40×30cm）14箱分の縄文土器のほか、わずかながら弥生土器が出土している。大半が後期前葉の土器で、1・2号捨て場で出土した。ほかに後期中葉、晚期の土器片が少量出土した。弥生土器は後北A式の影響を受けて在地化したものと思われ、後北A式に特徴的な刺突文が施されているが、厚手で焼成は良くない。田野畠村内では弥生時代の土器がわずかながら表採されているものの、該期の遺構の発見には至っていない。今後の資料的蓄積が望まれる。

(2) 土 製 品

土製品は腕輪形土製品・鐸形土製品・円盤形土製品・ミニチュア土器・土偶が出土している。出土数はそれぞれ少數であるが、いずれも東北地方後期前葉の特徴を示している。文様は無文・沈線・刺突による表現方法で構成される。

本遺跡出土の腕輪形土製品はすべて無文で厚い。この傾向は、東北地方では「円筒形で器厚が厚いものが多」く、また「無文のものが多い」（吹野2000）という指摘と整合する。

鐸形土製品では無文のものと、沈線による文様描出が見られる。なかでも409は開口部が横位にあり、類例は多くない。鐸形土製品は機能的には孔部に紐を通して吊り下げるが予想されることから、開口部が下位にくるよう実測図では表記しているが、文様施文は同時期の土器と類似の傾向が認められ、むしろ土器口縁部と同様に開口部側に丁寧な施文が行われている。用途とは別の問題として注意

を要する。

円盤形土製品は土器片錐とも言われ、主として錐としての機能、網漁業の沈子としての認識が一般化している。本遺跡は普代川と接するため、河川漁撈を行っていた可能性は十分にあるが、出土数は7点と少ない。沈子としての機能を土器片錐の分類から考察した事例によれば、「立体的」か「偏平」かの形状差は水流に対する抵抗力の違いと関係することが1つの要因（小笠原1998）としてあげられている。偏平な土器片錐は「海中の途中にある場合は水流の抵抗を強く受けるが、反面、海底に達して横位に伏せた状態となった場合はその抵抗力が小さな錐となって」（小笠原1998）いるという。本遺跡出土品はいずれも偏平で、立体的なものはなかった。今後の周辺地域の資料増加によっては、上記事例のように沿岸地域の漁撈活動の一端を検討できるだろう。

(3) 石 器

石器は剥片石器・礫石器あわせて468点出土した。礫石器は磨石・凹石・敲石・磨製石斧があるが、掌大が多く、大型品はない。一般に長期的な居住地には大形の生活道具が多い傾向にあり、石皿や大形縄などが居住地内で散見される。本遺跡の石器組成はいずれも小形品が多く、長期的な居住の証拠を見出すことが難しい。1号捨て場では在地の砂岩・ホルンフェルス礫が出土しているが量は少ない。したがって本遺跡は通年居住地ではなかった可能性がある。

剥片石器では、石鐵がトゥール類のなかで最も多く出土した。完形品は少なく、基部や先端部が破損しているものが多い。石匙・搔器・削器などスクレーバー類がまとまっているが、不定形な資料が多い。

礫石器では、磨製石斧はすべて破損品で、刃部の損傷が著しい。磨石は断面が円形に近いものはみられず、偏平なものが多い。石器の多くは1・2号捨て場から出土しているが、破損の多さは捨て場という遺構の性格を反映したものであろう。ただし、長期にわたる居住地に形成された捨て場では、道具の刷新が行われる過程で完形品が捨てられるることは一般的であり、その観点からも本遺跡での捨て場遺構内の完形品比率の低さは通年居住の可能性を支持しない。こうした出土石器の特徴と遺跡滞在期間との関連性は、掘立柱建物跡、竪穴住居跡、平地式住居跡など縄文後期の建物跡を考えるうえで示唆的である。

3 近世墓壙とその年代論的位置

B区内より近世墓碑6点、墓壙1基（5号土坑）を発見している。6点の墓碑は全て後世の土地利用によって人為的に寄せられた可能性が高い。そのため、墓碑が伴わない墓である可能性も含めて、どの墓碑が墓壙と対応するか出土遺物の年代から検討する必要がある。墓碑の年号はすべて近世のもので、以下のとおりである。

墓碑銘

①明和六年	丑十二月十七日	(一應妙心禪定尼)	1769年
②天明四年	(辰)六月(廿)三日	(一智庵禪定門)	1784年
③文化元年	子十二月八日	(良山禪定尼)	1804年
④文政二?年	正月十八日	(實春禪定門)	1818~1830年間
⑤文政八年?	七日	(○妙○禪定尼)	1825年?
⑥文政十二年	(丑)七月六日	(等(游?瀬?)禪男) 万?○	1829年

墓碑は18世紀後半～19世紀前半のものであることが理解できる。このうち①～③が大形品で④～⑥が小形品である。では近世墓壇である5号土坑の構築はいつごろであろうか。

墓壇からは人骨1体と副葬品として煙管1点、銭貨10枚が出土している。煙管は18世紀前半代の形態を呈し、18世紀中ごろまでの利用が考えられる。銭貨は10点のうち、古寛永3枚、文銭1枚、新寛永6枚である。すべて銅銭で占められ、鉄銭がないことから、18世紀中頃の組成である。また、新寛永(1697～1747)と1767～1781年間に鋳造)の存在からも墓の年代は18世紀中頃と言えよう。

墓碑で18世紀代は①・②であり、人骨鑑定の「熟年男性」という結果から考えれば、②の年代は中頃とは言いがたいが、大きな誤差とは言えない。よって、5号土坑の年代は18世紀中頃以降で、墓壇に伴っていた墓碑は、熟年男性人骨という鑑定結果から、②の可能性があると結論する。

VI 考 察

1 縄文時代後期における土器の野焼き方法

はじめに

岩手県清水遺跡の例では中期末と後期初頭の土器の比較から、時期によって野焼き方法に変化が認められ、薪燃料の利用方法と土器の薄手化及び括れの少ない個体の増加には相関関係があると指摘された(須原ほか2005)。野焼き方法は器形に応じて変えるものと想定されているが、後期土器については検討資料数が少ないので、具体的な議論には至っていないのが現状である。そこで、本章では後期土器の野焼き方法を検討する上での基礎資料提示を目的として、岩手県田野畑村沼袋遺跡資料(後期前葉)、北海道函館市石倉貝塚出土資料(後期前葉)、岩手県一関市清水遺跡資料(中期末～後期前葉)のうち深鉢に限定して取り上げる。

(1) 土器の観察とサイズクラス

観察の視点は清水遺跡資料の検討で用いた基準(須原ほか2005)に従う。沼袋遺跡では後期前葉の土器が多数取り上げられているが、口縁から底部まで残る土器は少なく、検討可能な深鉢は5個である。石倉貝塚資料は黒斑の観察できた深鉢を15個選択した。清水資料は、前回の検討データを利用する。

沼袋遺跡では資料が少ないので、遺跡内出土土器の容量分布を知ることはできない。したがってここでは清水遺跡で利用したサイズクラスを基準に検討したい。容量の小さいもの(左側)から大きいものへと並べた容量順グラフ(第61図)をみると、清水遺跡では10%付近と20%付近に分布の断絶がみられる。よって、10%未満を中・小型、10%台と大型、20%以上を特大型とした。沼袋では5個体のうち129・130・305が大型で、13が特大型である(第58図)。石倉貝塚資料は黒斑の観察しやすい類似個体を選択したため、結果として中・小型のみとなった(第59・60図)。清水遺跡では、大型深鉢が縄文施文主体で、中・小型深鉢が沈線・刺突を主体とする有文土器が大半を占める。特大型は有文と縄文がほぼ半々で、中期と後期の両時期とともに認められる。このような「中・小型は有文、大型は素文」という作り分けは中期末よりも後期初頭の方がより明瞭であり、器形も頸部の括れが弱まり円筒

形ないしはバケツ形になるという変化がみられる。なお、第58~60図は縮尺1/10に統一し、土器が野焼き最終段階で寝かせられていることを前提として、左上：接地面側外面、左下：接地面側内面、右上：上向き面側外面、右下：上向き面側内面の計4面の黒斑・スス・コゲの範囲を表現している。遺物の番号は各報告書の遺物掲載番号をそのまま利用した。

(2) 野焼き方法の検討

縄文土器は「最初から横倒しにして焼く」、「最初は立てて置き、途中で横倒しにする」など、野焼き方法を変えていると推定されている（久世ほか1999）が、土器の設置方法、燃料の多寡、野焼き時の土器の動かし方など個別手法としての野焼き方法の差異は、土器の火回り不良を防ぐための解決策の差と考えられる。これまでの野焼き実験による黒斑の分布傾向からは、以下の違いが確認されている（須原ほか2005から再録）。

- ①最初から横倒しの場合は、接地面が火回り不良にならないように薪かオキの上に置く必要があるため接地面に棒状黒斑が付くことが多い。一方、オキに埋もれるように接地したことを示すオキ密着黒斑は最初から横倒しに置かれた場合には付きにくい。
- ②途中で横倒しする方が、内面の火回りを良くするために薪を差し入れる必要性がより高い。
- ③土器が水平に置かれたことを示すオキ密着黒斑が接地面に付くにも関わらず、対応する内面下部～内底面にオキ溜まり黒斑が付く場合、「直立していた段階があった（=途中で横倒しした）」と言える。
- ④「大きなスス・炎が出る状態の薪が接触したことを示す逆U字形・2個1対の薪接触黒斑」は、薪を内面に入れた土器を最終段階で横倒しした場合に付きやすい。一方、最初から横倒し状態の土器の内面に薪を差し入れた場合は、薪から出たススが下側の内面に整った形の逆U字形・2個1対黒斑を残すことは考えにくい。なお、棒状・逆U字形・2個1対の薪接触黒斑が複数の側面に縱方向に付く場合は、転がされたか、または、横倒しされる前・後の薪接触を示す。
- ⑤薪を差し入れて直立した土器では、内面下半部の方が上半部よりも明るい色調を呈する。
- ⑥最初から横倒しに置いた方が上向き側外面の中軸線上に多くの薪・オキが載りやすい。

沼袋遺跡では129（16.6%）、13（22.5%）に接地面側内面に薪差し入れの痕跡と思われる太い棒状黒斑があり、129の棒状黒斑は下部が逆U字形を呈する。13には接地面側外面上にオキ密着黒斑が多数観察できた。上記②と④の理由から大型以上は「最初は立てて置き、途中で横倒しにする」手法が採用された可能性が高い。130（15.8%）は上向き面側外面上の中央軸線上と胴中部側面により逆U字形の黒斑が縱方向に見られるため、やはり④が当てはまる。

清水遺跡の検討（須原ほか2005）では接地面側外面に大型棒状黒斑が付くことが多く、①の特徴である。また、内面に逆U字形や2個1対の薪接触黒斑がほとんどなく、④の特徴も見られ、転がし痕を示す土器がないことから「最初から横倒し」にして野焼きが行われたと考えられる。

石倉貝塚では「薪の差し入れ」が行われた痕跡が154（6.7%）、200（0.5%）、1006（5.1%）に見られるが、それらの土器の内面には逆U字形、2個1対の薪接触黒斑がないことから④に当てはまる。①の特徴である「接地面側外面に多数の薪接触黒斑が付くもの」は、8（5.0%）、198（7.6%）、480（4.1%）、200、474（1.8%）ある。また、⑥の特徴を示す「上向き面側外面に薪接触黒斑が付くもの」は154、198、200、480、1005（7.7%）、1006と6個体ある。これらの痕跡から、石倉貝塚では「最初から横倒し」して野焼きを行った可能性が高い。一方、薪の差し入れと考えられる接地面側内面の棒

状黒斑が見られない土器については、1004（3.7%）、979（6.6%）、982（4.7%）、288（1.8%）、471（1.1%）など口縁部の小範囲のみのオキ溜まり黒斑が多く、下半部には少ない。このことは、薪の差し入れをしなかったが、口縁部に薪を立て掛けた可能性を示す。これもオキの上で焼かれた証拠と考えられるため、「最初から横倒し」の可能性を支持する。

（3）遺跡間・時間の差異

以上の検討から、沼袋については「途中で横倒し」、清水と石倉貝塚は「最初から横倒し」の可能性が高い。しかし、いずれも資料数不足は否めないので、さらに多くの資料検討を要する。

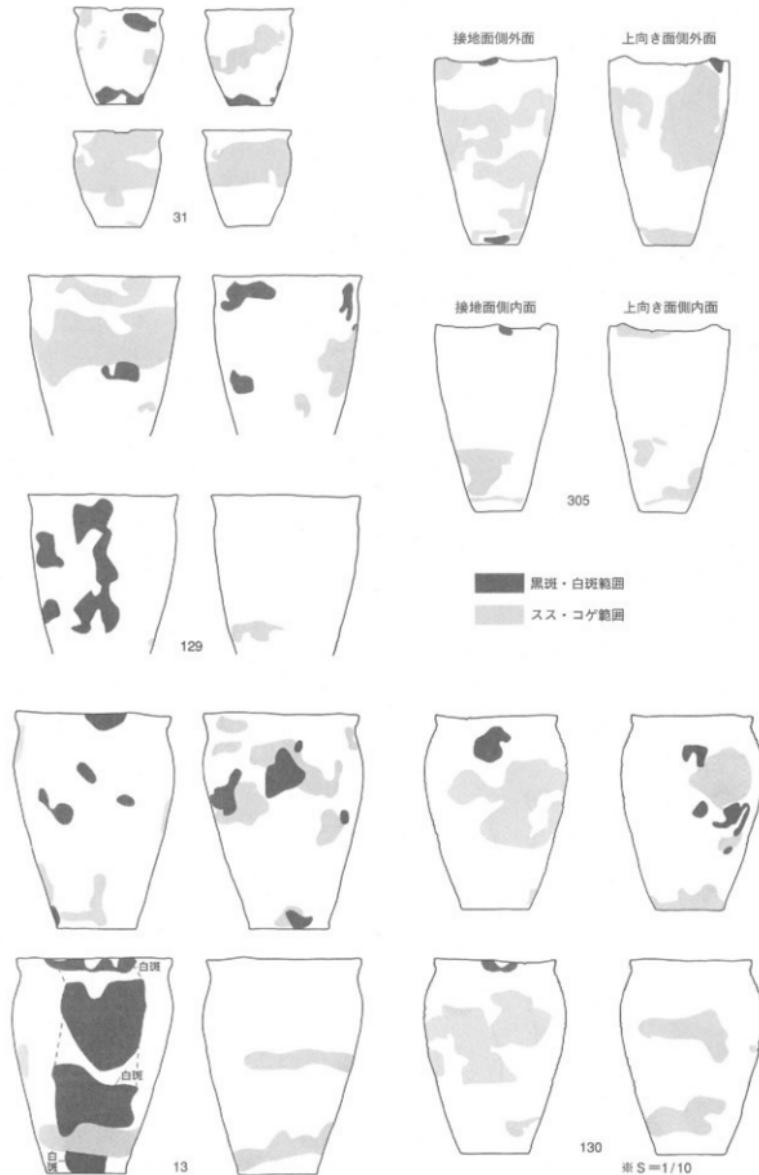
以前の清水遺跡中期～後期初頭の分析では、接地面側の黒斑は、小さめの薪／オキ接触黒斑のみの例が多いことから、地面に薪を並べた上に土器を置いたと結論した。また、清水遺跡の中期土器では後期土器よりも太薪との接触を示す例が多く、燃料が多い、あるいは火力が強く長持ちした可能性を指摘している（須原ほか2005）。石倉貝塚でも清水と同様に接地面側に薪接触黒斑の見られる土器が一定量存在している。ただし、太薪との接触を示す例は少ないため、清水の後期土器により近いと言える。

時間の検討は清水のみであるが、中期土器は後期に比べて、①接地面黒斑が太薪を示す比率が高い、②側面に薪を立て掛けた比率がやや高い、③色調が明るい、という傾向であった。①・②より、中期土器のほうが後期土器よりも焼成時に地面側や側面により多くの薪を置いたと言える。中期土器の方が明るい色調なのは、このように薪を多用した結果であろう。

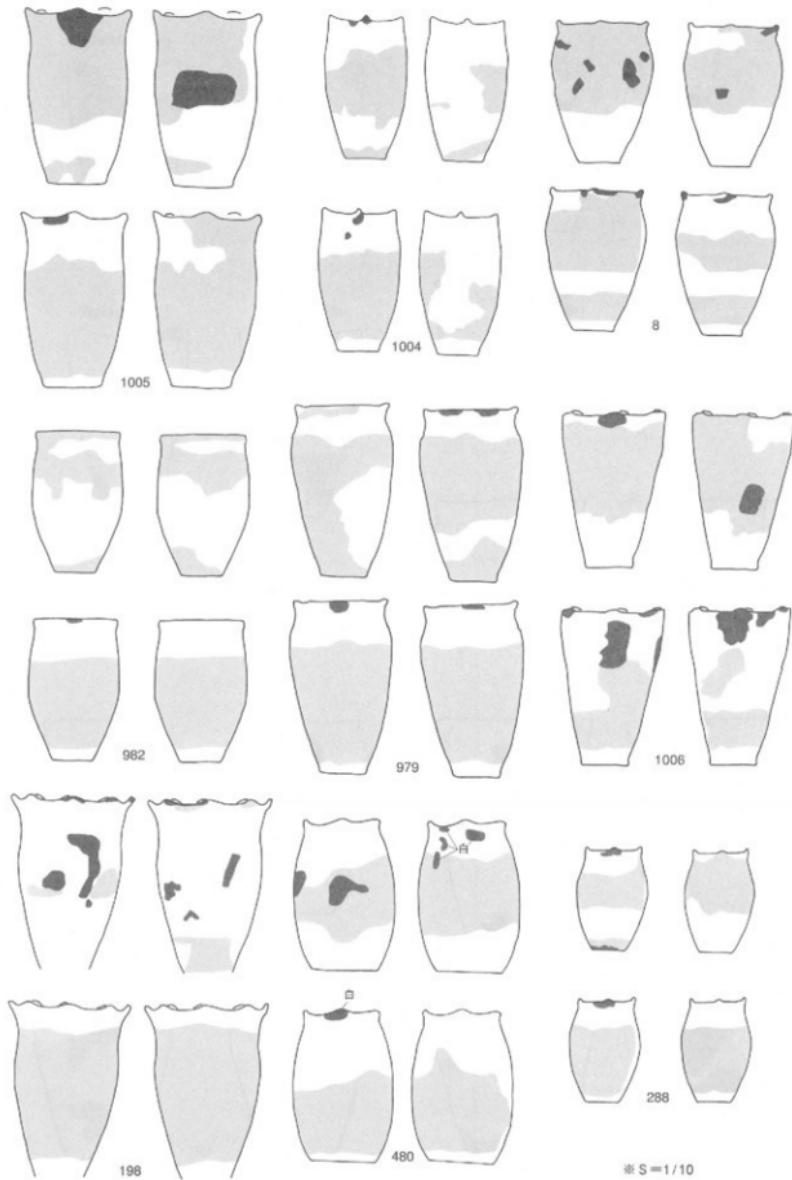
（4）まとめ

清水遺跡例によれば、中期から後期にかけて野焼き方法が変化していることが窺えるが、その背景として、中期土器は総じて厚みがあるため土器が火回り不良にならないよう多量の燃料を必要としたことが考えられる。一方、後期土器は中期に比べて省エネ傾向にあり、使用した薪燃料が中期に比べて少ないと想定される。一方で、薪燃料の減少傾向は中期から後期への器形変化とリンクする事象であると考えられる。繩文中期から後期への薪燃料の節約化、および土器の相対的な薄手化と器形の括れの減少は何に起因しているのであろうか。現状では1つの要因に求めることはできないが、繩文中期から後期にかけて地域規模の環境変動と密接なかかわりを指摘できるかもしれない。この時期では低温化による海水面の低下と乾燥化による年間雨量の低下が人類の居住環境を激変させ、結果として燃料獲得コストが増大したと想定されるが、その回避策として燃料の節約とそれに対応する器形・器厚の変化が摸索されたのではないだろうか。

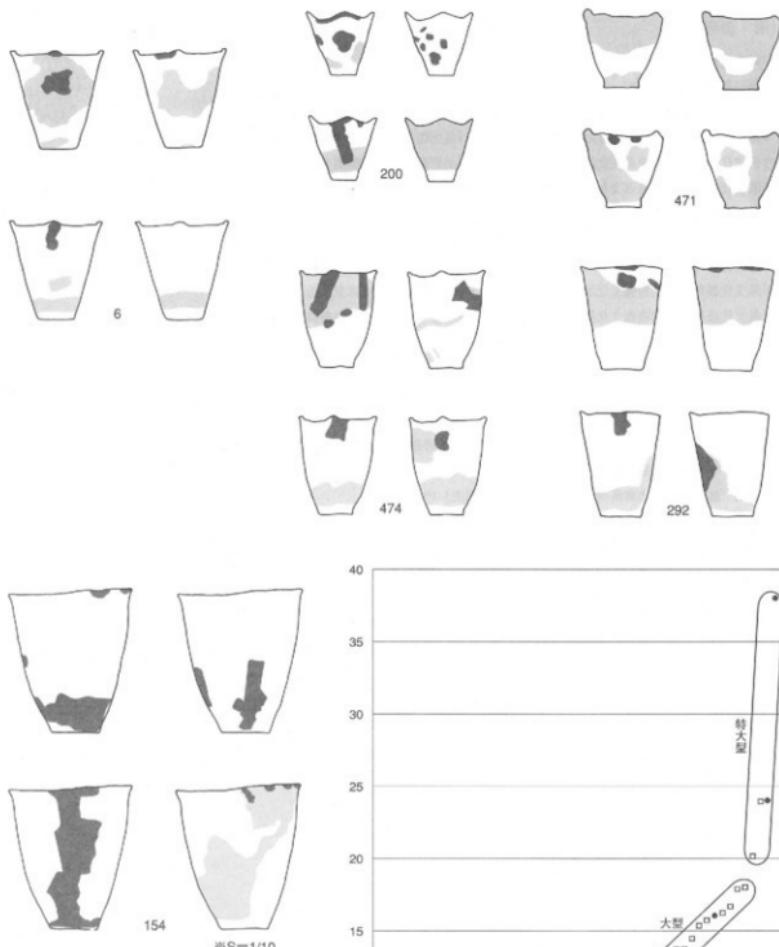
ただし、今回の後期土器の地域間対比では、太薪燃料の少なさや生焼けに近い白っぽい土器が一定比率あることを読み取れるものの、地域間格差を明確にあらわす現象を抽出できなかった。今後の課題として資料の豊富な別遺跡の検討数を増やすなければならない。



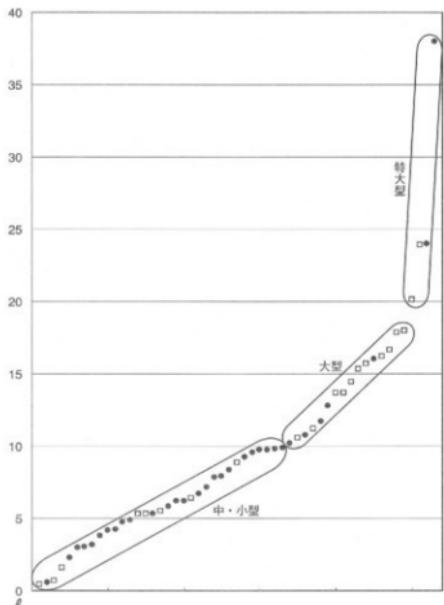
第58図 黒斑の分布（沼袋遺跡）



第59図 黒斑の分布（石倉貝塚①）



第60図 黒斑の分布（石倉貝塚②）



第61図 清水遺跡後期層の深鉢

引用・参考文献

- (報告書等)
- 田野畠村教育委員会 1985 「田野畠村史」
- 田野畠村教育委員会 1994 「子木地の台遺跡」
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1993 「新山権現社遺跡発掘調査報告書」第188集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1998 「浜岩泉1遺跡発掘調査報告書」第276集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 「下館領居遺跡発掘調査報告書」第297集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000 「相ノ沢遺跡発掘調査報告書」第332集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002 「清水遺跡発掘調査報告書」第382集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 「長谷家貝塚発掘調査報告書」第434集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 「和野1遺跡発掘調査報告書」第452集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 「和野ソマナイ遺跡発掘調査報告書」第466集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2005 「平成16年度発掘調査報告書」第469集
- 山形県埋蔵文化財センター 2003 「かっぱ遺跡発掘調査報告書」第114集
- (論文・研究ノート等)
- 小笠原永隆 1998 「土器片鍾についての一考察」『貝塚研究』3 國生貝塚研究会
- 加藤晋平・小林達夫・藤本強編 1994 「縄文文化の研究5 縄文土器Ⅲ』 雄山閣
- 菅野智則 2003 「縄文集落研究の初期的操作」『歴史』101
- 久世健二・小島俊彰・北野博司・小林正史 1999 「黒斑からみた縄文土器の野焼き方法」『日本考古学』8 日本考古学協会
- 須原 拓・米田 寛・北村忠昭・小林正史・長友朋子・中村大介 2005 「黒斑からみた東北地方の縄文土器の野焼き方法」『日本考古学協会第71回総会研究発表要旨』
- 吹野富美夫 2000 「縄文時代の土製腕輪」『常陸台地』15 常総台地研究会
- 栗林哲男 1999 「下館銅屋遺跡出土の黒曜石製遺物の原材産地分析」「下館銅屋遺跡発掘調査報告所」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 栗林哲男 2000 「岩手県相ノ沢遺跡出土の黒曜石製器の原材产地分析」「相ノ沢遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

VII 分析・鑑定

1 分析目的

沼袋遺跡において土壤理化学分析、黒曜石産地同定分析、火山灰同定分析をそれぞれ委託し、下記の結果を得た。

土壤理化学分析はC区1号埋設土器内の土壤分析によって、骨蔵器の可能性を探求する目的で実施した。埋設土器は集落からやや離れた、水辺に近く地形的に低い場所に設置される例がたびたび報告されており、土器内土壤の洗浄で人骨・獸骨が見つかる事例が増加している。本遺跡でも地形的な条件が合致し、その可能性をリン残留濃度の測定によって追求できるものと判断した。

火山灰同定は遺跡の相対年代や形成過程を知る上で必要不可欠な分析である。B区内で基本土層第IV層として明確に捉えられた黄褐色火山灰層から採取し、分析を委託した。田野畠村内では十和田系火山灰の堆積、特に十和田中標火山灰（To-cu）が見つかっており、今後本遺跡データが遺跡間対比に有効となろう。

人骨鑑定は田野畠村内の近世墓出土資料としては初めての事例である。本遺跡からは近世関連資料が多数発見され、それらとの関連性を探る上で、人骨の分析・鑑定は欠かせないものであった。

黒曜石は沼袋遺跡周辺では産出しない。遠隔地産石材である黒曜石の産地同定をすることで、沼袋遺跡の交易領域を考察することを目的とした。今回の調査で出土した黒曜石製石器はわずか2点のみで、いずれも1号捨て場内から出土していることから縄文時代後期前葉の可能性が高い。（米田）

2 沼袋遺跡土壤理化学分析業務委託報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

沼袋遺跡は、岩手県下閉伊郡田野畠村沼袋に所在し、普代川右岸の河岸段丘面上に立地する。本遺跡の発掘調査の結果、縄文時代後期前葉の竪穴住居跡や埋設土器、捨て場、土坑、近世の掘立柱建物跡や墓等の遺構が検出されており、縄文時代後期前葉～晩期の土器や石器、近世～近代の陶磁器等の遺物が確認されている。

なお、上述した縄文時代後期前葉と考えられる埋設土器は、これまでの考古学的成果及び調査所見から骨蔵器の可能性が指摘されている。そこで、本報告では、当埋設土器の用途、特に骨蔵器の可能性の検証を目的とし、土器内土壤中のリン酸、カルシウム含量に着目し、検討する。

(1) 試料

試料は、洪沢砂疊層、黒色土の再堆積層が堆積する調査区東側から検出されたC区1号埋設土器内の土壤1点（以下、埋設土器内土壤）と、比較対照試料として当埋設土器が出土した地点より5m離れた地点の縄文時代後期前葉の遺構検出面（地山）とされるC区第1黑色帶（C区7層）より採取された土壤1点の計2点である。

なお、これらの試料は、調査地点の地下水位が高いことから湿性な土壤となっており、土壤中のリン酸の移動、拡散が懸念され、また、一括採取された土壤ではリン酸の濃集・局在性や偏在性を見出

することは困難と判断された。そのため、分析試料は、各試料より無作為に5回採取した土壤を用い、それぞれ覆土1~5、対照1~5とし扱い、上記した問題を緩和することとした。また、植物遺体の供給量の目安を得るため、覆土及び対照試料より各1点（覆土1、対照1）を対象とし、土壤の腐植含量の調査を行い、参考値を得ることとした。

(2) 分析方法

1) 腐植含量

試料を風乾後、軽く粉碎して2.00mmの篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、5時間）により測定する。風乾細土試料の一部を粉碎し、0.5mmのふるいを全通させる（粉碎土試料）。粉碎土試料0.100~0.500gを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第1鉄アソニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org-C乾土%）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量（%）を算出する。

2) リン酸・カルシウム含量

粉碎土試料1.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸（HNO₃）約5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（HClO₄）約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに容積してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P₂O₅）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P₂O₅mg/g）とカルシウム含量（CaOmg/g）を求める。

(3) 結果

表1. 土壤理化分析結果

試料名	土性	土色	試料番号	腐植含量(%)	P ₂ O ₅ (mg/g)	CaO(mg/g)
C区 1号埋設土器内	LiC	10YR1.7/1 黒	覆土1	7.53	2.88	5.09
			覆土2	—	3.05	5.49
			覆土3	—	2.95	6.20
			覆土4	—	2.72	5.00
			覆土5	—	3.00	5.87
			平均値	—	2.92	5.53
			標準偏差	—	0.13	0.51
C区 第1黒色層	LiC	10YR1.7/1 黒	対照1	9.15	3.10	4.35
			対照2	—	2.63	3.85
			対照3	—	3.00	4.64
			対照4	—	2.44	3.68
			対照5	—	3.15	4.39
			平均値	—	2.86	4.18
			標準偏差	—	0.31	0.40

注。(1) 土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修、1967）による。

(2) 土性：土壤調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編、1984）の野外土性による。

LiC…蛭壌土（粘土25~45%、シルト0~45%、砂10~55%）

結果を表1に示す。埋設土器内土壤および第1黒色帯は、いずれも粘質土であり、国際法区分における野外土性（ペドロジスト懇談会編、1984）はLiC（軽埴土）に分類される。両者は土色も10YR1.7/1と黒色味が強く、腐植集積量が多いことが伺える。覆土1、対照1の腐植含量は埋設土器内土壤は7.53%、第1黒色層は9.15%を示し、第1黒色帯においてやや有機物量が多い傾向が認められている。

リン酸含量は、埋設土器内土壤は2.72~3.05P₂O₅mg/g、第1黒色層は2.44~3.15P₂O₅mg/gの値となっており、両試料間のリン酸含量に特徴的な違いは見られない。一方、カルシウム含量は、埋設土器内土壤は5.00~6.20CaOmg/g、第1黒色層は3.68~4.64CaOmg/gと埋設土器内土壤において僅かに高い傾向が認められる。ただし、土壤中のカルシウム含量の変動幅は比較的大きいこともあり、本分析結果では有意差を指摘することはできない。

(4) 考察

一般的に土壤中に含まれるリン酸量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例があるが（Bowen,1983、Bolt·Bruggenwert,1980、川崎ほか,1991、天野ほか,1991）、これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約3.0P₂O₅mg/g程度である。また、人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では5P₂O₅mg/g（川崎ほか,1991）という報告例があり、当社におけるこれまでの分析調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壤では6.0P₂O₅mg/gを越える場合が多い。

C区1号埋設土器内の土壤について、主にリン酸含量を中心に調査を行った結果、天然賦存量の上限に近いリン酸が検出されたが、腐植含量が高いことから、埋設土器内に内容物の痕跡を示唆するような高いリン酸含量にあると指摘することはできない。さらに、埋設土器内土壤では、比較対照とした第1黒色帯と比べてリン酸の変動幅が小さく（標準偏差は、土器内土壤で0.13、第1黒色帯で0.31）、リン酸が偏在している傾向も認められないことから、局所的にリン酸が濃集している可能性も低いと判断される。このことから、埋設土器内の土壤に遺体成分の痕跡を見出すことは出来ず、骨蔵器とされる用途については本分析結果からは支持することはできない。なお、本分析結果では遺体成分の痕跡を見出すことはできなかったが、調査所見では埋設土器底面に由来不明の白色粒子の存在なども示唆されている。今後は、このような物質を含めた微細遺物の分析を合せて行うことで、総合的に検証できると期待される。

引用文献

- Bowen,H.J.M. 1979 Environmental Chemistry of Elements. [浅見 勝男・茅野 充男(訳)] 1983 環境無機化学、元素の循環と生化学 博友社 297p.]
- Bolt,G.H. & Bruggenwert,M.G.M. 1976 SOILCHEMISTRY. [岩田 道午・三輪 露太郎・井上 隆弘・陽 捷行(訳)] 1980 土壤の化学.学会出版センター 309p.]
- 天野 洋司・大田 健・草場 敬・中井 信 1991 中部日本以北の土壤型別蓄積リンの形態別計量.土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発.農林水産省農林水産技術会議事務局編 28-36.
- 川崎 弘・古田 清・井上 沢久 1991 九州地域の土壤型別蓄積リンの形態別計量.土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発.農林水産省農林水産技術会議事務局編 23-27.
- 土壤標準分析・測定法委員会編 1986 土壤標準分析・測定法.博友社 354p.]
- 土壤養分測定法委員会編 1981 土壤養分分析法.養賢堂 440p.]
- 農林省農林水産技術会議事務局監修 1967 新版標準土色帖.
- ペドロジスト懇談会編 1984 土壤調査ハンドブック.博友社 156p.]

3 沼袋遺跡の火山灰屈折率測定分析

株式会社古環境研究所

(1) 測定分析の目的

東北地方岩手県域の北上山地から三陸海岸部にかけて分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、焼石、鳴子、岩手、秋田駒ヶ岳、十和田など東北地方の火山のほか、始良、阿蘇、洞爺など九州地方、中国地方、北海道など遠方の火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が数多く挟在されている。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を求めることで、地形の形成年代や地層の堆積年代、さらに遺構の構築年代や遺物包含層の形成年代などを知ることができるようになっている。そこで火山灰層が認められた田野畠村沼袋遺跡においても、発掘調査担当者により採取されたテフラ試料を対象に、屈折率測定により指標テフラとの同定のための資料の収集が試みられた。

(2) 屈折率測定

1) 測定試料と測定方法

分析測定試料を対象として、温度変化型屈折率測定装置（京都フィッシュン・トラック社製、RIMS86）により、屈折率測定を行った。

2) 測定結果

試料に含まれる火山ガラスに含まれる火山ガラスの屈折率（n）は、1.510-1.516である。この値は、先に分析が行われている田野畠村和野I遺跡で採取された試料中に含まれる火山ガラスの屈折率（n：1.509-1.514）と非常によく似ている。その一方で、この値は東北地方において歴史時代の重要な指標テフラとして盛んに利用されている十和田a火山灰（To-a, 915年AD, 大池, 1972, 町田ほか, 1981, 町田・新井, 1992, 2003）に含まれる火山ガラスの屈折率（n：1.500-1.508, 町田・新井, 2003）や、東北地方中部以北で後期旧石器時代の指標として利用されている十和田八戸テフラ（To-H, 約1.5万年前, 中川ほか, 1972, Hayakawa, 1995, 町田・新井, 2003）のそれ（n：1.505-1.509, 町田・新井, 2003）と比較して有意に高い。

以上のことから、試料が採取されたテフラ層が第一次堆積層であれば、約6,000年前に十和田火山から噴出したと推定されている十和田中根テフラ（To-Cu, 大池ほか, 1966, 早川, 1983）の可能性がもっとも高いと考えられる。

文献

- 早川由紀夫 1983 十和田火山中根テフラ層の分布、粒度組成、年代、火山、第2集、28 p.263-273.
- Hayakawa, Y. 1985 Pyroclastic geology of Towada volcano. Bull. Earthq. Res. Inst. Univ. Tokyo, 60 p.507-592.
- 町田 淳・新井房夫 1992 火山灰アトラス、東京大学出版会 276p.
- 町田 淳・新井房夫 2003 新編火山灰アトラス、東京大学出版会 336p.
- 町田 淳・新井房夫・森脇 広 1981 日本海を渡ってきたテフラ、科学、51 p.562-569.
- 中川久夫・中馬教充・石田琢二・松山 力・七崎 修 1972 十和田火山発達史概要、岩井淳一教授記念論文集 p.7-17.
- 大池昭一 1972 十和田火山東麓における完新世テフラの編年、第四紀研究、11 p.232-233.
- 大池昭一・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之 1966 馬鹿川中・下流沿岸の段丘と火山灰、第四紀研究、5 p.29-35.

4 岩手県下閉伊郡田野畠村沼袋遺跡出土の近世人骨

瀧川 渉

東北大学大学院医学系研究科人体構造学分野

(1) はじめに

田野畠村沼袋遺跡は縄文時代後期と近世の文化層を含む複合遺跡であるが、このうち近世に属すると考えられる土坑から人骨が1個体分出土した。当遺跡の表土からは、畠の整備時に移動した近世墓碑が確認されている。このうち2基の墓碑と当遺構の出土遺物の年代が対応すると推測され、18世紀後半に該当する可能性が高いという。本稿は、その近世人骨の形態人類学・肉眼解剖学的鑑定報告である。

(2) 遺存状況

頭蓋：後頭骨と左右の側頭骨が遺存するが、脳頭蓋全体の接合復元は不能である。顎面では、上顎骨の歯槽周辺部をとどめる程度で、下顎骨は下顎枝が左右とも破損する。

体幹：ほとんどの部位が消失しており、椎骨のうち環椎と軸椎の歯突起周辺の他は、腰椎の椎弓が確認される。肋骨は断片が数点認められる程度。

上肢：上肢帯では左肩甲骨の関節窩と肩峰基部を残すのみ。上腕骨は左右とも遺存するが、骨幹部のみにとどまる。橈骨は左の近位端、尺骨は両側の近位端がそれぞれ確認される。手の骨は数点の断片を残すのみで同定は困難である。

下肢：寛骨は左右とも認められるが、どちらも寛骨臼と大坐骨切痕の周辺だけが確認される。大腿骨は右がほぼ完存するが、左の近位部は欠損している。膝蓋骨は左のみ残存。脛骨は左右とも遠位端を欠く。腓骨は左右とも骨幹部のみを残す。足の骨は踵骨隆起の一部が確認されるにすぎない。

本個体の歯式は次の通りである。

2	2-3	2	2	3		2-3		3	3	2	2	2	3	3	3
×	M2	M1	P2	P1	C	△	I1	11	12	C	P1	P2	M1	M2	M3
△	M2	M1	P2	P1	C	△	△	△	△	C	P1	P2	M1	M2	M3
2-3	2-3	2	2	2				2	2	2	3	2-3	3-4		

[凡例] △：歯槽開放 ×：歯槽破損・歯冠も消失

各歯種の上ないし下に示された数字は、Brocaによる咬耗度を示す。

0：全く咬耗が見られない。

1：エナメル質に咬耗が認められるが、咬頬の形状は明瞭。

2：象牙質がところどころ露出している。

3：咬合面においてエナメル質が全体に磨耗し、象牙質が全面に露出する。

4：歯根近くまで磨耗が進行する。

(3) 年齢推定

第3大臼歯を含む永久歯が全て萌出している上、歯冠がBrocaの咬耗度でいずれも2度から3度にまで達していること、わずかに後頭部にうかがえるラムダ縫合が内板においてほとんど閉塞していることから、熟年期（40～60歳）に相当するものと推測される。

(4) 性 別 判 定

寛骨における大坐骨切痕の角度が鋭角を呈すること、側頭骨の乳様突起が拇指大でほぼ鉛直方向に向いていること、上腕骨や大腿骨などの筋付着部が発達していることから、男性の可能性が高いと考えられる。

(5) 身 長 推 定

本個体を男性と判定した場合、藤井の身長推定式（藤井1960）を利用して右大腿骨の最大長から計算すれば153.7cm、自然位全長から計算すれば154.4cmとなる。いずれにしても、関東や西日本における江戸時代男性の平均身長（関東：155～157cm、西日本：159cm）を下回る結果である。

(6) 各 部 の 特 徴

頭蓋：側頭部の乳様突起が拇指大を呈し鉛直方向を向くが、乳突上稜の発達は弱い。後頭骨の外後頭隆起も発達が弱い。また、左の舌下神経管では二分化が認められる。

四肢骨：上腕骨において三角筋粗面の隆起が観察される。大腿骨の粗線は内側・外側唇とも明瞭だが、骨幹中央部の断面示数はさほど強くない。一方、骨幹上部の扁平性はかなり強い。脛骨ではヒラメ筋線が著しく膨隆する状況が見られ、骨幹部の扁平性が強い（表1）。

歯：上・下顎における左の中・側切歯が密接に咬合せず、上下の咬合面の間に間隙が形成されており、偏磨耗の様相を呈している（写真5）。

(7) ま と め

沼袋遺跡の近世土坑から出土した人骨は、熟年期の男性の可能性が高い。この性別判定が妥当であれば、生前の推定身長は154cm前後で、当時としては平均よりやや低身長であったと考えられる。また、左の中・側切歯に見られる偏磨耗は、生前にある特定の物を口にくわえる習慣を永らく続けていた可能性を示唆させる。

参考文献

藤井 明 1960 四肢長骨の長さと身長の関係について、順天堂大学体育学部紀要, 3 p.49-61.

表1 四肢骨計測値

上腕骨	r.t.	l.t.
5.中央最大径	—	22.5
6.中央最小径	—	17
6/5.中央断面示数	—	75.6
7a.中央周	—	66
7.最小周	—	63
大腿骨	r.t.	l.t.
1.最大長	400	—
2.自然位全長	396	—
6.中央矢状径	27.5	27
7.中央横径	(26)	26.5
6/7.中央断面示数	(105.8)	101.9
8.中央周	—	85
9.骨体上横径	31	—
10.骨体上矢状径	22.5	—
10/9.骨体上断面示数	72.6	—
9.骨体上最大径	31	30
10.骨体上最小径	22	20.5
10/9.骨体上断面示数	71.0	68.3
脛骨	r.t.	l.t.
8.中央最大矢状径	29.5	30.5
9.中央横径	20	19.5
9/8.中央断面示数	67.8	63.9
8a.栄養孔位最大径	31.5	—
9a.栄養孔位横径	21.5	22
9a/8a.栄養孔位断面示数	68.3	—
10.中央周	78	79
10a.栄養孔位周	85	—
10b.最小周	70	70
腓骨	r.t.	l.t.
2.中央最大径	15	—
3.中央最小径	11	—
4.中央周	42	—
3/2.中央断面示数	73.3	—

単位はmm(計測値)と% (示数)



写真1. 上肢骨(上腕骨・桡骨・尺骨・肩甲骨)



写真2. 下肢骨(寛骨・大腿骨・脛骨・腓骨)



写真3. 頭蓋(後頭骨・側頭骨・上顎・下顎)



写真4. 上顎・下顎の歯冠咬合面



写真5. 咬合時における左切歯の偏磨耗(矢印)

5 沼袋遺跡黒曜石産地分析業務委託報告

(1) 分析試料の調整と実験条件

(株)第四紀 地質研究所

分析試料の調整

分析試料は黒曜石の岩体では岩体のなかで5個所程度選択し、1個所で5~10試料を採取した。分析結果は岩体の中で選択した各個所について1分析値で代表させた。例えば、西鮮屋の岩体では孔道内の4個所を4分析値で表示した。岩体が貧弱である場合には1岩体の中で10個以上を採取し、試料数分の分析結果を表示した。岩体が消滅しているものや、明確な岩体としての露頭が認められないものや河床の中の転石あるいは斜面に露出する堆積した黒曜石は10個以上採取し、試料数分の分析結果を表示した。

分析にあたっては、露頭より採取した黒曜石を打ちかき、比較的平滑な面を分析面とする未整形試料を作成した。

ガラス質安山岩は表面が風化しており、表面には鉄分が付着して、岩石本来の分析値を反映することが出来ないので、ダイヤモンドカッターで切断し、剥片を作成し、新鮮な面を分析した。分析した結果は黒曜石と同様に酸化物濃度で表示した。

実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置（日本電子製J SX-3200）で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法(FP法)による自動定量計算システムが採用されており、6C~92Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源(最大30kV、4mA)の採用で微量試料～最大290mm ϕ ×80mmHまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクFP法でおこなった。FP法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

分析にあたっては、露頭より採取した黒曜石を打ちかき、比較的平滑な面を分析面とする未整形試料をX線照射範囲が約15mm ϕ の試料台に直接のせ分析した。実験条件はバルクFP法(スタンダードレス方式)、分析雰囲気=真空、X線管ターゲット素材=Rh、加速電圧=30kV、管電流=自動制御、分析時間=200秒(有効分析時間)である。また、分析にあたっては標準サンプルを分析し、キャリブレーションを行い、装置の正常さを保って行った。

分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, P, Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は黒曜石の含水量=0と仮定し、酸化物の重量%を100%にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量%は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量%では小数点以下3~4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

岩石の化学組成を構成する主要元素と微量元素の中から、岩石の骨格となるSiとAl、有色鉱物の主要元素であるFe, Ca、無色鉱物の主要元素であるNaとKの関連からK、副成分鉱物のイルメナイトからFeとTi、微量元素ではRbとSrの各元素組み合わせにより黒曜石を分類する図を作製した(周藤他2002)。

基本的には主要元素の各元素が重複しない組み合わせとしたが、Fe, Mn, Tiは鉄質関連として相関性の高い元素であり、TiはFeとMnの2元素との対比となっている。主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量%）でSiO₂-Al₂O₃-Fe₂O₃-TiO₂-K₂O-CaO, 積分強度でRb-SrOの4組の組み合わせで図を作成した。

(2) 分析結果

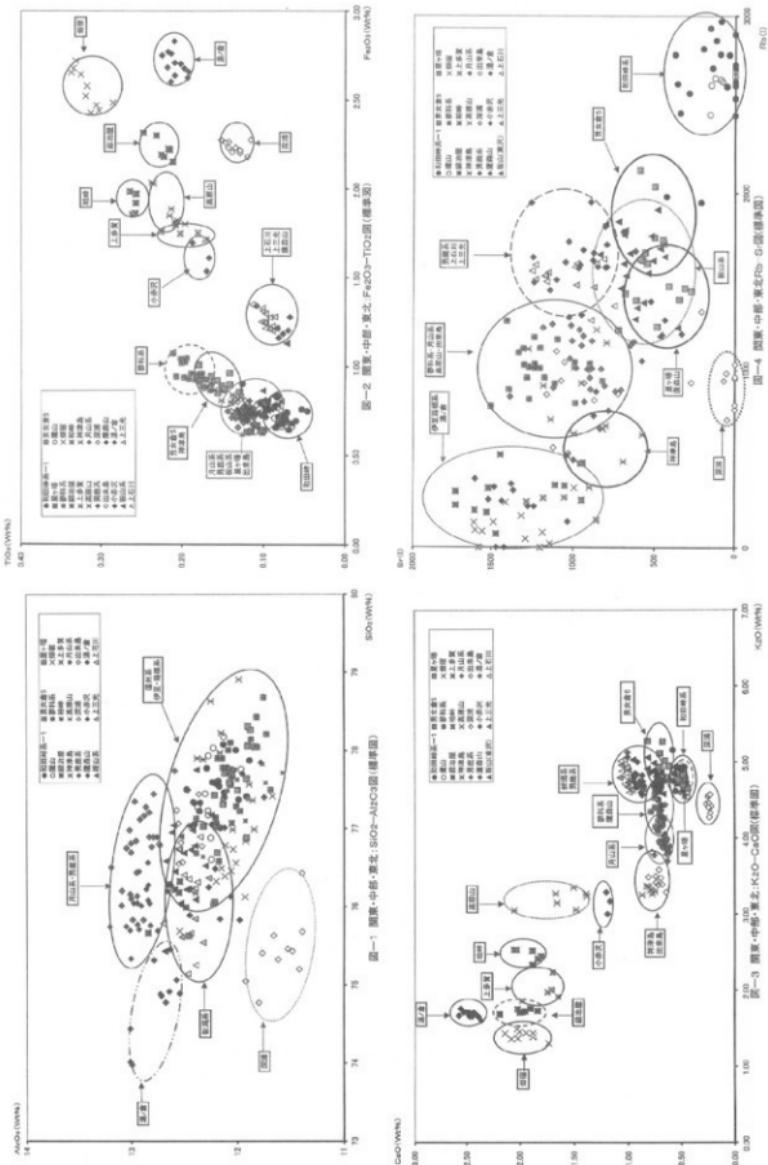
沼袋遺跡より出土した黒曜石遺物は第1表化学分析表の原産地欄に示すように2個の分析のうち、沼袋-1は青森県の深浦、沼袋-2は宮城県の湯ノ倉である。

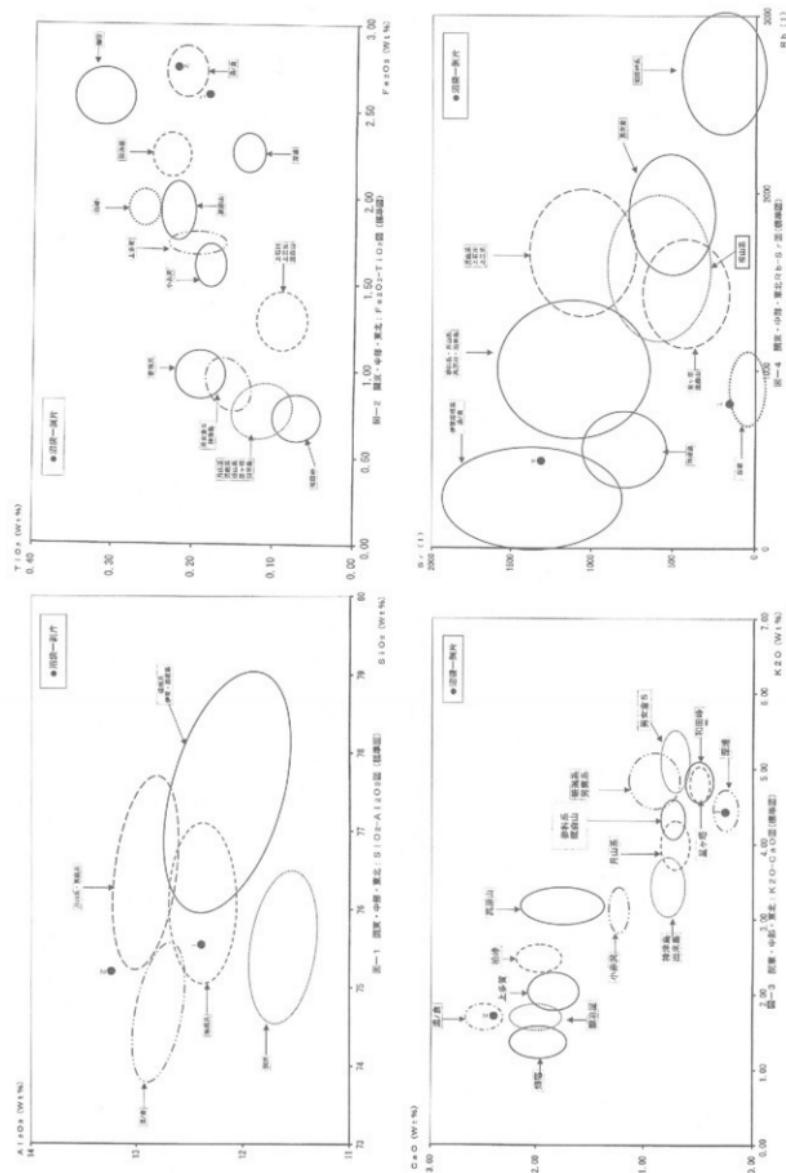
引用文献

周藤賢治・小山内康人 2002 共立出版、記載岩石学上 p5-20.

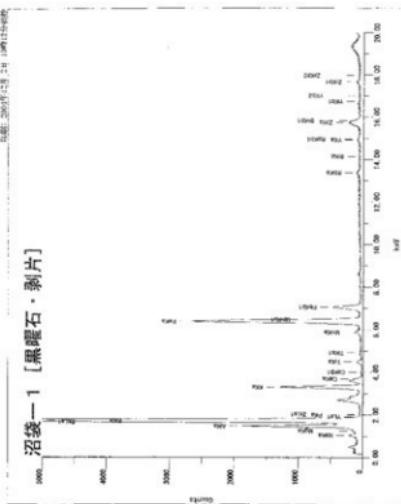
第1表 化学分析表

試料名	沼袋-1	沼袋-2
Na ₂ O	4.4226	4.2935
MgO	0.0000	0.0586
Al ₂ O ₃	12.3940	13.2332
SiO ₂	75.5487	75.2066
P ₂ O ₅	0.0000	0.0000
K ₂ O	4.4271	1.7153
CaO	0.2535	2.3889
TiO ₂	0.1823	0.2211
MnO	0.0694	0.0832
Fe ₂ O ₃	2.5953	2.7534
Rb ₂ O	0.0121	0.0075
SrO	0.0024	0.0204
Y ₂ O ₃	0.0096	0.0000
ZrO ₂	0.0830	0.0182
Total	1000.0000	99.99990.0000
Rb(1)	815	492
Sr(1)	158	1312
原産地	深浦	湯ノ倉
備考	縄文後期前葉・剥片 1号捨て場出土	縄文後期前葉・碎片 1号捨て場出土



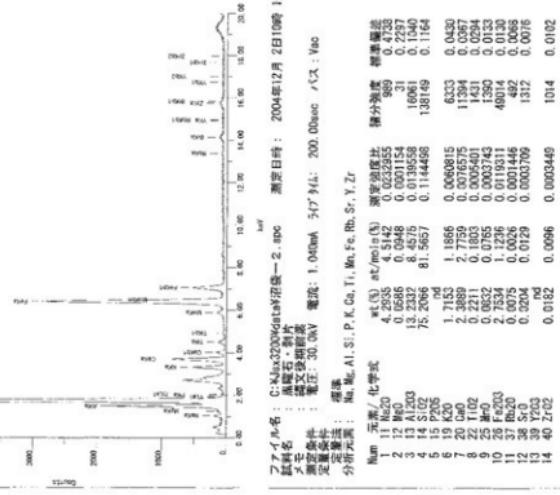


沼袋—1 [黒曜石・剥片]



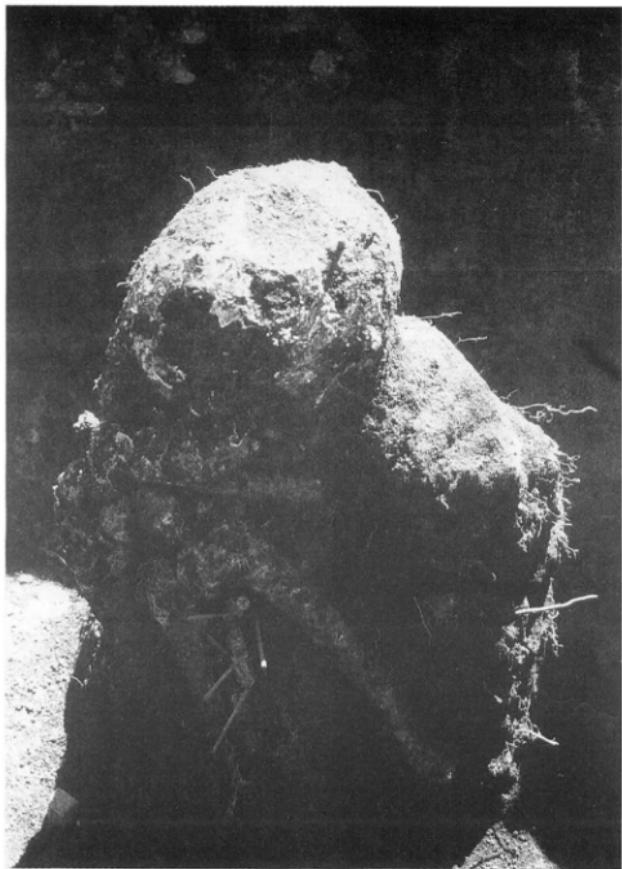
元素/化学式	wt. (%)	at.% (S)	測定強度比	積分強度	積分強度比	積分強度	積分強度比	積分強度
Na, Mg, Al, Si, P, K, Ca, Ti, Mn, Fe, Ba, Sr, Y, Zr								
11 Na2O	4.4226	4.6879	0.053454/7	154.48	0.0712	134.48	0.3261	
12 MgO	12.3940	7.9659	0.0290639	143.06	0.0824	143.06		
13 SiO ₂	75.5487	82.6070	0.2577103	143.06	0.0824	13 A 203		
14 K ₂ O	3.14203	3.0875	0.0244622	165.78	0.0901	4 14 S 02		
15 CaO	4.42717	3.0875	0.0244622	165.78	0.0901	5 15 T 205		
16 Cd	0.25355	0.2669	0.0107453	165.78	0.0901	7 20 Cd		
17 T 102	0.18233	1.489	0.009744	111.97	0.0269	8 22 T 102		
18 MnO	0.0694	0.0643	0.006852	111.74	0.0953	9 25 Mn		
19 Fe 203	2.5983	1.0877	0.0246955	482.24	0.0691	10 26 F 203		
20 Ti 2020	0.0121	0.0043	0.0005192	81.15	0.0048	11 37 Rb20		
21 S 120	0.0224	0.0115	0.000965	158	0.0053	0.0725	0.0001446	492
22 S 130	0.0096	0.0028	0.0003779	591	0.0061	0.0204	0.0003700	1312
23 T 202	0.0820	0.0443	0.0034703	4707	0.0071	0.0182	0.0003449	1014
				14	0.0102			

沼袋—2 [黒曜石・剥片]



元素/化学式	wt. (%)	at.% (S)	測定強度比	積分強度	積分強度比	積分強度	積分強度比	積分強度
Na, Mg, Al, Si, P, K, Ca, Ti, Mn, Fe, Ba, Sr, Y, Zr								
11 Na2O	4.5162	4.5162	0.023295	8.4548	0.0948	0.036558	989	4738
12 MgO	0.0588	0.0588	0.001154	13.2332	0.1061	0.1061	31	2237
13 SiO ₂	75.2064	81.5667	0.1144498	75.2064	0.1164	138149		
14 K ₂ O	1.0430	1.0430	0.0005575	1.7153	1.1956	0.068815	6223	0.0430
15 CaO	1.7040	2.1819	0.0005575	1.7153	1.1956	0.068815	11394	0.0367
16 Cd	0.2389	0.2389	0.0005575	8.22	1.1912	0.0593	1592	0.0232
17 T 205	0.0632	0.0795	0.0003743	10.26	1.2754	0.1226	40114	0.0130
18 T 102	0.0725	0.0725	0.0003743	11.37	1.2754	0.1226	0.0001446	492
19 Rb ₂ O	0.0075	0.0075	0.0003743	12.38	1.38	0.1226	0.0003700	1312
20 SrO	0.0204	0.0204	0.0003743	13.39	1.38	0.1226	0.0003700	1312
21 Y ₂ O ₃	0.0016	0.0016	0.0003743	14.40	1.40	0.1226	0.0003700	1312

写 真 図 版



5号土坑出土人骨



B区調査風景（中央は1号捨て場範囲）



遺物集中部① No. 130土器出土状況



遺物集中部② No. 129土器出土状況



No. 410錐形土製品出土状況



No. 409錐形土製品出土状況

写真図版1 B区調査風景、1号捨て場遺物出土状況



B区 2号捨て場



B区 2号捨て場セクション

写真図版2 2号捨て場



C区西側 完掘



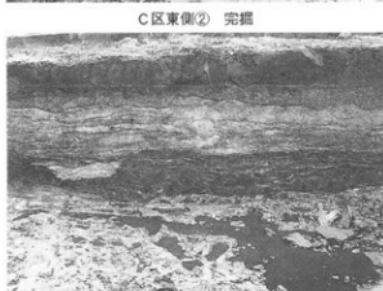
C区東側① 完掘



C区東側② 完掘



C区中央ベルト①（北端）



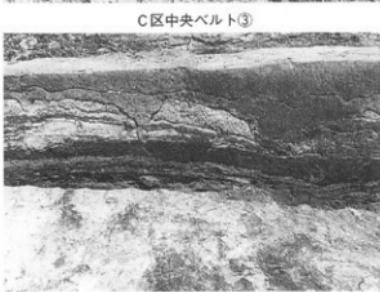
C区中央ベルト②



C区中央ベルト③



C区中央ベルト④



C区中央ベルト⑤

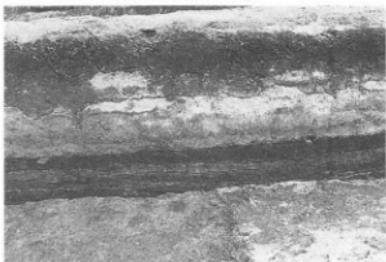
写真図版3 C区完掘、層序（1）



C区中央ベルト⑥



C区中央ベルト⑦



C区中央ベルト⑧



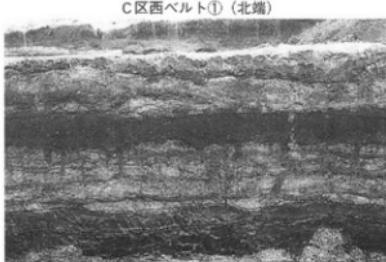
C区中央ベルト⑨（南端）



C区西ベルト①（北端）



C区西ベルト②



C区西ベルト③



C区西ベルト④

写真図版4 C区層序（2）



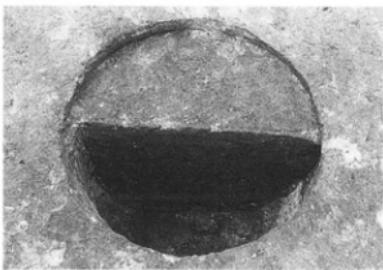
1号掘立柱建物跡



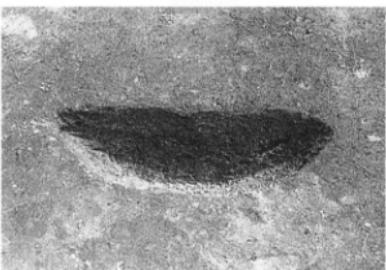
1号柱穴断面



6号柱穴断面



8号柱穴断面



9号柱穴断面

写真図版 5 1号掘立柱建物跡



2号掘立柱建物跡



11号柱穴断面



12号柱穴断面



13号柱穴断面

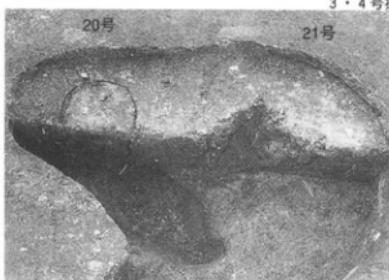


14号柱穴断面

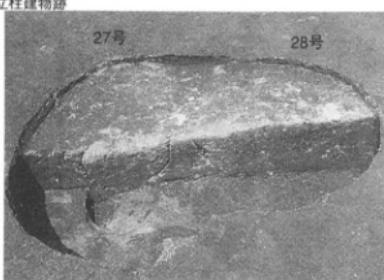
写真図版 6 2号掘立柱建物跡



3・4号掘立柱建物跡



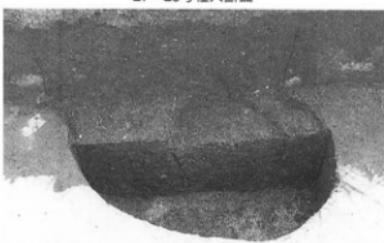
20・21号柱穴断面



27・28号柱穴断面



50号柱穴断面

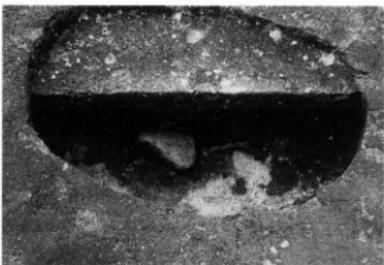


55号柱穴断面

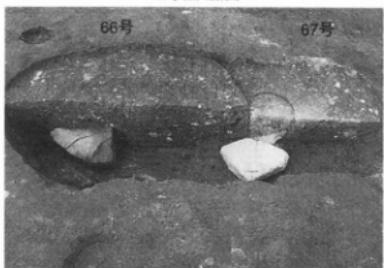
写真図版 7 3・4号掘立柱建物跡 (1)



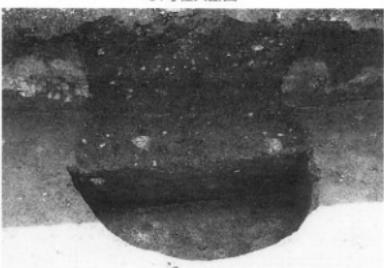
62号柱穴断面



64号柱穴断面



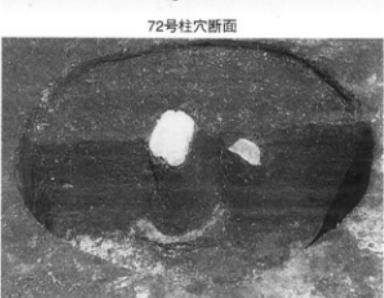
66・67号柱穴断面



72号柱穴断面



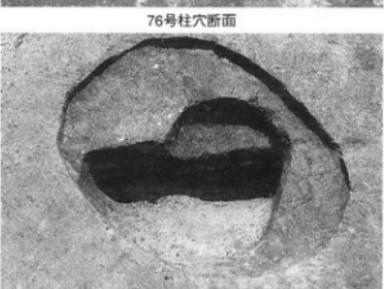
73号柱穴断面



76号柱穴断面



78号柱穴断面



79号柱穴断面

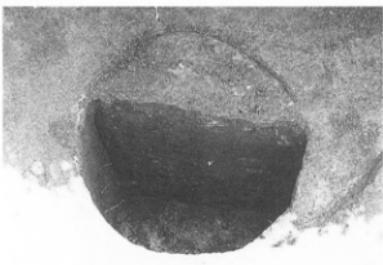
写真図版 8 3・4号据立柱建物跡 (2)



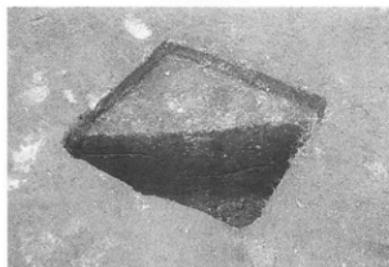
5・6号掘立柱建物跡



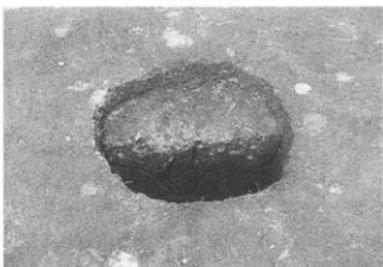
42号柱穴断面



53号柱穴断面

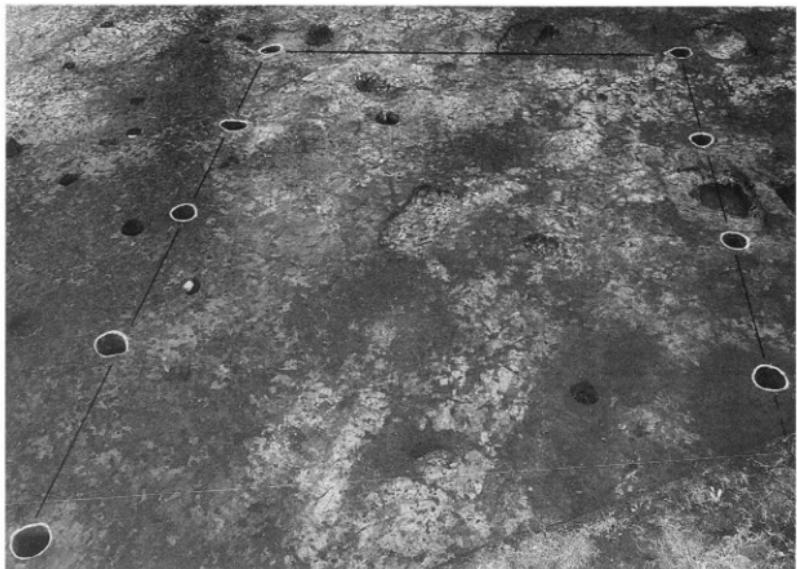


83号柱穴断面

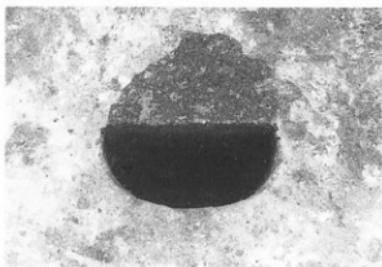


84号柱穴断面

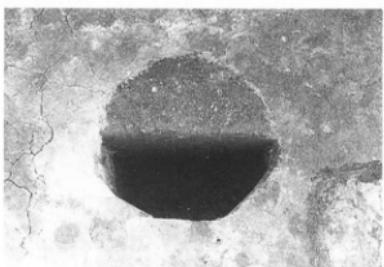
写真図版 9 5・6号掘立柱建物跡



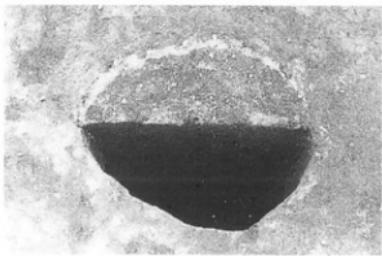
7号掘立柱建物跡



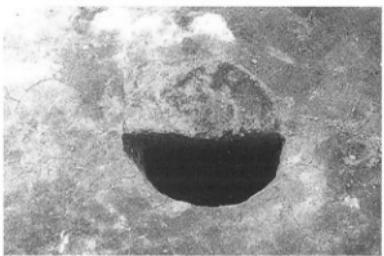
123号柱穴断面



130号柱穴断面

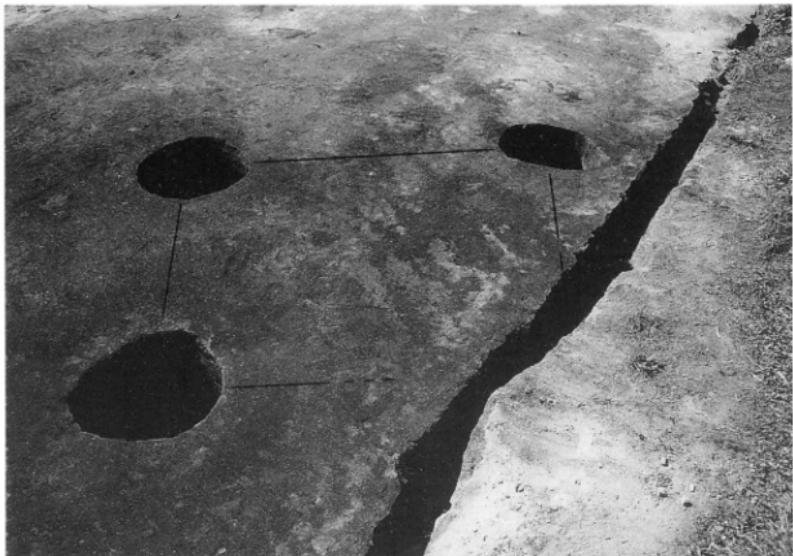


131号柱穴断面



132号柱穴断面

写真図版10 7号掘立柱建物跡



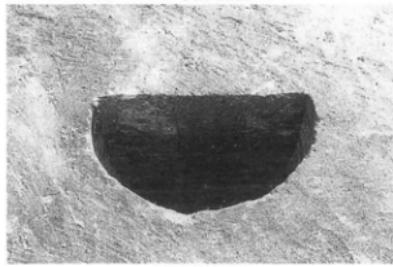
8号掘立柱建物跡



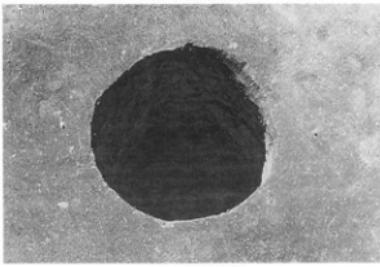
137号柱穴断面



139号柱穴完掘

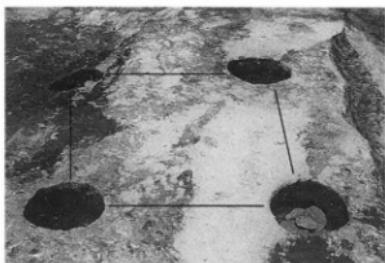


138号柱穴断面



138号柱穴完掘

写真図版11 8号掘立柱建物跡



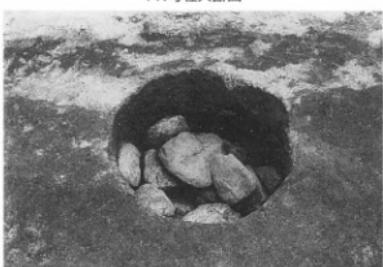
9号掘立柱建物跡



141号柱穴断面



140号柱穴断面



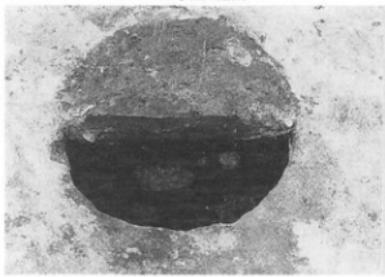
140号柱穴完掘



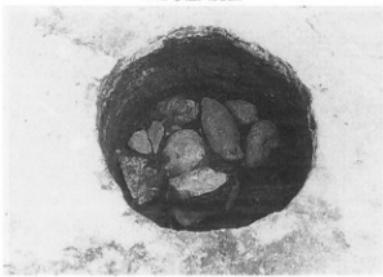
142号柱穴断面



142号柱穴完掘



143号柱穴断面



143号柱穴完掘

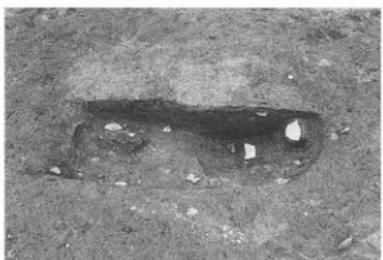
写真図版12 9号掘立柱建物跡



1号土坑断面



1号土坑完掘



2号土坑断面



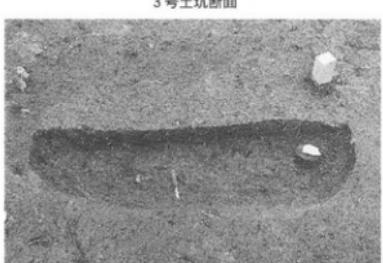
2号土坑完掘



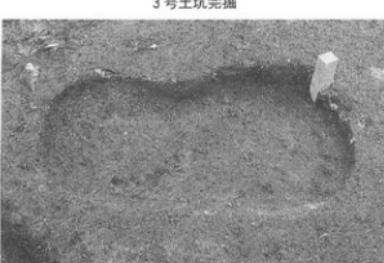
3号土坑断面



3号土坑完掘

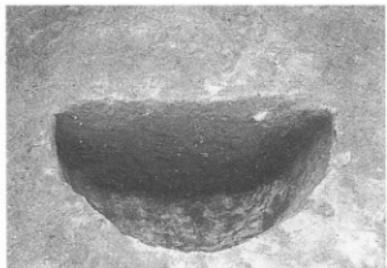


4号土坑断面



4号土坑完掘

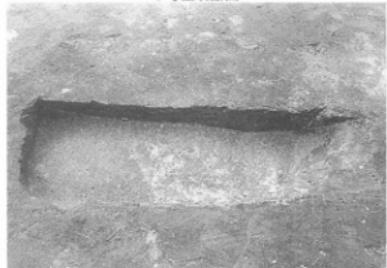
写真図版13 1～4号土坑



5号土坑断面



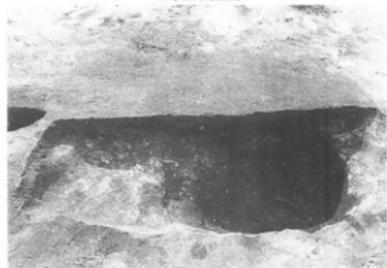
5号土坑人骨出土状况



6号土坑断面



6号土坑完掘



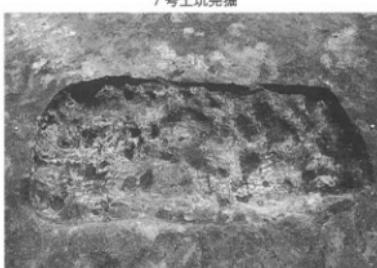
7号土坑断面



7号土坑完掘



8号土坑断面



8号土坑完掘

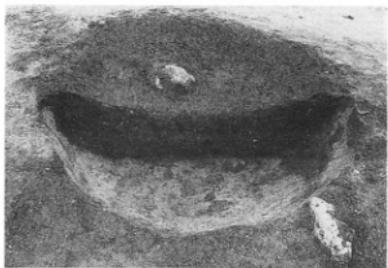
写真図版14 5~8号土坑



9号土坑断面



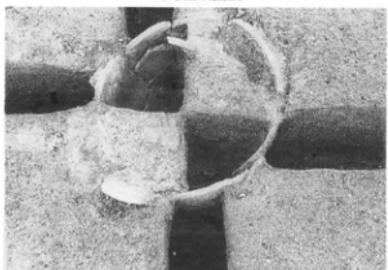
9号土坑完掘



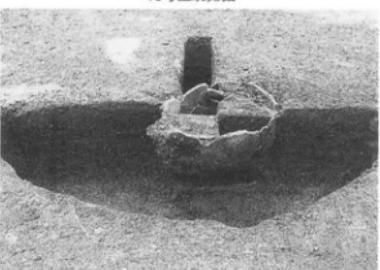
10号土坑断面



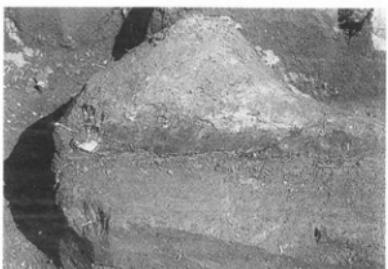
10号土坑完掘



1号埋設土器断面

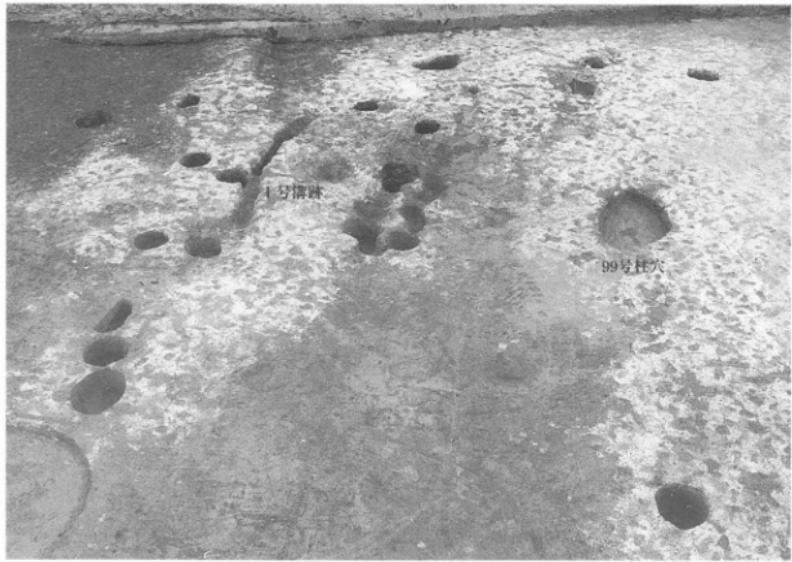


1号埋設土器出土状況

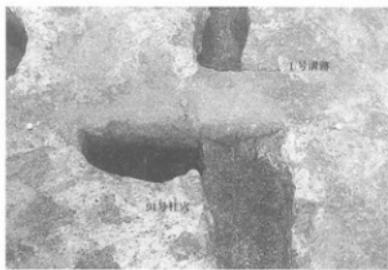


1号焼土断面

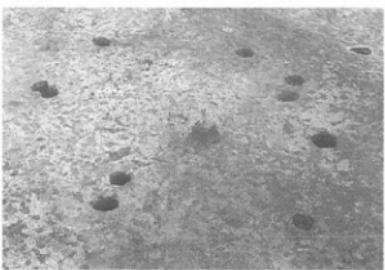
写真図版15 9・10号土坑、1号埋設土器、1号焼土



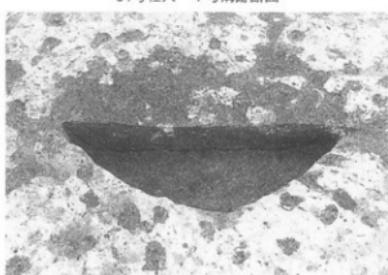
B区柱穴群①・1号溝跡



91号柱穴・1号溝跡断面



B区柱穴群②



99号柱穴断面



112号柱穴断面

写真図版16 B区柱穴群、1号溝跡



B区近世墓碑集中部①



B区近世墓碑集中部②



A区試掘トレンチ①

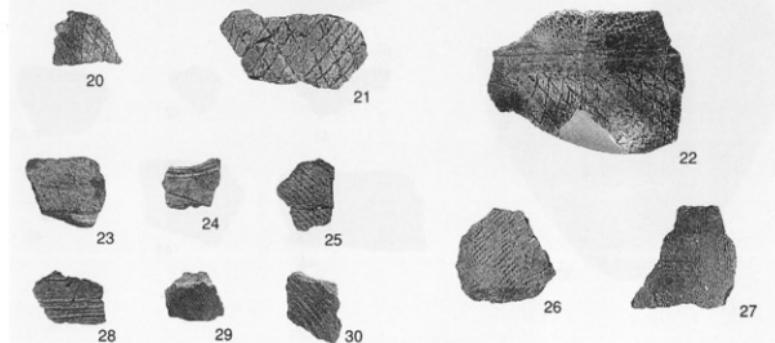
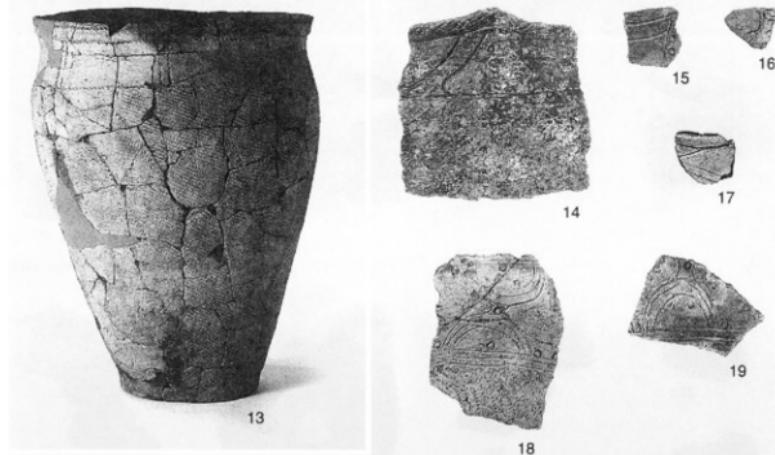
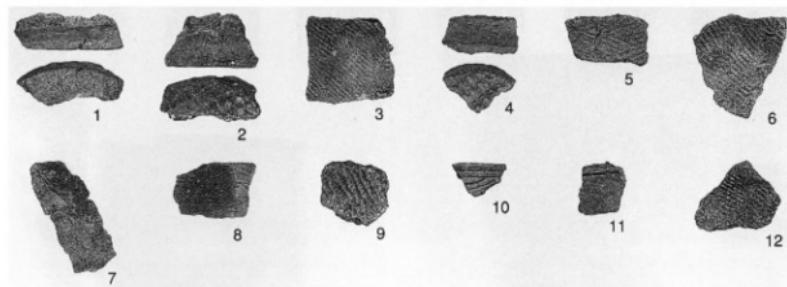


A区試掘トレンチ②

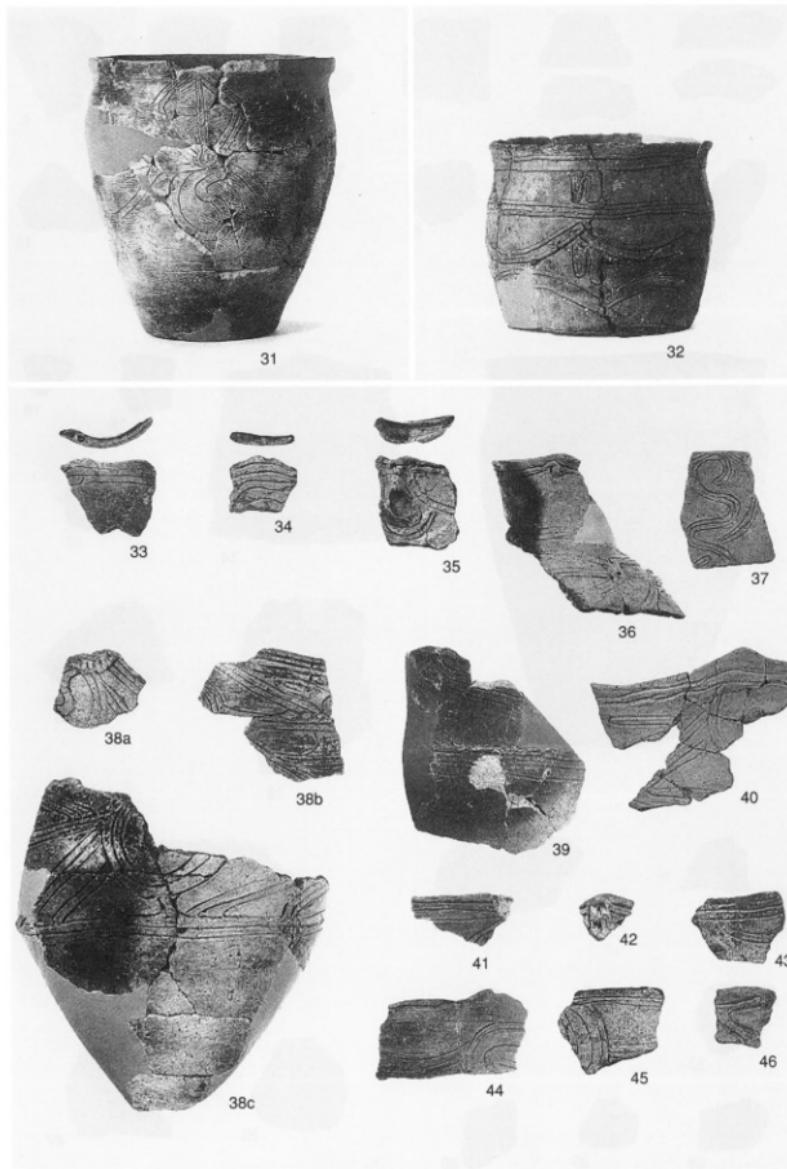


調査区周辺の供養碑（近世～近代）

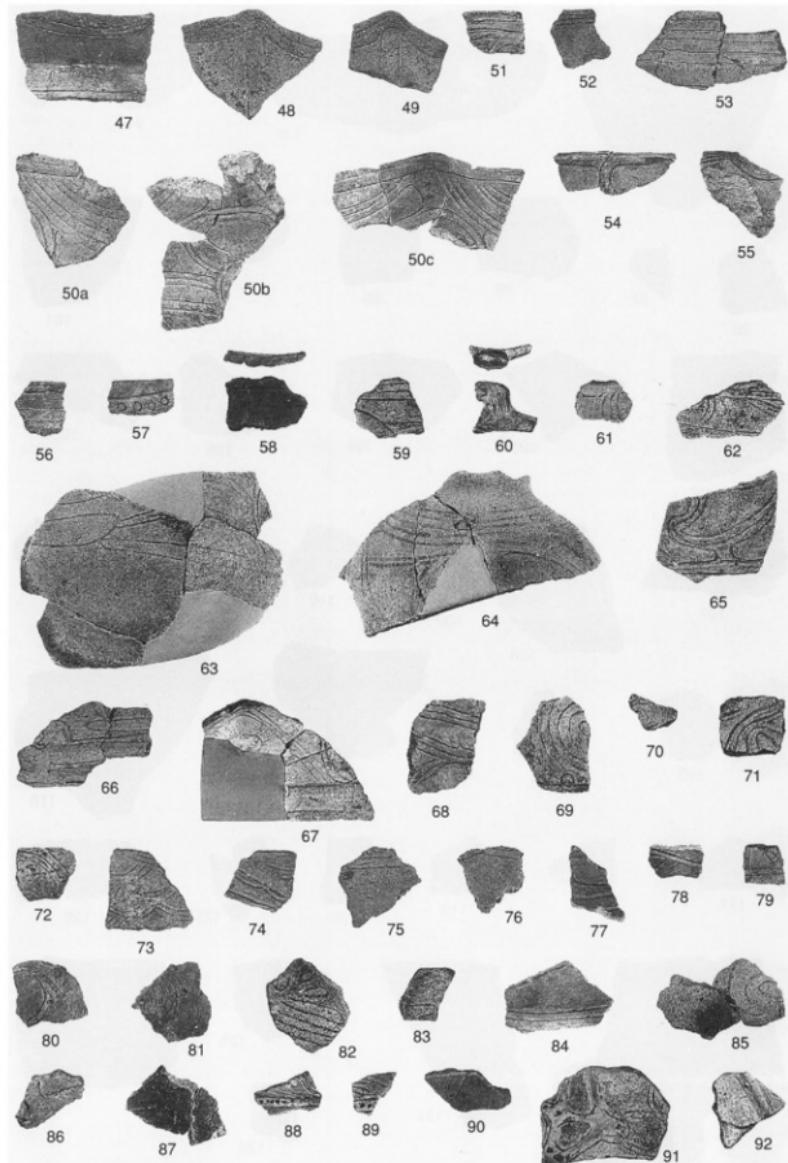
写真図版17 墓碑集中部、試掘、近世～近代の供養碑



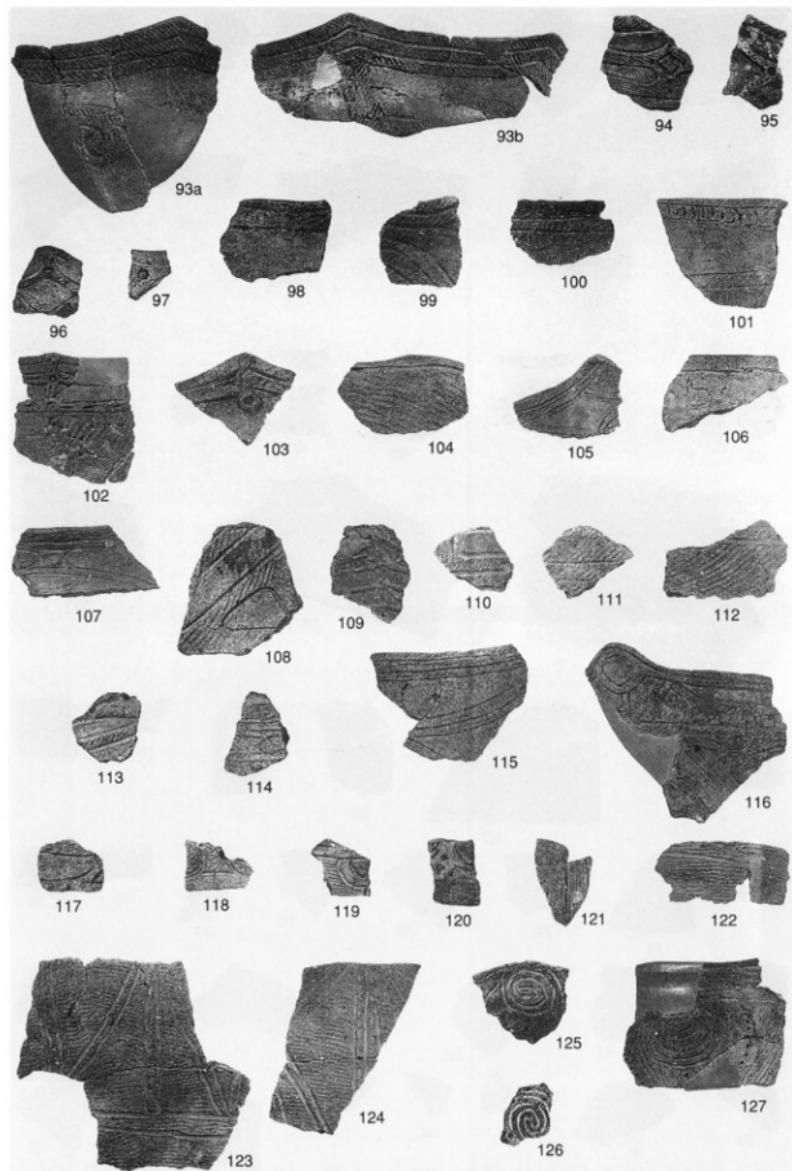
写真図版18 土器 (1)



写真図版19 土器 (2)



写真図版20 土器 (3)



写真図版21 土器 (4)



128



130



129



140



131



132



133



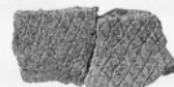
134



135



136



137

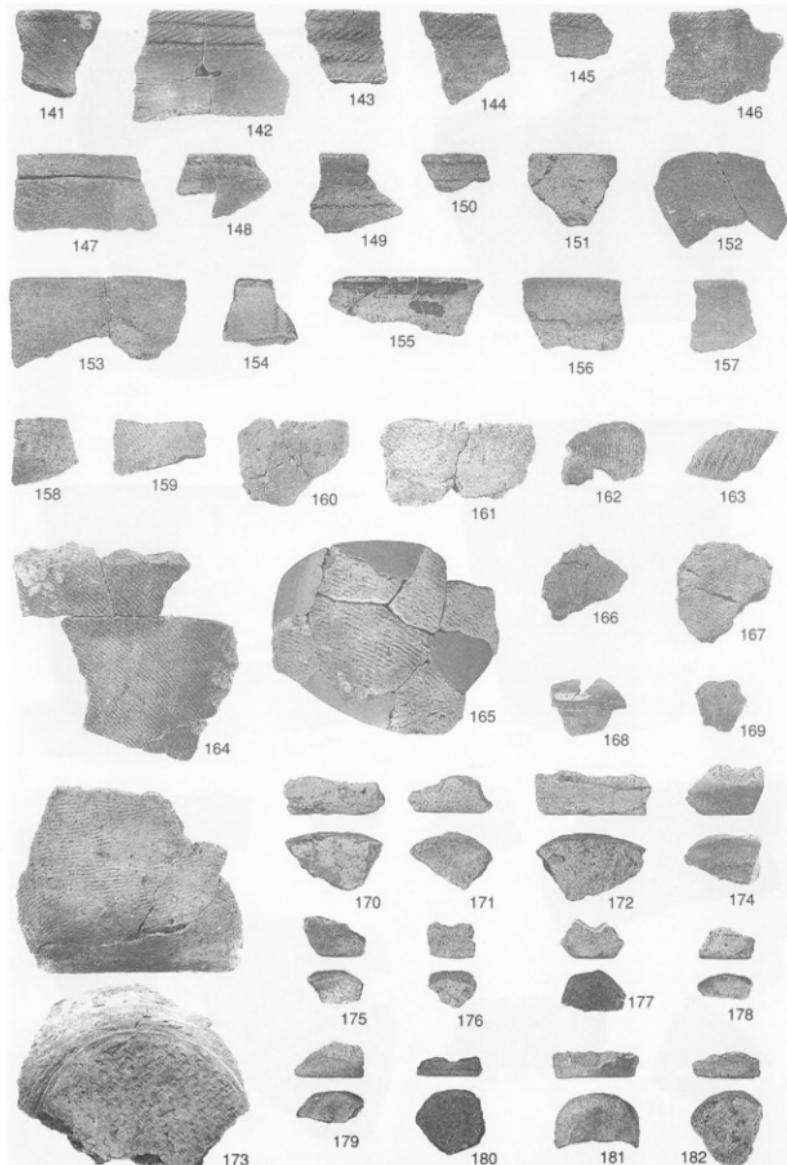


138

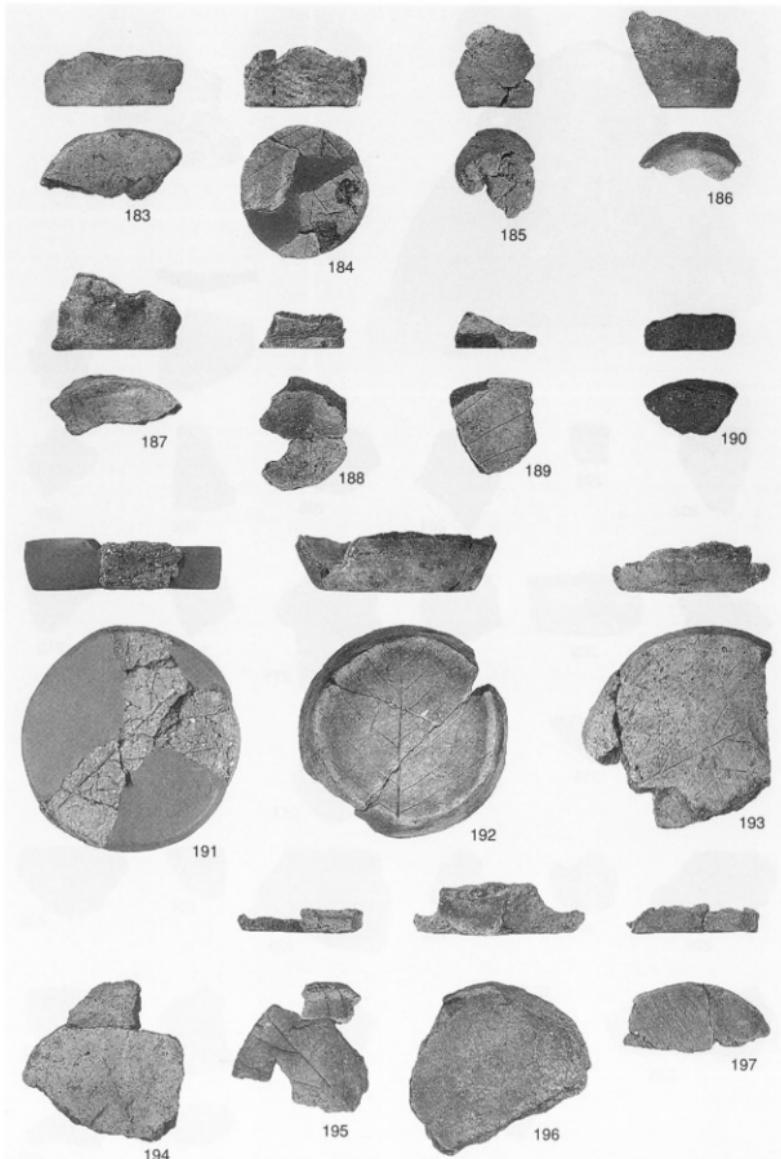


139

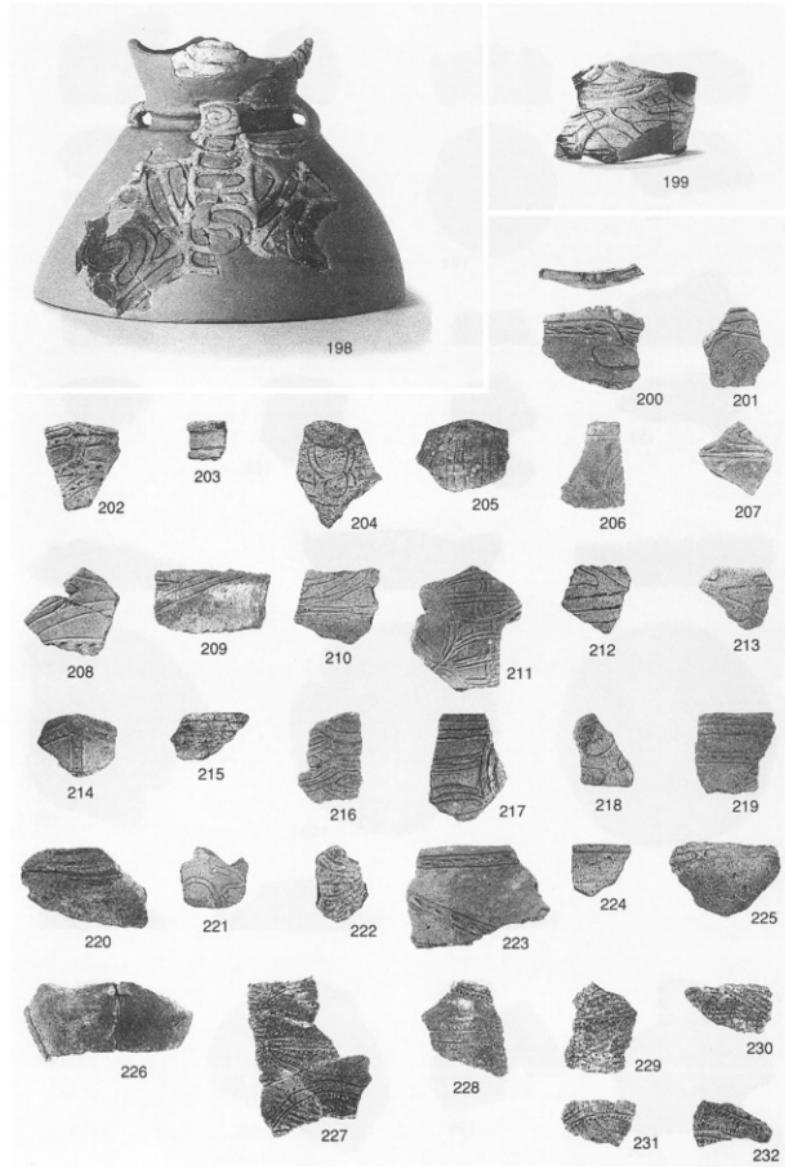
写真図版22 土器 (5)



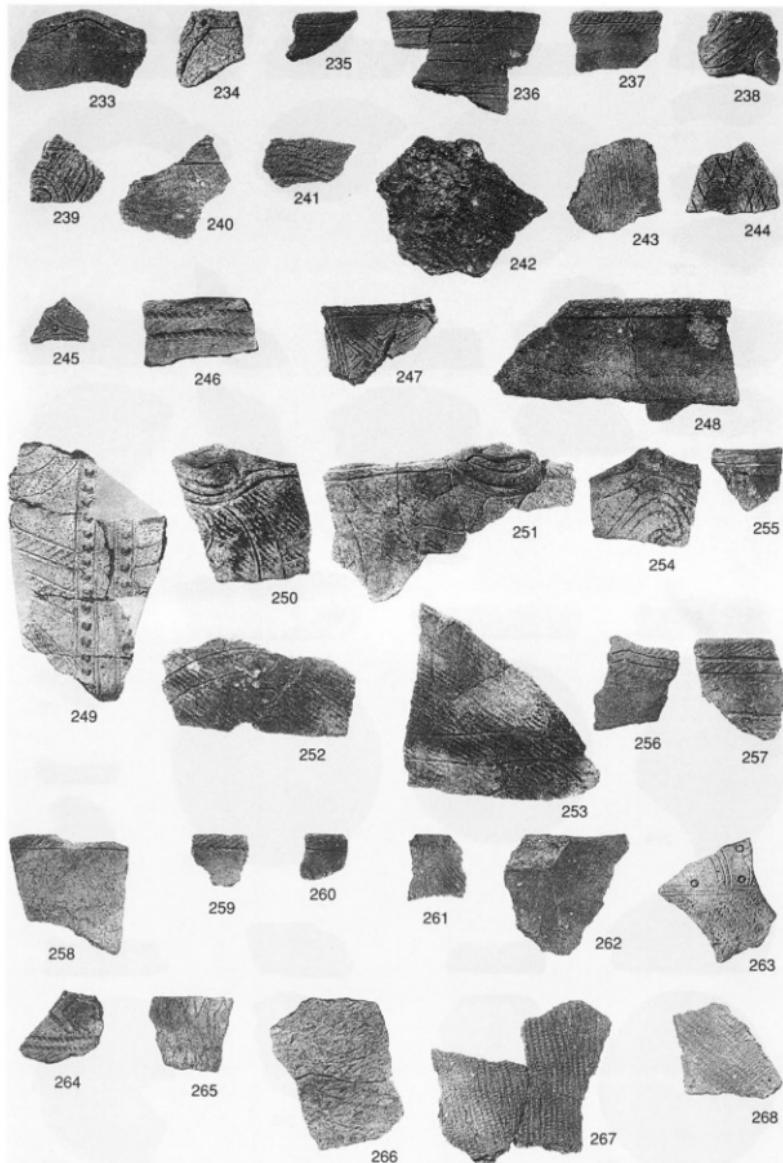
写真図版23 土器 (6)



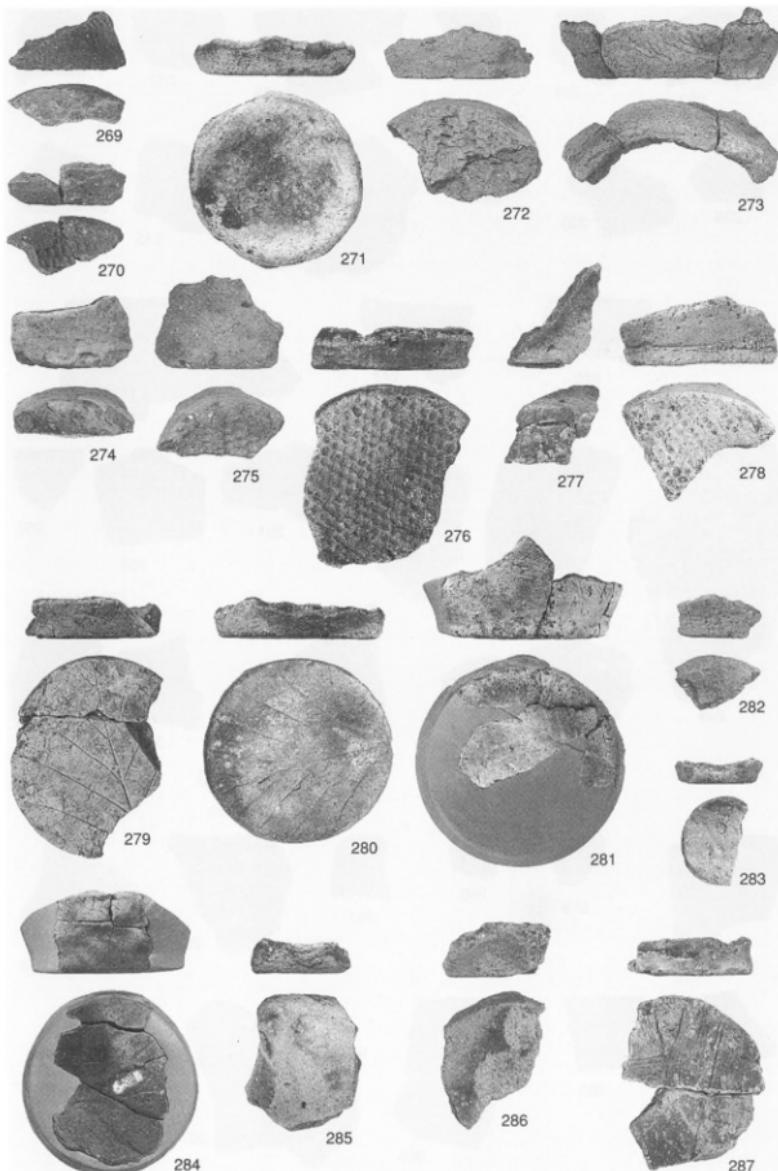
写真図版24 土器 (7)



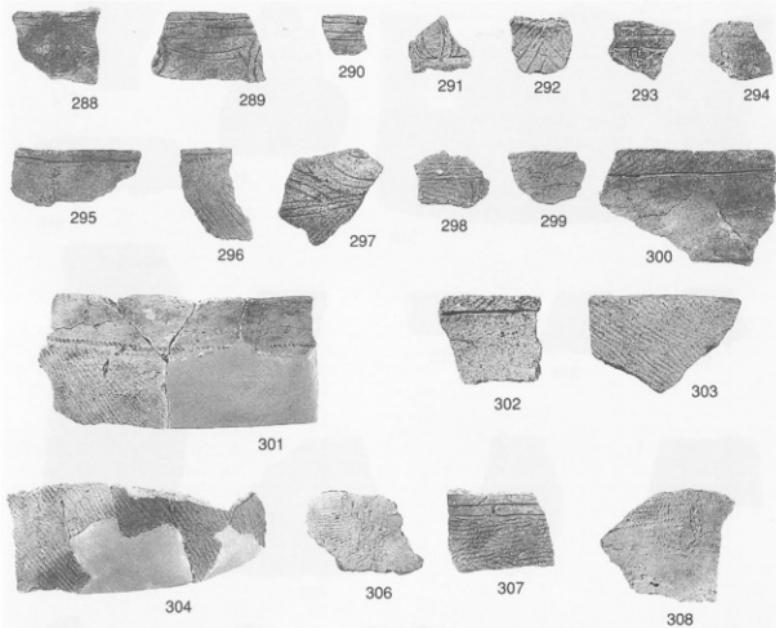
写真図版25 土器 (8)



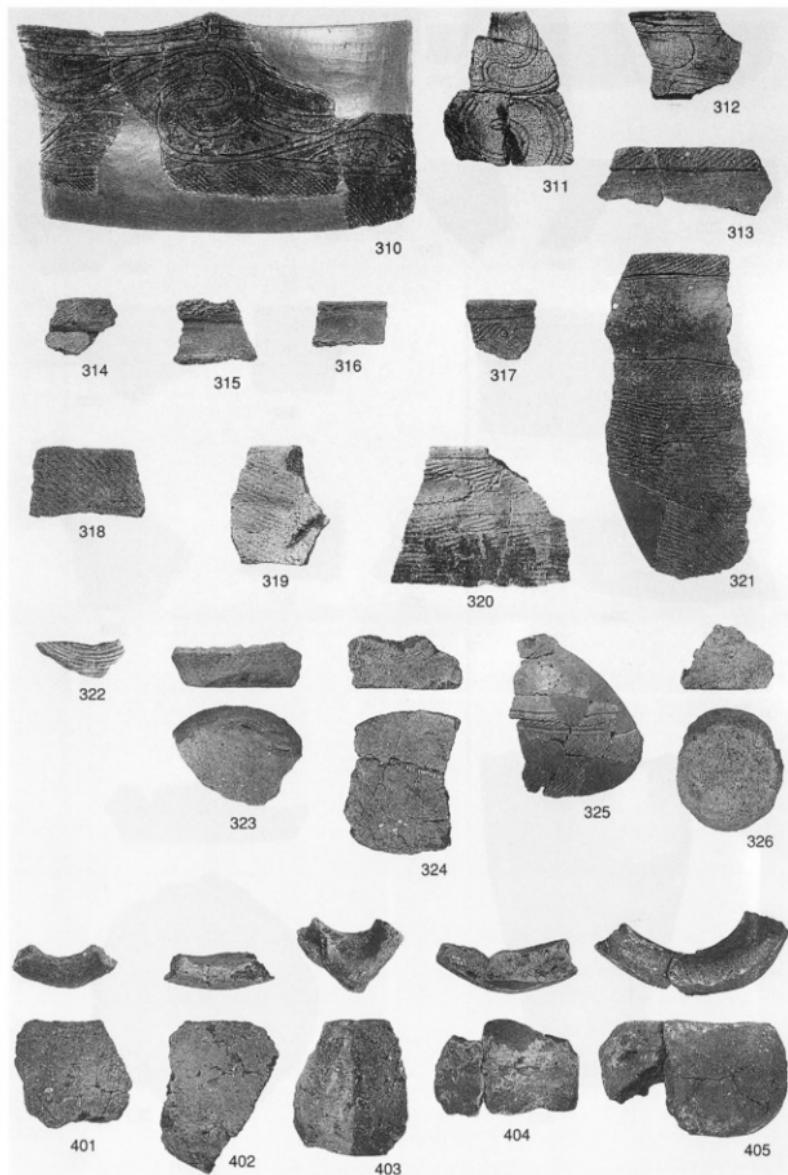
写真図版26 土器 (9)



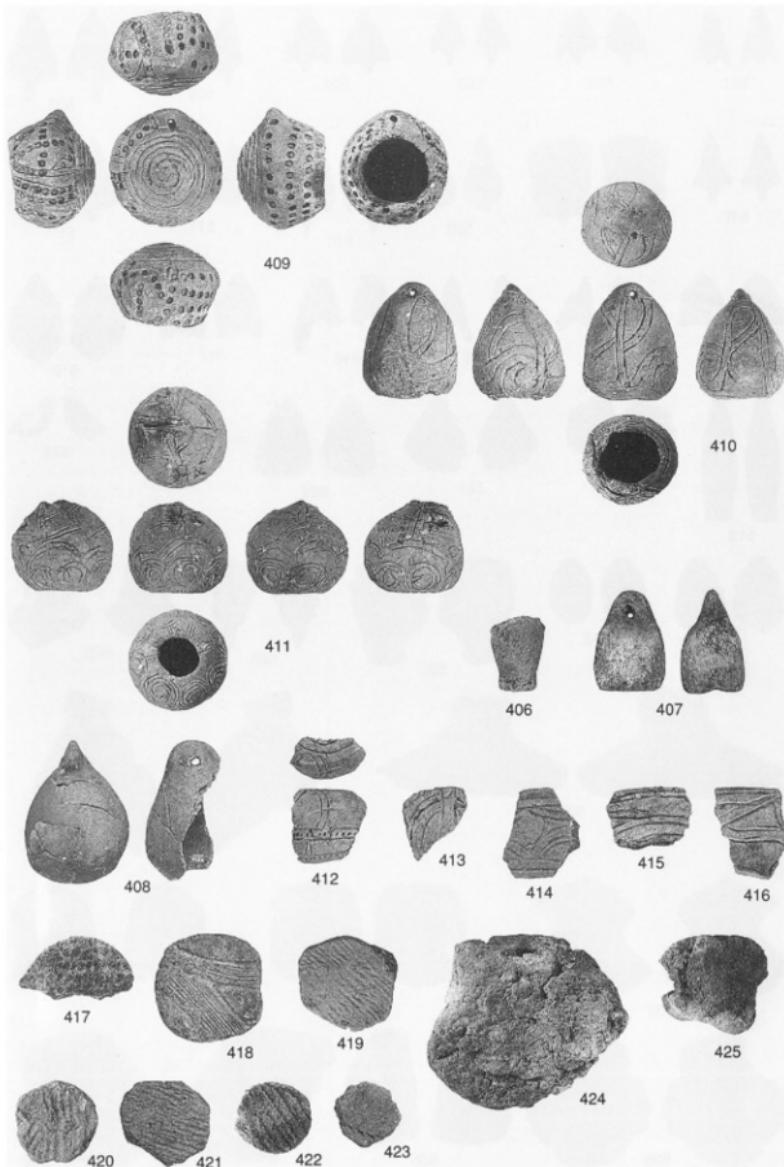
写真図版27 土器 (10)



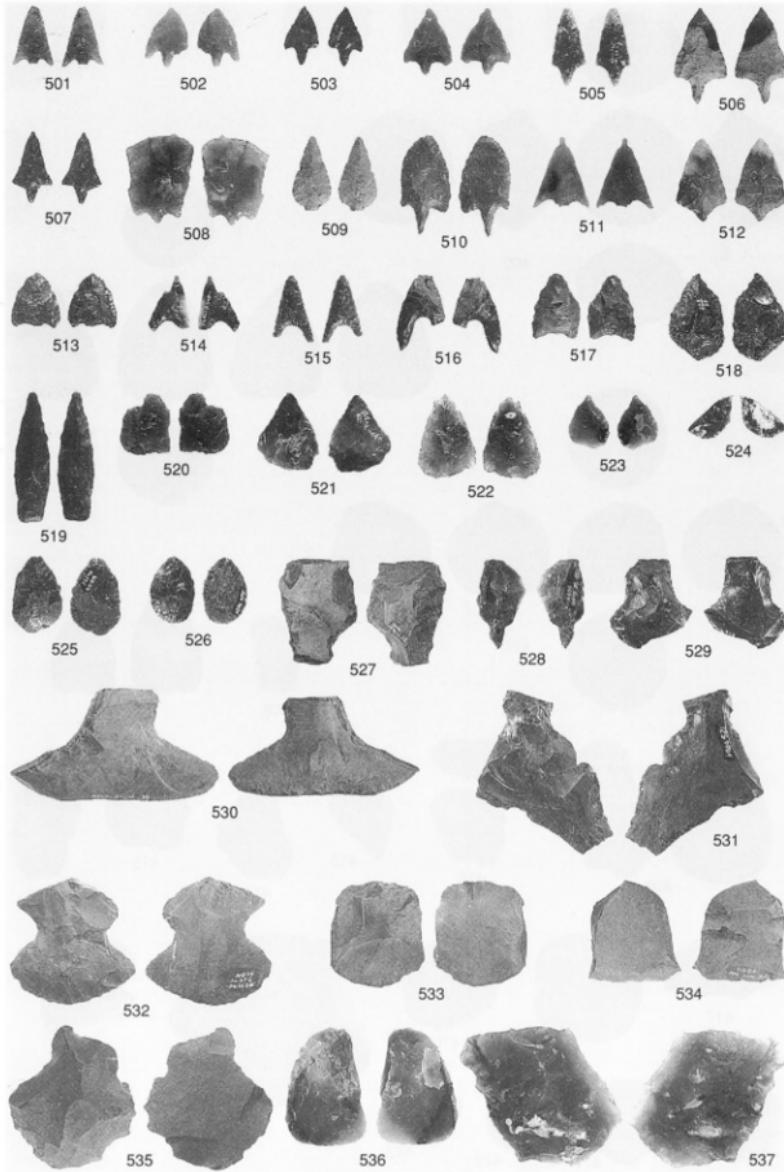
写真図版28 土器 (11)



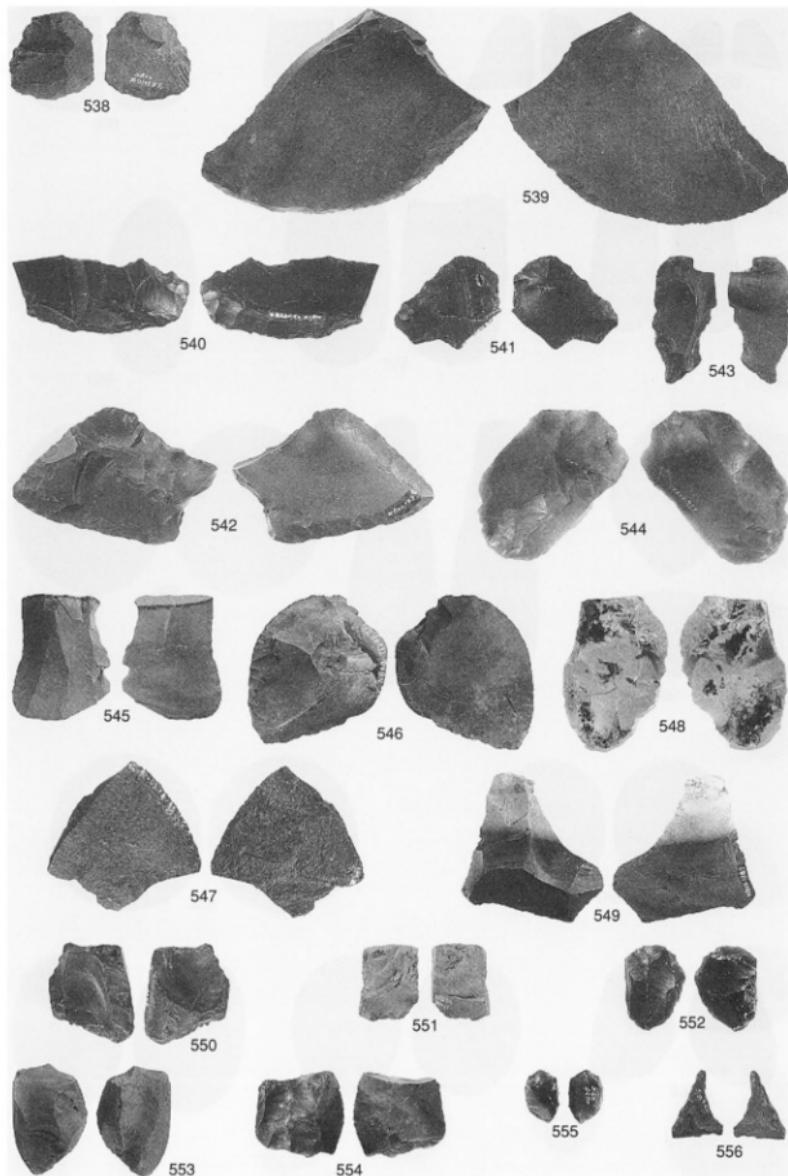
写真図版29 土器 (12)、土製品 (1)



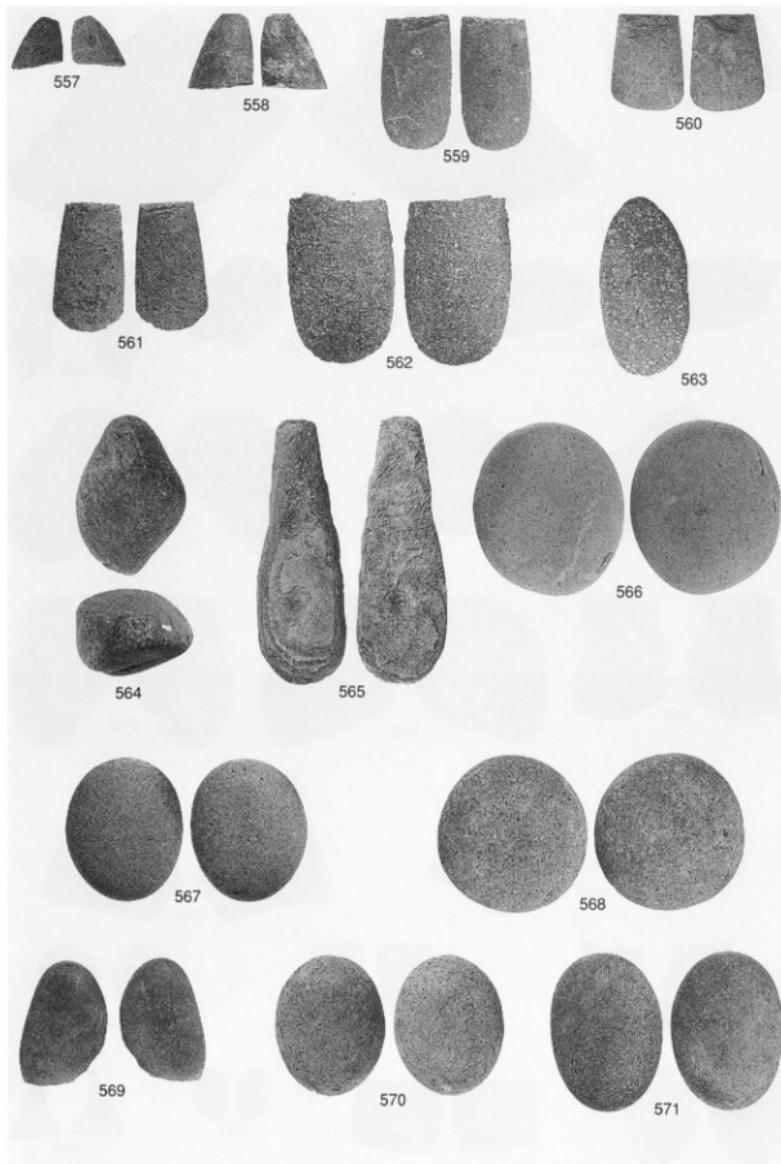
写真図版30 土製品(2)、粘土塊



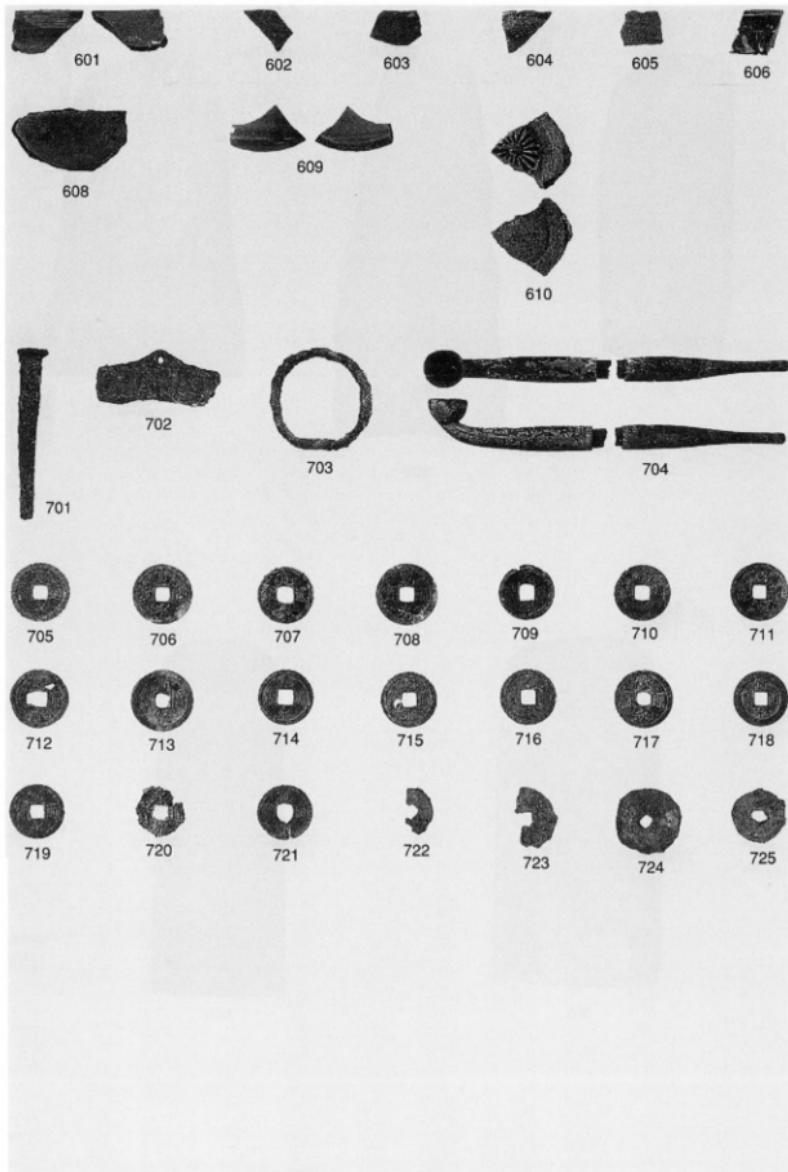
写真図版31 石器 (1)



写真図版32 石器 (2)



写真図版33 石器 (3)



写真図版34 陶器、鉄製品、煙管、錢貨



801



802



803



805



806

写真図版35 近世墓碑

報告書抄録

ふりがな	ぬまぶくろいせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	沼袋遺跡発掘調査報告書							
副書名	一般県道田野畠岩泉線緊急地方道路整備事業関連調査							
卷次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第483集							
編著者名	米田 寛							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡第11地割185番地 TEL(019)638-9001							
発行年月日	2006年2月3日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 。' "	東經 。' "	調査期間	調査面積	調査原因	
沼袋遺跡	岩手県下閉伊郡 田野畠村尾肝要 118番地3ほか	03484 KG21-0127	39度 56分 32秒	141度 49分 51秒	2004.05.19 ~ 2004.10.05	4,910m ²	道路整備事業 に伴う緊急発 掘調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
沼袋遺跡	集落	縄文時代 (後・晩期)	掘立柱建物跡 土坑 埋設土器 焼土遺構 捨て場	2棟 9基 1基 1カ所 2カ所	縄文土器 (後期前葉~晩期) 鐸形型土製品 腕輪形土製品 土偶 剥片石器 (石鎌・石匙ほか) 礫石器 (磨製石斧ほか) 弥生土器 (中期)	江戸時代を主体とする 掘立柱建物跡		
		弥生時代中期						
		江戸時代以降			掘立柱建物跡 土坑(墓壙)			6棟 1基

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第483集

沼袋遺跡発掘調査報告書

一般県道田野畠岩泉線緊急地方道路整備事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成18年2月1日

発行 平成18年2月3日

発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電話 (019) 639-9001

FAX (019) 638-8563

印刷 有限会社 橋本印刷

〒020-0853 岩手県盛岡市本町通1丁目15番29号

電話 (019) 652-1354

